元総社蒼海遺跡群（4）

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

２００６・３

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

調査区遠景（南東から）

Ｈ－19号住居跡竈前遺物出土状況（西から）

Ｈ－19号住居跡出土遺物

はじめに

前橋市の北にそびえる赤城山は、往古から人々とかかわりが深く、親しまれ愛される逍遥の山であります。その悠々と裾野を広げる台地を中心として、岩宿遺跡で知られるように旧石器時代から開けてきた地域で、いたるところで旧石器時代や縄文時代の遺跡が発見されています。

古代において前橋台地を中心に、800余りの古墳が築造されました。東国古墳文化の中心地として栄え、今でも９基もの国史跡指定となる古墳が存在します。

続く律令制の時代に入ると、総社古墳群から連綿と続く山王廃寺、上野国府、上野国分僧寺、上野国分尼寺など「クニ」の中枢施設が次々に造られ、政治・宗教・学問の中心として繁栄いたしました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎬をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東七名城の一つに数えられる厩橋城が築かれました。

近代では、横浜港が開港されると、輸出の花形商品として生糸をもって一番乗りしたのが、前橋の糸商人でした。前橋は、藩をあげて蚕糸に力を注ぎ、我が国初の製糸の機械化に取り組みました。生糸により、横浜と前橋を結ぶシルクロードが開かれ、文化交流が始まりました。このように本市は、歴史溢れる豊かなまちです。

本報告書に掲載いたしました元総社蒼海遺跡群の発掘調査は区画整理事業に伴うもので、上野国府を解明する重要な目的があります。調査により、国府と推定される元総社町から群馬町の国分寺一帯まで集落が存在することが判明いたしました。これらは今後、分析が進めば、「国府のマチ」として解釈されるものと期待されます。

発掘調査にあたりましては、ご協力をいただきました元総社地区の皆さん、市区画整理第二課、調査に従事されました皆さんに厚く御礼申し上げます。

なお、本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成18年３月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団
団　長　　根　岸　　雅

例　　言

1．本報告書は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う元総社遺跡群（4）発掘調査報告書である。
2．調査主体は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団である。
3．発掘調査の要項は次のとおりである。

調　査　場　所	群馬県前橋市元総社町1713　他
発掘調査期間	平成17年9月9日～平成17年11月25日
整理・報告書作成期間	平成17年11月26日～平成18年3月3日
発掘・整理担当者	近藤雅順・池田史人（発掘調査係員）

4．本書の原稿執筆・編集は近藤・池田が行った。
5．発掘調査・整理作業にかかわった方々は次のとおりである。
木村孝充・後藤進一・佐藤佳子・下境　弥・下境米治・城田邦男・曽我　仁・冨澤理恵・内藤　旭
内藤よし・中島利夫・西山勝久・西山光彩・峰岸あや子
6．発掘調査で出土した遺物は、当発掘調査団より前橋市教育委員会に保管を依頼し、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。

凡　　例

1．挿図中に使用した北は、座標北である。
2．挿図に建設省国土地理院発行の1：200,000地形図（宇都宮、長野）、1：25,000地形図（前橋）、1：6,000前橋市現形図を使用した。
3．本遺跡の略称は、17A130－10である。
4．遺構及び遺構施設の略称は、次のとおりである。
J…縄文時代の竪穴住居跡　F…炉跡　H…古墳・奈良・平安時代の竪穴住居跡　T…竪穴状遺構
W…溝跡　U…埋設土器　JD…縄文時代の土坑　D…土坑　P…ピット　I…井戸跡
5．遺構・遺物の実測図の縮尺は、次のとおりである。
遺構　全体図…1：200　住居跡・竪穴状遺構・溝跡・土坑・ピット・井戸跡…1：30・1：60・1：120
竈・炉断面図…1：30
遺物　土器…1/3・1/4　石器・石製品・土製品…2/3・1/2・1/3　鉄器・鉄製品…1/2
瓦…1/2・1/6
6．土器の器種において、本報告書では、口径12.0cm以下・器高4.0cm以下・轆轤整形・酸化焔焼成の坏形土器を「かわらけ」と呼称する。
7．計測値については、（　）は現存値、［　］は復元値を表す。
8．セクション図のPは遺物、Sは石を表す。
9．セクション注記の記号は、締まり・粘性の順で示し、それぞれ以下のように表現する。
◎…締まり・粘性非常にあり、○…締まり・粘性あり、△…締まり・粘性ややあり、×…締まり・粘性なし
10．遺構平面図の ---------- は推定線を表す。
11．スクリーントーンの使用は、次のとおりである。

遺構断面図	構築面…				
遺物実測図	須恵器断面…		灰釉陶器断面…	灰釉陶器表面…	
	緑釉陶器断面…		煤付着…	粘土付着…	
	漆付着…		赤色塗彩…		

12．主な火山降下物等の略称と年代は次のとおりである。
As-B　（浅間B軽石：供給火山・浅間山、1108年）
Hr-FP　（榛名二ッ岳伊香保テフラ：供給火山・榛名山、6世紀中葉）
Hr-FA　（榛名二ッ岳渋川テフラ：供給火山・榛名山、6世紀初頭）
As-C　（浅間C軽石：供給火山・浅間山、4世紀前半～中葉）

目　　次

はじめに……i

I 調査に至る経緯……1

II 遺跡の位置と環境

1 遺跡の立地……1

2 歴史的環境……1

III 調査方針と経過

1 調査方針……7

2 調査経過……7

IV 基本層序……9

V 遺構と遺物

1 竪穴住居跡……10

2 竪穴状遺構……14

3 溝跡……14

4 土坑・ピット・井戸跡……15

5 グリッド等出土遺物……15

VI まとめ……25

図　版

口絵１　調査区遠景（南東から）
　　２　Ｈ－19号住居跡竈前遺物出土状況（西から）
　　３　Ｈ－19号住居跡出土遺物

PL. １　Ｊ－１・２号住居跡、Ｕ－１号埋設土器
　　２　調査区全景、Ｈ－１・２・７号住居跡
　　３　Ｈ－３・４・５号住居跡
　　４　Ｈ－６・８・９号住居跡、調査区北側全景
　　５　Ｈ－10・11・12号住居跡
　　６　Ｈ－14・16・17・18号住居跡
　　７　Ｈ－19号住居跡
　　８　Ｈ－20、Ｗ－１～３号溝跡、Ｉ－１号井戸跡
　　９　Ｊ－１号住居跡、Ｕ－１号土坑出土遺物
　　10　Ｊ－２号住居跡出土遺物
　　11　Ｈ－１・２・４号住居跡出土遺物
　　12　Ｈ－４・５・９・10号住居跡出土遺物
　　13　Ｈ－10・11・12・15・16号住居跡出土遺物
　　14　Ｈ－16・18・19号住居跡出土遺物
　　15　Ｈ－19号住居跡出土遺物
　　16　Ｈ－19・20・21号住居跡、溝跡、土坑出土遺物
　　17　石器・石製品・土製品
　　18　鉄器・鉄製品・瓦

挿　図

Fig. １　元総社蒼海遺跡群位置図
　　２　周辺遺跡図
　　３　元総社蒼海遺跡群位置図とグリッド設定図
　　４　基本層序
　　５　元総社蒼海遺跡（４）全体図
　　６　Ｊ－１・２号住居跡
　　７　Ｈ－１・３・７号住居跡
　　８　Ｈ－２号住居跡
　　９　Ｈ－４・５号住居跡
　　10　Ｈ－８・９号住居跡
　　11　Ｈ－６・10号住居跡
　　12　Ｈ－11号住居跡
　　13　Ｈ－12号住居跡
　　14　Ｈ－13・14・15号住居跡
　　15　Ｈ－16・17号住居跡
　　16　Ｈ－18・20号住居跡
　　17　Ｈ－19号住居跡
　　18　Ｈ－21・22号住居跡
　　19　Ｔ－１号竪穴状遺構、Ｗ－１溝跡
　　20　Ｗ－２・６号溝跡
　　21　Ｗ－３～５号溝跡
　　22　Ｕ－１・JD－２号土坑、Ｄ－１～９号土坑
　　23　Ｄ－10～13号土坑、Ｐ－１～11号ピット、Ｉ－１号井戸跡
　　24　Ｊ－１号住居跡、Ｕ－１号土坑出土遺物
　　25　Ｊ－２号住居跡出土遺物
　　26　Ｈ－１～３号住居跡出土遺物
　　27　Ｈ－４・５号住居跡出土遺物
　　28　Ｈ－10・11号住居跡出土遺物
　　29　Ｈ－12・15・16号住居跡出土遺物
　　30　Ｈ－18・19号住居跡出土遺物
　　31　Ｈ－19号住居跡出土遺物
　　32　Ｈ－19・20・21号住居跡出土遺物
　　33　Ｔ－１号竪穴状遺構、溝跡、土坑出土遺物
　　34　石器・石製品・土製品
　　35　鉄器・鉄製品・文字瓦
　　36　瓦(1)
　　37　瓦(2)
　　38　瓦(3)
　　39　瓦(4)
　　40　瓦(5)
　　41　瓦(6)

表

Tab. １　元総社蒼海遺跡群周辺遺跡概要一覧表
　　２　竪穴住居跡一覧表
　　３　溝跡計測表
　　４　土坑・ピット・井戸跡計測表
　　５　縄文時代出土土器観察表
　　６　古墳・奈良・平安時代出土土器観察表
　　７　石器観察表
　　８　石製品・土製品観察表
　　９　鉄器・鉄製品観察表
　　10　瓦観察表

I　調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴い実施され、6年目にあたる。本調査地は、周辺で埋蔵文化財調査が長年に渡って行われていることから、遺跡地であることが確認されている。

平成17年7月15日付けで、前橋市長　高　木　政　夫より前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出された。前橋市教育委員会ではこれを受け、内部組織である前橋市埋蔵文化財発掘調査団　団長　根岸　雅に対し、調査実施を協議し、調査団はこれを受諾した。平成17年8月26日、調査依頼者である前橋市長　高　木　政　夫と前橋市埋蔵文化財発掘調査団　団長　根岸　雅との間で、本発掘調査の委託契約を締結し、9月9日に現地での発掘調査を開始するに至った。

なお、遺跡名称「元総社蒼海遺跡群（4）」（遺跡コード：17A130－10）の「元総社蒼海遺跡群」は区画整理事業名を採用し、数字の「（4）」は過年度に実施した調査と区別するために付したものである。

II　遺跡の位置と環境

1　遺跡の立地

前橋市は、利根川が赤城・榛名の両火山の裾合を経て関東平野を望むところに位置し、地形・地質の特徴から、北東部の赤城火山斜面、南西部の前橋台地利根川右岸、南部から南西部にかけての前橋台地利根川左岸、東部の広瀬川低地帯の4つの地域に分けられる。

本遺跡の立地する前橋台地は、約24,000年前の浅間山爆発によって引き起こされた火山泥流堆積物とそれを被覆するローム層（水成）から成り立っている。台地の東部は広瀬川低地帯と直線的な崖で画されていて、台地の中央には現利根川が貫流している。現在の利根川の流路は中世以降のもので、旧利根川は現在の広瀬川流域と推定される。台地の西部には榛名山麓の相馬ヶ原扇状地が広がり、榛名山を源とする中小河川が利根川に向かって流下し、台地面を刻んで細長い微高地を作り上げている。総社・元総社付近の染谷川や牛池川は、微高地との比高3m～5mを測り、段丘崖上は高燥な台地で、桑畑を主とした畑地として利用されてきた。

本遺跡は、前橋市街地から利根川を隔て、西へ約3kmの地点、前橋市元総社町地内に所在している。南東へ約1kmの所に上野国総社神社があり、すぐ西には関越自動車道が南北に走っている。さらに、遺跡地の南側には国道17号、主要地方道前橋・群馬・高崎線が東西に走り、東側には市道大友・石倉線が南北に走り、これらの幹線道路を中心にオフィスビルや大規模小売店が進出している。本遺跡はこれらの幹線道路から奥に入ったところに位置し、周囲には田畑が多い住宅地という静かで落ち着いた環境である。

2　歴史的環境

本遺跡地周辺には、古墳時代後期から終末までの上野地域と中央政権との関連をうかがわせる総社古墳群と山王廃寺、古代の中心地であった上野国府、さらに、中世には長尾氏により国府の堀割りを利用し築かれたとされる蒼海城があり、歴史的環境に優れている。周辺の埋蔵文化財発掘調査によって、これまで連綿と続いてきた歴史を物語る多くの新しい知見が集積されている。

縄文時代の遺跡としては、前期・中期の集落跡が検出された産業道路東・西遺跡や上野国分僧寺・尼寺中間地

Fig. 1　元総社蒼海遺跡群位置図

域が筆頭に挙げられ、縄文文化を考える上で重要な資料といえる。

弥生時代の調査例は少ない。当時の稲作の様子を示す水田・集落跡等が検出された日高遺跡、後期住居跡が検出された上野国分僧寺・尼寺中間地域や桜ヶ丘遺跡、下東西遺跡等に散見するだけである。

古墳時代の遺跡としては、まず本遺跡のおもに北に広がる総社古墳群が挙げられる。総社古墳群を代表するものには、前方後円墳である遠見山古墳、川原石を用いた積石塚である王山古墳、前方部と後円部にそれぞれ石室をもつ二段に築造された前方後円墳の総社二子山古墳、横穴式石室をもつ方墳の愛宕山古墳、県内終末期と考えられ仏教文化の影響を強く受けた方墳の宝塔山古墳・蛇穴山古墳がある。また、宝塔山古墳の南西500mには白鳳期の建立と考えられる山王廃寺跡（放光寺）がある。さらにこの寺の塔心礎や石製鴟尾、根巻石等の石造物群は、宝塔山古墳の石棺や蛇穴山古墳の石室と同系統の石造技術を駆使して加工されている。これらのことから、この寺は上野地域を治めていた「上毛野氏」の氏寺であり、この古墳群には「上毛野氏」一族が葬られているとも考えられている。これらから、この地が「車評」の中心地として、仏教文化が古墳文化と併存しながら機能していた様子が窺える。

奈良・平安時代に至ると、上野国府、国分僧寺、国分尼寺の建設と相まって、本地域は古代の政治的・経済的・文化的中心地としての様相を呈してくる。律令期における国司の政治活動の拠点で地方を統治する機能をもつ国府は、元総社地区に置かれたとされる。

国府に関連する遺跡には、県下最大級の掘立柱建物跡が検出された元総社小学校校庭遺跡や、「國厨」・「曹司」・「国」・「邑厨」等と書かれた墨書土器や人形が出土した元総社寺田遺跡、律令期の掘立柱建物跡と考えられる柱穴が検出された元総社宅地遺跡がある。また、国府域の推定を可能にした大規模な東西方向の溝跡が検出された閑泉樋遺跡と南北方向の溝跡が検出された元総社明神遺跡の調査成果により、国府域の東外郭線が想定されるに至った。さらに近年では、元総社小見内III遺跡や元総社小見内IV遺跡から、国分尼寺の東南隅から国府の中心部に向かうと思われる溝跡が検出されたり、官人の用いたと考えられる円面硯、巡方（腰帯具）も出土し、国府について考えるうえで貴重な資料となっている。

国分僧寺は大正15年に国指定史跡となり、昭和40年代からは部分的ながら調査が進められるようになった。本格的な発掘調査は昭和55年12月から始まり、主要伽藍の礎石、築垣、堀等が確認されている。さらに国分尼寺の調査では、昭和44・45年に推定中軸線上のトレンチ調査が行われ伽藍配置が推定できるようになった。さらに平成12年に前橋市埋蔵文化財発掘調査団で南辺の寺域確認調査を行い、東南隅と西南隅の築垣、それと平行する溝跡や道路状遺構が確認された。国分僧寺・尼寺周辺では、関越自動車道建設に伴う発掘調査が行われ、上野国分僧寺・尼寺中間地域では、当時の大規模な集落跡や掘建柱建物跡群が検出されている。

また、群馬町の調査等により、本遺跡から約1.5km南の地点にN－64°－E方向の東山道（国府ルート）があることが推定されている。また、推定日高道は、日高遺跡で検出された幅約4.5mの道路状遺構を国府方面へ延長したものである。これらは、当時の交通網を物語る重要な遺構である。

中世に至り、永享元年(1429)、上野国守護代の長尾氏によって古代国府跡に築かれた蒼海城は城郭としての機能を有し県内でも最古級に位置づけられる。しかも、県下最初の城下町を形成したと考えられている。蒼海城の縄張りは国府と関係が深く、現在の本地域の主要道路はこの縄張りに沿って作られていると推測される。

このように歴史的に重要な役割を果たしてきた総社・元総社地区であるが、その中でも上野国府が所在したと推定される元総社地区は注目される地域の一つである。元総社蒼海土地区画整理事業に伴い、平成11年より継続的に本地域の発掘調査が行われている。これにより、手つかず状態であった本地域の全容が明らかになっていくであろう。今後、この調査の進捗によって、上野国府や蒼海城が解明されていくことを期待する。

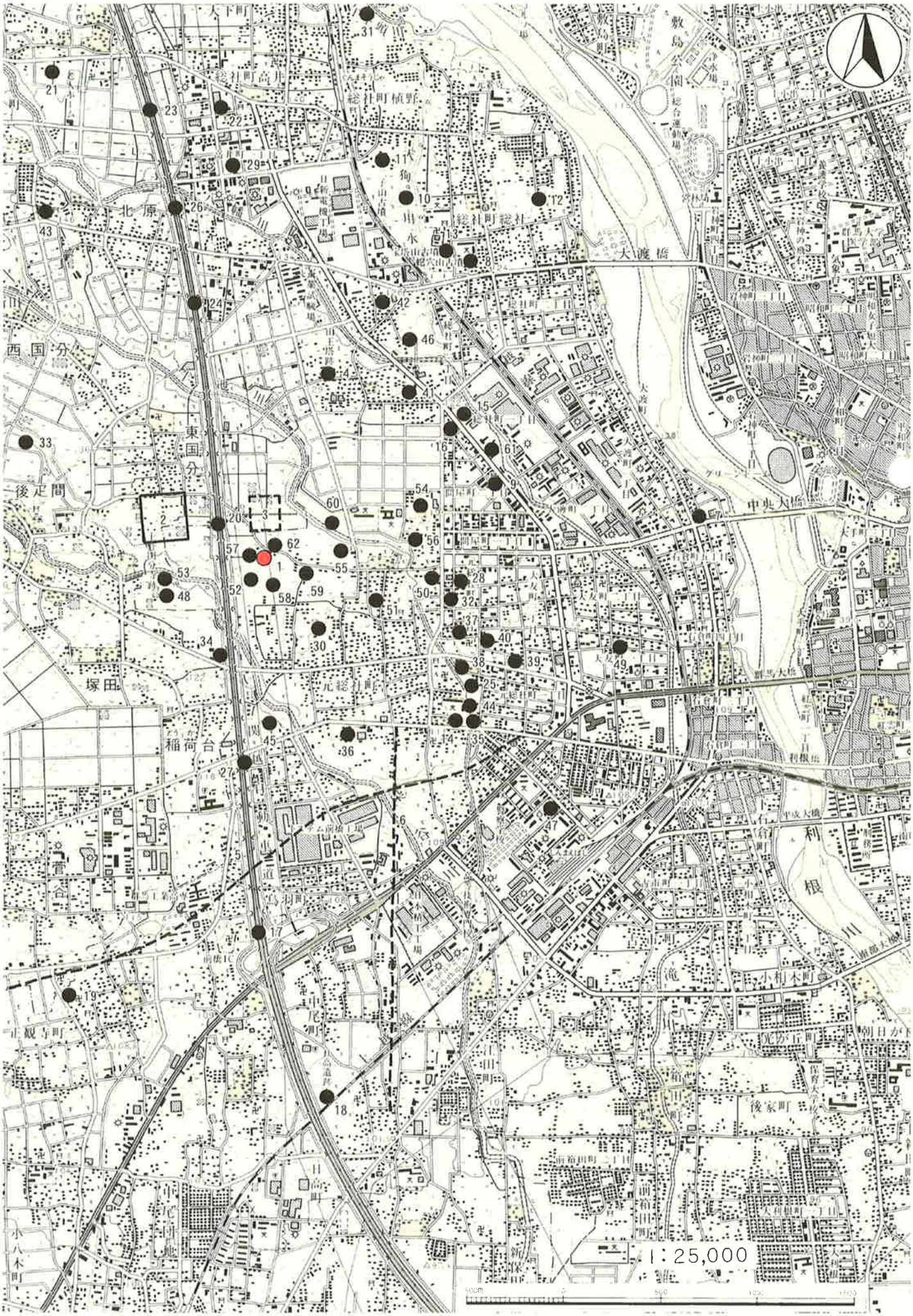

1:25,000
北原
西国分
東国分
後定間
塚田
稲荷台
大渡橋
中央大橋
利根
小利木町
後家町
敷島公園
総社町
元総社町
大友町
小八木町

Fig. 2　周辺遺跡図

Tab. 1　元総社蒼海遺跡群周辺遺跡概要一覧表

番号	遺　跡　名	調査年度	時代：主な遺構・出土遺物
1	元総社蒼海遺跡群（４）	2005	本遺跡
2	上野国分寺跡（県教委）	1980～88	奈良：金堂基壇・塔基壇
3	上野国分尼寺跡	(1999)	奈良：西南隅・東南隅築垣
4	山王廃寺跡	(1974)	古墳：塔心礎・根巻石
5	東山道（推定）		
6	日高道（推定）		
7	王山古墳	1972	古墳：前方後円墳（６Ｃ中）
8	蛇穴山古墳	1975	古墳：方墳（８Ｃ初）
9	稲荷山古墳	1988	古墳：円墳（６Ｃ後半）
10	愛宕山古墳	1996	古墳：円墳（７Ｃ初）
11	総社二子山古墳	未調査	古墳：前方後円墳（６Ｃ末～７Ｃ初）
12	遠見山古墳	未調査	古墳：前方後円墳（５Ｃ後半）
13	宝塔山古墳	未調査	古墳：方墳（７Ｃ末）
14	元総社小学校校庭遺跡	1962	平安：掘立柱建物跡・柱穴群・周濠跡
15	産業道路東遺跡	1966	縄文：住居跡
16	産業道路西遺跡		縄文：住居跡
17	中尾遺跡（事業団）	1976	奈良・平安：住居跡
18	日高遺跡（事業団）	1977	弥生：水田跡・方形周溝墓・住居跡・木製農耕具、平安：条里制水田跡
19	正観寺遺跡Ⅰ～Ⅳ(高崎市)	1979～81	弥生：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
20	上野国分僧寺・尼寺中間地域（事業団）	1980～83	縄文：住居跡・配石遺構、弥生：住居跡・方形周溝墓、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡、中世：掘立柱建物跡・溝状遺構・道路状遺構
21	清里南部遺跡群・Ⅲ	1980	縄文：ピット、奈良・平安：住居跡、溝跡
22	中島遺跡	1980	奈良・平安：住居跡
23	下東西遺跡（事業団）	1980～84	縄文：屋外埋甕、弥生：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・柵列、中世：住居跡・溝跡
24	国分境遺跡（事業団）	1990	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
	国分境Ⅱ遺跡	1991	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
	国分境Ⅲ遺跡（群馬町）	1991	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・畠跡、中世：土壙墓
25	元総社明神遺跡Ⅰ～ⅩⅢ	1982～96	古墳：住居跡・水田跡・堀跡、奈良・平安：住居跡・溝跡・大形人形、中世：住居跡・溝跡・天目茶碗
26	北原遺跡（群馬町）	1982	縄文：土坑・集石遺構、古墳：水田跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡
27	鳥羽遺跡（事業団）	1978～83	古墳：住居跡・鍛冶場跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡（神殿跡）
28	閑泉樋遺跡	1983	奈良・平安：溝跡（上幅6,5～７ｍ、下幅3,24m、深さ２ｍ）
29	柿木遺跡・Ⅱ遺跡	1983，88	奈良・平安：住居跡・溝跡
30	草作遺跡	1984	古墳：住居跡、平安：住居跡、中世：井戸跡
31	桜ケ丘遺跡		弥生：住居跡
	総社桜ケ丘遺跡・Ⅱ遺跡	1985，87	奈良・平安：住居跡
32	閑泉樋南遺跡	1985	古墳：住居跡、奈良・平安：溝跡
33	後疋間遺跡Ⅰ～Ⅲ(群馬町)	1985～87	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：道路状遺構
34	塚田村東遺跡（群馬町）	1985	平安：住居跡
35	寺田遺跡	1986	平安：溝跡・木製品
36	天神遺跡・Ⅱ遺跡	1986，88	奈良・平安：住居跡
37	屋敷遺跡・Ⅱ遺跡	1986，95	古墳：住居跡、平安：住居跡、中世：堀跡・石敷遺構
38	大友屋敷Ⅱ・Ⅲ遺跡	1987	古墳：住居跡、平安：住居跡・溝跡・地下式土坑
39	堰越遺跡	1987	奈良・平安：住居跡・溝跡
40	堰越Ⅱ遺跡	1988	平安：住居跡
41	昌楽寺廻向遺跡・Ⅱ遺跡	1988	奈良・平安：住居跡
42	村東遺跡	1988	古墳：住居跡・溝跡、奈良・平安：住居跡、中世：堀跡
43	熊野谷遺跡	1988	縄文：住居跡、平安：住居跡・溝跡
	熊野谷Ⅱ・Ⅲ遺跡	1989	平安：住居跡

番号	遺　跡　名	調査年度	時代：主な遺構・出土遺物
44	元総社寺田遺跡Ⅰ～Ⅲ（事業団）	1988～91	古墳：水田跡・溝跡、奈良・平安：住居跡・溝跡・人形・斎串・墨書土器、中世：溝跡
45	弥勒遺跡・Ⅱ遺跡	1989，95	古墳：住居跡、平安：住居跡
46	大屋敷遺跡Ⅰ～Ⅵ	1992～2000	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：掘立柱建物跡・地下式土坑・溝跡
47	元総社稲葉遺跡	1993	縄文：土坑、平安：住居跡・瓦塔
48	上野国分寺参道遺跡	1996	古墳：住居跡、平安：住居跡
49	大友宅地添遺跡	1998	平安：水田跡
50	総社閑泉明神北遺跡	1999	古墳：畠跡・水田跡・溝跡、中世：溝跡
	総社閑泉明神北Ⅱ遺跡	2001	古墳：住居跡・溝跡、平安：住居跡・溝跡
	総社閑泉明神北Ⅴ遺跡	2004	古墳：水田跡、奈良・平安：住居跡
51	元総社宅地遺跡１～23トレンチ	2000	古墳：住居跡、平安：住居跡・掘立柱建物跡・鍛冶場跡・溝跡・道路状遺構、中世：溝跡、近世：住居跡・五輪塔・椀類
52	元総社小見遺跡	2000	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡・道路状遺構
53	元総社西川遺跡（事業団）	2000	古墳：住居跡・畠跡、奈良・平安：住居跡・溝跡
54	総社甲稲荷塚大道西遺跡	2001	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：畠跡、近世：溝跡
	総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡	2001	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・溝跡、近世：溝跡
55	元総社小見内Ⅲ遺跡	2001	古墳：住居跡・溝跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡、中世：掘立柱建物跡、溝跡
	元総社小見内Ⅵ遺跡	2003	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：井戸跡
56	総社甲稲荷塚大道西Ⅲ遺跡	2002	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・畠跡・溝跡
	総社閑泉明神北Ⅲ遺跡	2002	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
	総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡	2003	古墳：畠跡、中世：畠跡
57	元総社小見Ⅱ遺跡	2002	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡、中世：溝跡・道路状遺構
	元総社小見Ⅳ遺跡	2003	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
	元総社小見Ⅴ遺跡	2003	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：掘立柱建物跡
	元総社小見Ⅵ遺跡	2004	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
	元総社小見Ⅶ遺跡	2004	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
58	元総社小見Ⅲ遺跡	2002	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：溝跡・道路状遺構
	元総社草作Ⅴ遺跡	2002	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
59	元総社小見内Ⅳ遺跡	2002	奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡、中世：土壙墓・掘立柱建物跡・溝跡
	元総社小見内Ⅷ遺跡	2003	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：竪穴状遺構
	元総社小見内Ⅸ遺跡	2004	奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
	元総社小見内Ⅹ遺跡	2004	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・工房跡・粘土採掘坑・金片・金粒、中世：溝跡・土壙墓
60	元総社北川遺跡（事業団）	2002～04	古墳：水田跡、奈良・平安：住居跡・畠跡、中・近世：掘立柱建物跡・水田跡・火葬墓
61	稲荷塚道東遺跡（事業団）	2003	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・溝跡・竈構築材採掘痕・井戸跡
62	元総社小見内Ⅶ遺跡	2003	縄文：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡、中世：畠跡、溝跡

＊調査年度の欄の（　）は調査開始年度を表す。
＊遺跡名の欄の（事業団）は㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団を表す。

Ⅲ　調査方針と経過

1　調査方針

委託調査箇所は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業の道路予定地で、調査面積は約448㎡である。グリッド座標については、国家座標（日本測地系）X＝＋44.000・Y＝－72.200を基点（X０・Y０）とする４mピッチのものを使用し、西から東へX44、X45、X46…、北から南へY117、Y118、Y119…となり、グリッドの呼称は北西杭の名称を使用した。

本遺跡のX49・Y124の公共座標は次のとおりである。

日本測地系　　X＝＋43504.000　　Y＝－72004.000

世界測地系　　X＝＋43858.908　　Y＝－72295.753

調査方法は、表土掘削・遺構確認・杭打ち・遺構掘下・遺構精査・測量・全景写真撮影の手順で行った。

図面作成は、平板・簡易遣り方測量を用い、遺構平面図は原則として１/20、住居跡竈・炉は１/10の縮尺で作成した。遺物については平面分布図を作成し、台帳に各種記録をしながら収納した。包含層の遺物はグリッド単位で収納し、重要遺物については分布図・遺物台帳の記載を行い収納した。

2　調査経過

本調査は９月９日より現地調査を開始した。調査地は畑作地であるため耕作土と遺構面の土とを分ける必要があった。したがって、まず、重機(バックフォー0.4㎥)にて約20㎝程現耕作土を掘削し一カ所に集めた。その後、更に約20㎝程掘り下げAs-B軽石混土層を取り除き、As-C・Hr-FP軽石を含む黄褐色土の面において遺構確認調査を行った。９月14日には杭打ち測量を行い遺構の掘り下げ・精査開始に至った。

調査区は北西から南東方向に向かって次第に低くなるので、調査は北側より進めることとした。北側は奈良・平安時代の遺構がやや高い密度で検出され、遺構の新旧関係の判断に苦心した。南側は遺構の密度が少し低くなり、また、西部は遺構が浅くスムースに調査が進んだ。

11月２日にハイライダー（23m）による調査区全景撮影を行い、11月４日から二面目・遺構構築状況等の調査を行った。北側・南側で縄文時代の遺構が検出されたが、地山と遺構覆土との違いが分かりづらく遺構確認に時間を要した。また、瓦等を多量に使用している竈も確認できた。そして、精査の結果、縄文竪穴住居跡２軒、土師竪穴住居跡22軒、竪穴状遺構１軒、溝跡６条、縄文土坑２基、土坑13基、ピット11基、井戸跡１基を検出した。11月25日に調査を終了し、その後調査区の埋め戻しを行った。

12月20日より文化財保護課庁舎に戻り、整理作業を開始した。遺物の水洗い・注記・接合・復元・実測・写真撮影・収納、図面の修正・整理・収納、写真の整理・収納を行い、３月３日にすべての作業を終了した。

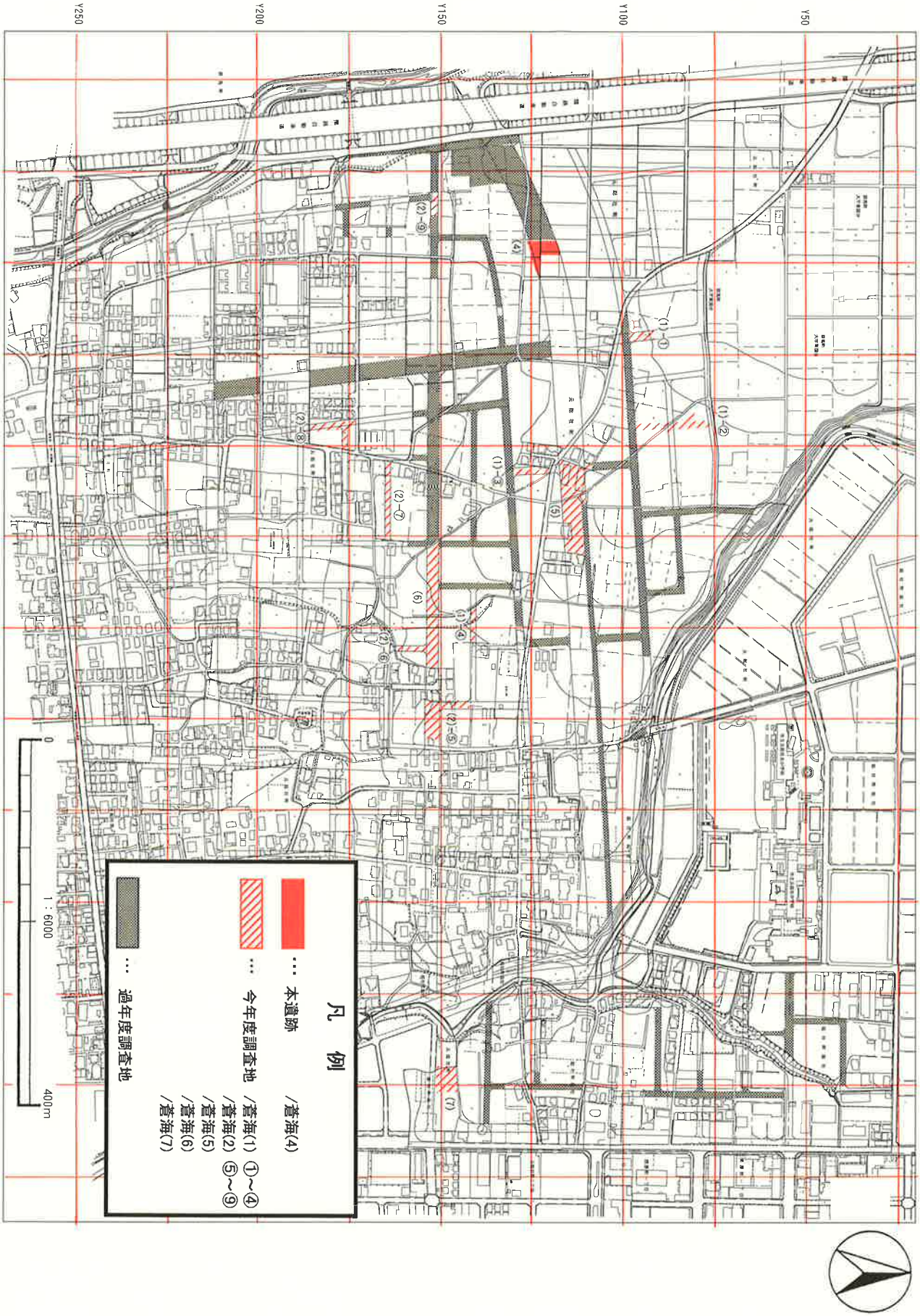


Fig. 3　元総社蒼海遺跡群位置図とグリッド設定図

Ⅳ 基本層序

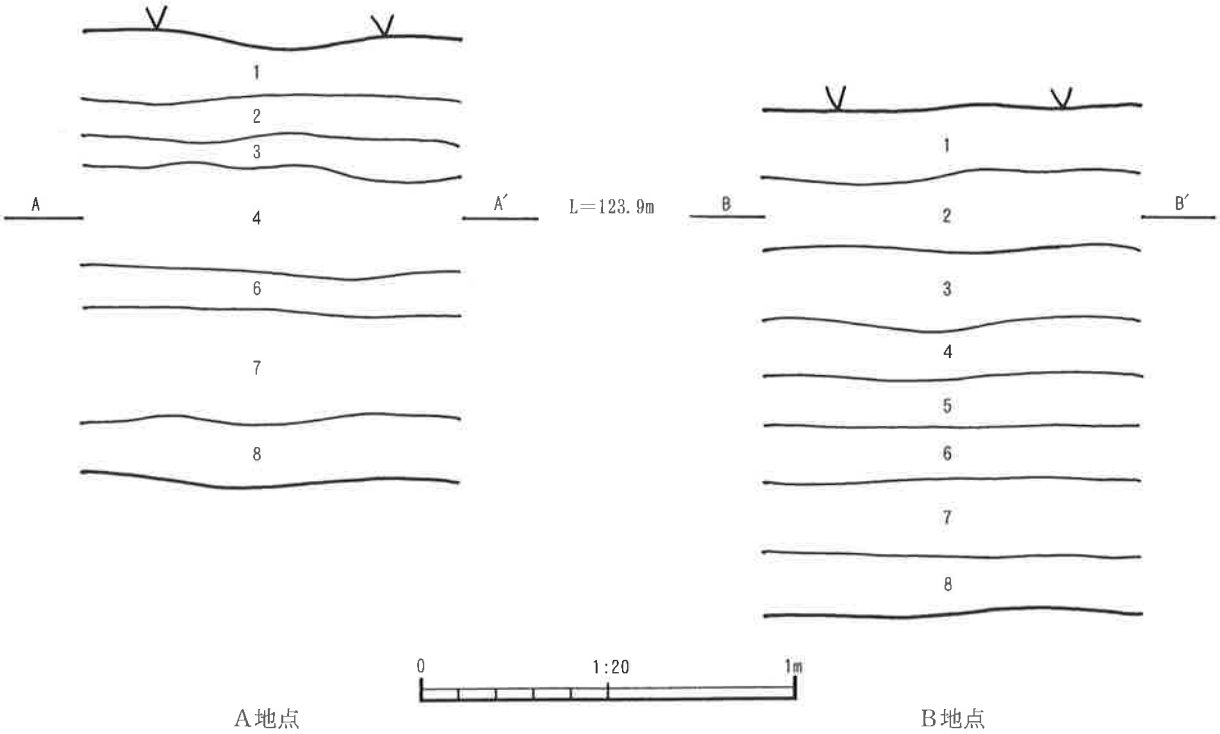


Fig. 4　基本層序

本遺跡地内のＡ地点、Ｂ地点の地層の堆積は、下記のとおりである。

1	灰黄褐色細砂層（10YR4/2）	現耕作土
2	褐色細砂層（7.5YR4/3）	現代の水田跡
3	灰黄褐色粗砂層（10YR4/2）	締まり○　粘性△ As-B 混土層
4	にぶい黄褐色細砂層（10YR4/3）	締まり○　粘性○ As-C・Hr-FP20％
5	黒褐色細砂層（10YR3/2）	締まり○　粘性○（Ｂ地点に存在） As-C10％
6	暗褐色微砂層（10YR3/3）	締まり○　粘性◎ 白色・赤色の軽石１％（総社砂層）
7	にぶい黄褐色微砂層（10YR5/4）	締まり○　粘性◎ 赤色の軽石２％（総社砂層）
8	明黄褐色微砂層（2.5YR6/６）	締まり◎　粘性△ （総社砂層）

V　遺構と遺物

1　竪穴住居跡

Ｊ－１号住居跡（Fig. 6 ・24・34、PL. 1 ・ 9 ・14）

位置　X47・48、Y123・124グリッド　**主軸方向**　N－42°－E　**形状等**　隅丸方形と推測される。東西（4.36）m、南北（2.60）m、壁現高58cmを測る。　**面積**（5.95）m²　**床面**　ほぼ平坦な床面。北西隅に底部を除去した埋設土器有。　**炉**　検出されず。　**重複**　H－17、W－３、JD－２と重複しており、新旧関係は本遺構→JD－２、H－17、W－３の順である。　**出土遺物**　縄文土器109点・石類９点。そのうち、深鉢８点、石錘１点、削器１点、打製石斧１点を図示した。　**備考**　時期は埋土や出土遺物から縄文時代前期（諸磯ｃ式）と考えられる。

Ｊ－２号住居跡（Fig. 6 ・25・34、PL. 1 ・ 9 ・14）

位置　X45・46、Y124・125グリッド　**主軸方向**　N－22°－E　**形状等**　隅丸方形と推定される。東西（4.56）m、南北（3.74）m、壁現高70cmを測る。　**面積**（11.32）m²　**床面**　ほぼ平坦な床面。南側に底部を除去した埋設土器有。　**炉**　南西部（Ｆ１）と中央やや南（Ｆ２）の２ヶ所より地床炉が検出された。Ｆ１は長軸36cm、短軸28cmの円形で深さ11cmを図り、F2は長軸40cm、短軸33cmの円形で深さ8.5cmを図る。　**重複**　H－19、W－２・３・６と重複しており、新旧関係は本遺構→H－19、W－２・３・６の順である。　**出土遺物**　縄文土器375点・石類20点。そのうち、深鉢14点、小壺１点、石鏃１点、打製石斧１点を図示した。　**備考**　時期は埋土や出土遺物から縄文時代前期（諸磯ｃ式）と考えられる。

Ｈ－１号住居跡（Fig. 7 ・26、PL. 2 ・10）

位置　X44、Y121・122グリッド　**主軸方向**　N－110°－E　**形状等**　方形と推測される。東西（3.14）m、南北（2.20）m、壁現高36cmを測る。　**面積**（5.52）m²　**床面**　中央部をH－７に切られるが、残っている部分は平坦で堅緻な床面。　**竈**　南壁セクションの東側部で褐色粘土ブロックが認められたが検出されず。　**重複**　H－７・８、D－７・12と重複しており、新旧関係はH－８、D－12→本遺構→H－７→D－７の順である。　**出土遺物**　縄文土器１点・土師器150点・須恵器114点・鉄類１点・灰釉陶器２点。そのうち、坏３点を図示した。　**備考**　時期は埋土や出土遺物から９世紀中葉と考えられる。

Ｈ－２号住居跡（Fig. 8 ・26・36、PL. 2 ・10）

位置　X45・46、Y118・119グリッド　**主軸方向**　N－99°－E　**形状等**　長方形。東西3.28m、南北［4.16］m、壁現高54cmを測る。　**面積**［12.20］m²　**床面**　平坦で堅緻な床面。周溝有。　**竈**　東壁中央南より検出され、主軸方向N－104°－E、全長113cm、最大幅76cm、焚口部幅34cmを測る。構築材として、粘土、両袖と燃焼部壁に瓦、支脚に川原石を使用している。また、掘り方部は瓦・遺物を混ぜた15～20cmの粘土を貼付している。　**重複**　H－４、W－２、D－５と重複しており、新旧関係はW－２→本遺構→H－４→D－５の順である。　**出土遺物**　縄文土器７点・土師器438点・須恵器322点・瓦29点・鉄類２点・灰釉陶器９点。そのうち、坏３点、高台椀４点、羽釜１点、瓦５点を図示した。　**備考**　時期は埋土や出土遺物から10世紀前半と考えられる。

Ｈ－３号住居跡（Fig. 7 ・26、PL. 3 ）

位置　X44・45、Y119・120グリッド　**主軸方向**　N－81°－E　**形状等**　方形と推定される。東西（2.86）m、南北（4.28）m、壁現高61cmを測る。　**面積**（10.38）m²　**床面**　平坦で堅緻な床面。　**竈**　東壁中央やや南より検出され、主軸方向N－82°－E、全長120cm、最大幅100cm、焚口部幅54cmを測る。構築材として、粘土を使用している。　**重複**　H－５・９・14と重複しており、新旧関係はH－14→本遺構→H－５・９の順である。　**出土遺**

物　縄文土器２点・土師器80点・須恵器15点・瓦２点。そのうち、坏２点を図示した。　**備考**　時期は埋土や出土遺物から７世紀代と考えられる。

Ｈ－４号住居跡（Fig.９・27・34・35・37、PL.３・10・14）
位置　X45・46、Y118・119グリッド　**主軸方向**　Ｎ－100°－Ｅ　**形状等**　長方形。東西2.92m、南北3.34m、壁現高44cmを測る。　**面積**　9.13m²　**床面**　平坦で堅緻な床面。　**竈**　東壁中央やや南より検出され、主軸方向Ｎ－104°－Ｅ、全長92cm、最大幅64cm、焚口部幅34cmを測る。構築材として、粘土、両袖に川原石、燃焼部壁に瓦、天井部に凝灰岩を使用している。また、燃焼部掘り方には川原石を混ぜた20cm程の粘土を貼付している。　**重複**　Ｈ－２、Ｗ－２、Ｄ－５と重複しており、新旧関係はＷ－２→Ｈ－２→本遺構→Ｄ－５の順である。　**出土遺物**　縄文土器21点・土師器206点・須恵器156点・瓦10点・石類１点・鉄類３点・灰釉陶器６点・緑釉陶器１点・土製品１点。そのうち、高台皿１点、坏２点、高台椀２点、甕２点、紡錘車１点、土製円盤１点、飾り金具１点、釘２点、瓦３点を図示した。　**備考**　時期は埋土や出土遺物からＨ－２とそれほど時期差はない10世紀前半と考えられる。

Ｈ－５号住居跡（Fig.９・27・37、PL.４・10）
位置　X44、Y120・121グリッド　**主軸方向**　Ｎ－87°－Ｅ　**形状等**　方形と推測される。東西(0.53)m、南北(3.74)m、壁現高45cmを測る。　**面積**（1.55）m²　**床面**　平坦で堅緻な貼り床。　**竈**　東壁中央やや南より検出され、主軸方向Ｎ－93°－Ｅ、全長78cm、最大幅69cm、焚口部幅40cmを測る。構築材として、粘土、支脚に瓦を使用している。　**重複**　Ｈ－３・14と重複しており、新旧関係はＨ－14→Ｈ－３→本遺構の順である。　**出土遺物**　土師器28点・瓦１点。そのうち、鉢１点、甕１点、瓦１点を図示した。　**備考**　時期は埋土や出土遺物から８世紀後半と考えられる。

Ｈ－６号住居跡（Fig.11、PL.４）
位置　X46・47、Y120・121グリッド　**主軸方向**　Ｎ－66°－Ｅ　**形状等**　方形と推定される。東西（2.30）m、南北（3.50）m、壁現高53cmを測る。　**面積**（4.47）m²　**床面**　全体的に平坦で堅緻な床面。　**竈**　検出されず。　**重複**　Ｈ－11、Ｄ－９と重複しており、新旧関係は本遺構→Ｈ－11、Ｄ－９の順である。　**出土遺物**　縄文土器10点・土師器44点・須恵器７点・瓦３点　**備考**　時期は埋土や重複関係からHr-FP降下以降から９世紀中葉と考えられる。

Ｈ－７号住居跡（Fig.７、PL.2）
位置　X44、Y122グリッド　**主軸方向**　Ｎ－117°－Ｅ　**形状等**　方形と推測される。東西(1.60)m、南北(1.29)m、壁現高38cmを測る。　**面積**　(1.41) m²　**床面**　平坦な床面。　**竈**　検出されず。　**重複**　Ｈ－１・８、Ｄ－７と重複しており、新旧関係はＨ－８→Ｈ－１→本遺構→Ｄ－７の順である。　**出土遺物**　縄文土器４点・土師器25点・須恵器25点・瓦４点。　**備考**　出土遺物からＨ－１とそれほど時期差はないと思われるが、埋土や重複関係から９世紀中葉からAs-B降下以前と考えられる。

Ｈ－８号住居跡（Fig.10、PL.４）
位置　X44、Y121・122グリッド　**主軸方向**　Ｎ－76°－Ｅ　**形状等**　方形と推測される。東西(0.68)m、南北(2.80)m、壁現高54cmを測る。　**面積**（1.16)m²　**床面**　平坦な床面。　**竈**　東壁より検出され、主軸方向Ｎ－75°－Ｅ、全長（86）cm、最大幅（60）cmを測る。構築材として、粘土を使用している。　**重複**　Ｈ－１・７、Ｄ－７と重複しており、新旧関係は本遺構→Ｈ－１・７→Ｄ－７の順である。　**出土遺物**　土師器１点・須恵器１点。　**備考**　時期は埋土や重複関係からHr-FP降下以降から９世紀中葉と考えられる。

Ｈ－９号住居跡（Fig.10・27・34、PL.４・10・11・14）

位置　X44・45、Y120・121グリッド　**主軸方向**　Ｎ－107°－Ｅ　**形状等**　長方形。東西3.20m、南北4.50m、壁現高40cmを測る。　**面積**　13.23m²　**床面**　平坦で部分的に堅緻な床面。　**竈**　東壁中央南より検出され、主軸方向Ｎ－114°－Ｅ、全長81cm、最大幅73cm、焚口部幅37cmを測る。構築材として、粘土を使用している。　**重複**　Ｈ－３・14と重複しており、新旧関係はＨ－14→Ｈ－３→本遺構の順である。　**出土遺物**　縄文土器23点・土師器470点・須恵器136点・瓦８点・石類５点・鉄類１点。そのうち、坏６点、臼玉１点、紡錘車１点、砥石１点を図示した。　**備考**　時期は埋土や出土遺物から９世紀中葉と考えられる。

Ｈ－10号住居跡（Fig.11・28・34・35・37、PL.５・11・14）

位置　X46・47、Y119・120グリッド　**主軸方向**　Ｎ－113°－Ｅ　**形状等**　長方形。東西（3.50）m、南北（4.60）m、壁現高43cmを測る。　**面積**（14.00）m²　**床面**　全体的に平坦で堅緻な貼り床。　**竈**　東壁中央やや南より検出され、主軸方向Ｎ－109°－Ｅ、全長（78）cm、最大幅136cm、焚口部幅35cmを測る。構築材として、粘土を使用している。　**重複**　Ｈ－13・15、Ｄ－９と重複しており、新旧関係はＨ－13→Ｈ－15→本遺構→Ｄ－９の順である。　**出土遺物**　縄文土器20点・土師器430点・須恵器177点・瓦６点・石類１点・土製品２点・鉄類３点。そのうち、蓋２点、坏３点、鉢１点、甕１点、紡錘車１点、土錘１点、刀子２点、瓦１点を図示した。　**備考**　時期は埋土や出土遺物から９世紀前半と考えられる。

Ｈ－11号住居跡（Fig.12・28・34・37・38・39、PL.５・11）

位置　X46・47、Y120～122グリッド　**主軸方向**　Ｎ－91°－Ｅ　**形状等**　長方形。東西3.88m、南北4.34m、壁現高62cmを測る。　**面積**　15.37m²　**床面**　平坦で堅緻な床面。西壁寄りに堅緻な高まり有り。　**竈**　東壁中央南より検出され、主軸方向Ｎ－90°－Ｅであり、全長130cm、最大幅117cm、焚口部幅58cmを測る。構築材として、粘土、両袖および燃焼部壁に瓦を使用している。　**重複**　Ｈ－６、Ｗ－２と重複しており、新旧関係はＨ－６・Ｗ－２→本遺構の順である。　**出土遺物**　縄文土器34点・土師器761点・須恵器257点・瓦55点・石類４点・灰釉陶器２点。そのうち、坏６点、高台椀２点、甕２点、臼玉２点、土錘１点、瓦９点を図示した。　**備考**　時期は埋土や出土遺物から９世紀中葉と考えられる。

Ｈ－12号住居跡（Fig.13・29・35・39、PL.５・11・14）

位置　X50・51、Y123・124グリッド　**主軸方向**　Ｎ－102°－Ｅ　**形状等**　長方形。東西2.66m、南北［3.72］m、壁現高62cmを測る。　**面積**［9.14］m²　**床面**　平坦で部分的に堅緻な床面。　**竈**　東壁中央やや南より検出され、主軸方向Ｎ－97°－Ｅであり、全長110cm、最大幅65cm、焚口部幅44cmを測る。構築材として、粘土を使用している。　**重複**　Ｈ－16、Ｗ－４と重複しており、新旧関係はＨ－16→本遺構→Ｗ－４の順である。　**出土遺物**　縄文土器54点・土師器581点・須恵器147点・瓦６点・石類２点・土製品１点・鉄類３点。そのうち、坏３点、高台椀１点、甕１点、釘３点、瓦１点を図示した。　**備考**　時期は埋土や出土遺物から９世紀前半と考えられる。

Ｈ－13号住居跡（Fig.14）

位置　X46・47、Y118・119グリッド　**主軸方向**　Ｎ－45°－Ｗ　**形状等**　方形と推定される。東西（4.30）m、南北（3.42）m、壁現高66cmを測る。　**面積**（8.30）m²　**床面**　平坦な床面。　**竈**　検出されず。　**重複**　Ｈ－10・15と重複しており、新旧関係は本遺構→Ｈ－15→Ｈ－10の順である。　**出土遺物**　縄文土器４点・土師器29点・須恵器９点。　**備考**　時期は埋土や重複関係から、上限はHr-FP降下以降、下限は８世紀と考えられる。

Ｈ－14号住居跡（Fig.14、PL.６）

位置　X44・45、Y120・121グリッド　**主軸方向**　Ｎ－72°－Ｅ　**形状等**　方形と推定される。東西（4.16）m、南北（4.24）m、壁現高58cmを測る。　**面積**（11.06）m²　**床面**　平坦な床面。　**竈**　東壁中央やや南より検出され、

主軸方向N－70°－Eであり、全長89cm、最大幅87cm、焚口部幅32cmを測り、掘り方はほぼ方形。構築材として、粘土を使用している。　**重複**　H－3・5・9と重複しており、新旧関係は本遺構→H－3→H－5・9の順である。　**出土遺物**　縄文土器27点・土師器308点・須恵器89点・瓦1点・鉄類1点。また、285gと410gの菰編み石2個。　**備考**　時期は埋土や重複関係から、上限はHr-FP降下以降、下限は8世紀と考えられる。

H－15号住居跡（Fig.14・29、PL.11）

位置　X47、Y118・119グリッド　**主軸方向**　N－74°－E　**形状等**　方形と推測される。東西(1.22)m、南北(3.66)m、壁現高53cmを測る。　**面積**（2.25）m²　**床面**　平坦な床面。　**竈**　検出されず。　**重複**　H－10・13と重複しており、新旧関係はH－13→本遺構→H－10の順である。　**出土遺物**　土師器1点、須恵器1点。また、225g～555gの菰編み石3個。そのうち、坏1点、甕1点を図示した。　**備考**　時期は埋土や出土遺物から7世紀後半から8世紀前半と考えられる。

H－16号住居跡（Fig.15・29・34、PL.6・11・12・14）

位置　X49～51、Y123グリッド　**主軸方向**　N－75°－E　**形状等**　方形と推定される。東西(4.72)m、南北(2.64)m、壁現高51cmを測る。　**面積**（8.04）m²　**床面**　平坦で堅緻な床面。　**竈**　検出されず。　**重複**　H－12、W－4と重複しており、新旧関係は本遺構→H－12→W－4の順である。　**出土遺物**　縄文土器10点・土師器286点・須恵器31点・瓦2点・石類4点・鉄類1点・灰釉陶器1点。また、500g～930gの菰編み石11個。そのうち、坏4点、小壺1点、小型甕1点、甑1点、甕2点、石製模造品2点を図示した。　**備考**　時期は埋土や出土遺物から6世紀後半と考えられる。

H－17号住居跡（Fig.15・34、PL.6・14）

位置　X47・48、Y123～125グリッド　**主軸方向**　N－75°－E　**形状等**　方形と推定される。東西（4.91）m、南北（4.06）m、壁現高63cmを測る。　**面積**（17.61）m²　**床面**　中央部をH－20に切られるが、残存部は平坦で堅緻な床面。　**竈**　東壁より検出され、主軸方向N－79°－E、全長160cm、最大幅101cm、焚口部幅38cmを測る。構築材として、粘土を使用している。　**重複**　J－1、JD－2、H－20と重複しており、新旧関係はJ－1→JD－2→本遺構→H－20の順である。　**出土遺物**　縄文土器65点・土師器79点・須恵器18点・石類6点。また、455gと535gの菰編み石2個。そのうち、臼玉1点を図示した。　**備考**　時期は埋土や出土遺物、重複関係からH－20より古いがそれほど時期差はなく、6世紀代と考えられる。

H－18号住居跡（Fig.16・30・34、PL.6・12）

位置　X45・46、Y123・124グリッド　**主軸方向**　N－117°－E　**形状等**　長方形。東西（3.10）m、南北（4.28）m、壁現高24cmを測る。　**面積**（11.25）m²　床面　平坦な床面で竈前は堅緻。　**竈**　東壁中央南より検出され、主軸方向N－113°－E、全長（91）cm、最大幅（84）cm、焚口部幅（53）cmを測る。構築材として、粘土、袖および支脚に川原石を使用している。　**重複**　W－2、I－1、P－7と重複しており、新旧関係はW－2→本遺構→I－1・P－7の順である。　**出土遺物**　縄文土器68点・土師器173点・須恵器124点・瓦18点・石類6点・灰釉陶器3点。そのうち、坏1点、大甕1点、砥石1点を図示した。　**備考**　時期は埋土や出土遺物から9世紀代と考えられる。

H－19号住居跡（Fig.17・30・31・32・34・35・39・40、PL.7・12・13・14・15・16）

位置　X45・46、Y124・125グリッド　**主軸方向**　N－119°－E　**形状等**　長方形。東西3.30m、南北（3.50）m、壁現高34cmを測る。　**面積**（9.23）m²　床面　平坦な床面で竈前は堅緻。　**竈**　東壁中央南より検出され、主軸方向N－118°－E、全長108cm、最大幅96cm、焚口部幅40cmを測る。構築材として、粘土、両袖に瓦・凝灰岩・土器など、天井に瓦・凝灰岩、また煙道に瓦を使用している。　**重複**　J－2、W－6、I－1と重複しており、

新旧関係はＪ－２→Ｗ－６→本遺構→Ｉ－１の順である。　**出土遺物**　縄文土器83点・土師器309点・須恵器389点・瓦48点・石類３点・鉄類７点・灰釉陶器11点。また、7870ｇの平らな石、110ｇ～600ｇの菰編み石７個。そのうち、かわらけ１点、坏３点、高台椀12点、小鉢１点、甕１点、羽釜２点、甑１点、土製円盤１点、鉄鏃１点、刀子１点、瓦５点を図示した。　**備考**　時期は埋土や出土遺物から10世紀前半と考えられる。

Ｈ－20号住居跡（Fig.16・32、PL.８・13）

位置　X47・48、Y124・125グリッド　**主軸方向**　Ｎ－126°－Ｗ　**形状等**　方形と推定される。東西（2.74）ｍ、南北（2.86）ｍ、壁現高52cmを測る。　**面積**（6.44）㎡　**床面**　平坦な床面。　**竈**　西壁より検出され、主軸方向Ｎ－129°－Ｗ、全長（104）cm、最大幅（62）cm、焚口部幅35cmを測る。構築材として、粘土を使用している。　**重複**　Ｈ－17と重複しており、新旧関係はＨ－17→本遺構の順である。　**出土遺物**　縄文土器130点・土師器157点・須恵器36点・石類14点。そのうち、坏２点、高坏１点、長胴甕１点を図示した。　**備考**　時期は埋土や出土遺物から６世紀後半と考えられる。

Ｈ－21号住居跡（Fig.18・32・34、PL.13・14）

位置　X44・45、Y124～126グリッド　**主軸方向**　Ｎ－71°－Ｅ　**形状等**　方形と推定される。東西（3.78）ｍ、南北（4.20）ｍ、壁現高60cmを測る。　**面積**（7.91）㎡　**床面**　平坦な床面。　**竈**　南壁より検出され、主軸方向Ｎ－178°－Ｗ、全長(72)cm、最大幅(54)cmを測る。構築材として、粘土を使用している。　**重複**　Ｗ－６、Ｄ－11と重複しており、新旧関係は本遺構→Ｄ－11の順である。(Ｗ－６との重複については不明)　**出土遺物**　縄文土器109点・土師器54点・須恵器16点・瓦２点・石類４点。そのうち、坏２点、甕１点、臼玉１点を図示した。　**備考**　時期は埋土や出土遺物から６世紀後半と考えられる。

Ｈ－22号住居跡（Fig.18）

位置　X47・48、Y123グリッド　**主軸方向**　Ｎ－53°－Ｅ　**形状等**　方形と推測される。東西(1.78)ｍ、南北(1.38)ｍ、壁現高66cmを測る。　**面積**（0.94）㎡　**床面**　ほぼ平坦な床面。　**竈**　検出されず。　**重複**　Ｗ－３と重複しており、新旧関係は本遺構→Ｗ－３の順である。　**備考**　時期は埋土や重複関係から、上限はHr-FP降下以降、下限はAs-Ｂ降下以前と考えられる。

２　竪穴状遺構

Ｔ－１号竪穴状遺構（Fig.19・33）

位置　X48・49、Y123・124グリッド　**主軸方向**　Ｎ－49°－Ｅ　**形状等**　長方形。東西2.30m、南北2.50m、壁現高59cmを測る。　**面積**　4.56㎡　**床面**　ほぼ平坦な床面。　**出土遺物**　縄文土器13点・土師器45点・須恵器６点。そのうち、坏２点、甕２点を図示した。　**備考**　時期差がある遺物がほぼ同じ所から出土している。時期は埋土からHr-FP降下以降からAs-Ｂ降下以前と考えられる。

３　溝　　跡

Ｗ－１号溝跡（Fig.19・33、PL.８）

位置　X45～47、Y117・118グリッド　**主軸方向**　Ｎ－87°－Ｗ　**形状等**　Ｖ字形。長さ8.0m、深さ143cm、最大上幅(308)cm、最大下幅50cmを測る。　**重複**　Ｗ－２と重複しており、新旧関係はＷ－２→本遺構の順である。　**出土遺物**　縄文土器11点・土師器117点・須恵器46点・瓦16点・石類１点・鉄類１点・緑釉陶器１点。そのうち、緑釉陶器１点を図示した。　**備考**　流水の痕跡無し。断面形はＶ字形であるが薬研掘りに近い。時期は埋土からAs-Ｂ降下以降と考えられる。

W－２号溝跡（Fig.20、PL.８）

位置　X45・46、Y118～125グリッド　**主軸方向**　N－２°－W　**形状等**　U字形。長さ北側16.2m・南側9.2m、深さ34cm、最大上幅114cm、最大下幅65cmを測る。　**重複**　J－２、H－２・４・11・18、W－１・３と重複しており、新旧関係はJ－２→本遺構→H－２・４・11・18、W－１・３の順である。　**出土遺物**　縄文土器89点・土師器121点・須恵器51点・瓦６点。　**備考**　流水の痕跡無し。時期は埋土や重複関係からHr-FP降下以降から９世紀と考えられる。

W－３号溝跡（Fig.21・33・41、PL.８・13）

位置　X45～48、Y123～125グリッド　**主軸方向**　N－45°－E　**形状等**　U字形。長さ13.5m、深さ42cm、最大上幅114cm、最大下幅40cmを測る。　**重複**　J－１・２、H－22、W－２・６と重複しており、新旧関係はJ－１・２、H－22、W－２・６→本遺構の順である。　**出土遺物**　縄文土器172点・土師器136点・須恵器178点・瓦94点・石類７点。そのうち、高台皿１点・高台椀１点・瓦８点を図示した。　**備考**　流水の痕跡無し。床面近くから時期差のある壊れた遺物が多く検出されている。時期は埋土からHr-FP降下以降からAs-B降下以前と考えられる。

W－４号溝跡（Fig.21・33）

位置　X49～52、Y123グリッド　**主軸方向**　N－78°－W　**形状等**　U字形。長さ15.0m、深さ43cm、最大上幅85cm、最大下幅56cmを測る。　**重複**　H－12・16、W－５と重複しており、新旧関係はH－12・16、W－５→本遺構の順である。　**出土遺物**　縄文土器19点・土師器58点・須恵器15点・瓦３点・石類１点。そのうち、坏１点を図示した。　**備考**　流水の痕跡無し。時期は埋土からAs-B降下以降と考えられる。

W－５号溝跡（Fig.21）

位置　X52、Y123グリッド　**主軸方向**　N－４°－W　**形状等**　U字形。長さ2.5m、深さ35cm、最大上幅106cm、最大下幅50cmを測る。　**重複**　W－４と重複しており、新旧関係は本遺構→W－４の順である。　**出土遺物**　縄文土器11点・土師器18点・須恵器10点・瓦１点。　**備考**　流水の痕跡無し。時期は埋土や重複関係からHr-FP降下以降からAs-B降下以前と考えられる。

W－６号溝跡（Fig.20）

位置　X45・46、Y125グリッド　**主軸方向**　N－80°－W　**形状等**　U字形。長さ4.4m、深さ18cm、最大上幅75cm、最大下幅45cmを測る。　**重複**　H－19・21、W－３と重複しており、新旧関係は本遺構→W－３の順である。（H－21との重複については不明）　**出土遺物**　縄文土器10点・土師器３点・瓦１点。　**備考**　流水の痕跡無し。時期は埋土や重複関係からHr-FP降下以降からAs-B降下以前と考えられる。

４　土坑・ピット・井戸跡（Fig.22・23・24・33、PL.８・９・13）

土坑・ピット・井戸跡については、Tab.4　土坑・ピット・井戸跡計測表（P17）を参照のこと。
なお、U－１の縄文深鉢１点、D－９の高台皿１点、D－11の坏１点・高台皿２点を図示した。

５　グリッド等出土遺物（Fig.33・34・41、PL.14）

遺物は、縄文土器557点・土師器754点・須恵器321点・瓦69点・石類46点・鉄類５点・灰釉陶器７点を出土した。そのうち、坏１点・蓋１点・瓦１点・石匙１点を図示した。

Tab. 2　竪穴住居跡一覧表

遺構名	位　置	規模（m）		壁現高 (cm)	面積 (m²)	主軸方向	炉・竈		周溝	主な出土遺物		
		東西 (長径)	南北 (短径)				位　置	構築材		土師器	須恵器	その他
J－1	X47・48、Y123・124	(4.36)	(2.60)	58	(5.95)	N－42°－E	－	－	－	－	－	深鉢・石錘・削器
J－2	X45・46、Y124・125	(4.56)	(3.74)	70	(11.32)	N－22°－E	南西・中央やや南	地床炉	－	－	－	深鉢・石鏃・打製石斧
H－1	X44、Y121・122	(3.14)	(2.20)	36	(5.52)	N－110°－E	－	－	－	坏	坏	－
H－2	X45・46、Y118・119	3.28	[4.16]	54	[12.20]	N－99°－E	東壁中央南	粘土・瓦・川原石	○	－	坏・高台椀・羽釜	瓦
H－3	X44・45、Y119・120	(2.86)	(4.28)	61	(10.38)	N－81°－E	東壁中央やや南	粘土	－	坏	－	－
H－4	X45・46、Y118・119	2.92	3.34	44	9.13	N－100°－E	東壁中央やや南	粘土・瓦・凝灰岩	－	－	坏・高台椀	飾り金具・瓦
H－5	X44、Y120・121	(0.53)	(3.74)	45	(1.55)	N－87°－E	東壁中央やや南	粘土	－	鉢・甕	－	瓦
H－6	X46・47、Y120・121	(2.30)	(3.50)	53	(4.47)	N－66°－E	－	－	－	－	－	－
H－7	X44、Y122	(1.60)	(1.29)	38	(1.41)	N－117°－E	－	－	－	－	－	－
H－8	X44、Y121・122	(0.68)	(2.80)	54	(1.16)	N－76°－E	東壁	粘土	－	－	－	－
H－9	X44・45、Y120・121	3.20	4.50	40	13.23	N－107°－E	東壁中央南	粘土	－	坏	坏	臼玉・紡錘車
H－10	X46・47、Y119・120	(3.50)	(4.60)	43	(14.00)	N－113°－E	東壁中央やや南	粘土	－	坏・甕	蓋・坏・鉢	紡錘車・刀子
H－11	X46・47、Y120～122	3.88	4.34	62	15.37	N－91°－E	東壁中央南	粘土・瓦	－	坏・甕	坏・高台椀	臼玉・瓦
H－12	X50・51、Y123・124	2.66	[3.72]	62	[9.14]	N－102°－E	東壁中央やや南	粘土	－	坏・甕	坏・高台椀	釘・瓦
H－13	X46・47、Y118・119	(4.30)	(3.42)	66	(8.30)	N－45°－E	－	－	－	－	－	－
H－14	X44・45、Y120・121	(4.16)	(4.24)	58	(11.06)	N－72°－E	東壁中央やや南	粘土	－	－	－	－
H－15	X47、Y118・119	(1.22)	(3.66)	53	(2.25)	N－74°－E	－	－	－	坏	蓋	－
H－16	X49～51、Y123	(4.72)	(2.64)	51	(8.04)	N－75°－E	－	－	○	坏・甑・甕	小壺	石製模造品
H－17	X47・48、Y123～125	(4.91)	(4.06)	63	(17.61)	N－75°－E	東壁	粘土	－	－	－	臼玉
H－18	X45・46、Y123・124	(3.10)	(4.28)	24	(11.25)	N－117°－E	東壁中央南	粘土・石	－	－	坏・大甕	砥石
H－19	X45・46、Y124・125	3.30	(3.50)	34	(9.23)	N－119°－E	東壁中央南	粘土・瓦・凝灰岩	－	甕	高台椀・羽釜	鉄鏃・瓦
H－20	X47・48、Y124・125	(2.74)	(2.86)	52	(6.44)	N－126°－W	西壁	粘土	－	坏・長胴甕	－	－
H－21	X44・45、Y124～126	(3.78)	(4.20)	60	(7.91)	N－71°－E	南壁	粘土	－	坏・甕	－	臼玉
H－22	X47・48、Y123	(1.78)	(1.38)	66	(0.94)	N－53°－E	－	－	－	－	－	－
T－1	X48・49、Y123・124	2.30	2.50	59	4.56	N－49°－E	－	－	－	坏・甕	－	－

Tab. 3　溝跡計測表

遺構名	位　置	長さ（m）	深さ（cm）		上幅（cm）		下幅（cm）		主軸方位	断面形	備　考 (時期)
			最大	最小	最大	最小	最大	最小			
W－1	X45～47 Y117・118	8.0	143	134	(308)	—	50	28	N－87°－W	V字形	中世以降
W－2	X45・46 Y118～125	16.2（北側） 9.2（南側） 25.4（合計）	34	18	114	90	65	30	N－2°－W	U字形	古代
W－3	X45～48 Y123～125	13.5	42	29	114	34	40	8	N－45°－E	U字形	古代
W－4	X49～52 Y123	15.0	43	28	85	50	56	24	N－78°－W	U字形	中世以降
W－5	X52 Y123	2.5	35	13	106	93	50	42	N－4°－W	U字形	古代
W－6	X45・46 Y125	4.4	18	13	75	70	45	30	N－80°－W	U字形	古代

Tab. 4　土坑・ピット・井戸跡計測表

遺構名	位　　置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形　状	備考（出土遺物）
U－1	X45、Y120	36	35	22	円形	縄59・石1
JD－2	X48、Y123・124	224	114	93	楕円形	縄24・須1・石2
D－1	X44、Y120	81	50	26	楕円形	
D－2	X46、Y119	98	82	60	楕円形	土6・須19・瓦1
D－3	X46、Y120・121	84	83	21	円形	土21・須8・瓦1・石1
D－4	X45、Y119	109	80	15.5	楕円形	
D－5	X45、Y119	110	90	24.5	楕円形	
D－6	X44・45、Y118	100	(42)	39	(半円)	縄1・土1・須4
D－7	X44、Y122	90	(36)	47	(半円)	
D－8	X45、Y122	112	100	73	円形	土4・須5・灰3
D－9	X47、Y120	131	63	19	楕円形	土10・須7
D－10	X46、Y123	135	100	24.5	楕円形	縄4・土6・須5・石5
D－11	X44、Y125	125	104	40	楕円形	須2・灰1
D－12	X44、Y121・122	(90)	90	22	(楕円形)	土4・須5
D－13	X44、Y118・119	145	103	45	楕円形	縄1・土16・須8
P－1	X44、Y119・120	38	32	25	楕円形	
P－2	X45、Y119	48	38	22	楕円形	
P－3	X45、Y119	50	32	34.5	楕円形	
P－4	X44、Y120	48	43	30	円形	
P－5	X46・47、Y120	60	35	18	楕円形	土12・須3
P－6	X45、Y118	43	37	62.5	円形	
P－7	X46、Y124	40	30	43.5	楕円形	
P－8	X45、Y122	56	47	37.5	楕円形	縄1・土2・須1
P－9	X45、Y121	42	40	42.5	円形	土2
P－10	X44、Y121	47	40	39.5	円形	
P－11	X44、Y121	37	31	29.5	円形	
I－1	X45・46、Y124	200	175	—	円形	縄18・土33・須34・瓦5・灰3

※縄…縄文土器、土…土師器、須…須恵器、灰…灰釉陶器、石…石類（黒曜石を含む）

Tab. 5　縄文時代出土土器観察表

番号	遺構番号 層位	器種	①口径 ②器高	①胎土②焼成 ③色調④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備　考
1	J－1 床直	深　鉢	①[29.7] ②(15.9)	①細粒②良好 ③にぶい黄橙色④1/2	底部を除去。口縁部：内面に幅1.4cmの粘土紐を貼付し、口唇部との間に2個一対の透し孔を10単位設置。透かし孔中央に刻目の入った耳たぶ状粘土を貼付。内面に斜位、口唇部に矢羽根状の集合沈線を施文し、棒状・ボタン状粘土を貼付。口縁から頸部にかけて横位の集合沈線が施文され、胴部文様帯とを画する。胴部：4単位の文様構成。矢羽根状沈線と縦位の集合沈線で区画し、間に木葉状の集合沈線を充塡。地文には、RL斜縄文が施文される。	埋設土器	諸磯c
2	J－1 床直	深　鉢	①　－ ②　－	①細粒②良好 ③褐灰色④破片	半截竹管による横位・縦位・斜位の平行沈線を施文。	38	諸磯c
3	J－1 埋土	深　鉢	①　－ ②　－	①細粒②良好 ③にぶい褐色④破片	半截竹管による斜位・横位の平行沈線を施文。	20	諸磯c
4	J－1 埋土	深　鉢	①　－ ②　－	①細粒②良好 ③褐灰色④破片	半截竹管による縦位・格子目状の平行沈線を施文。		諸磯c
5	J－1 埋土	深　鉢	①　－ ②　－	①中粒②良好 ③黄灰色④破片	半截竹管による横位・縦位・斜位の平行沈線を施文後、ボタン状粘土を貼付。		諸磯c
6	J－1 埋土	深　鉢	①　－ ②　－	①細粒②良好 ③橙色④破片	半截竹管による横位の平行沈線を施文後、ボタン状粘土を貼付。	43	諸磯c
7	J－1 埋土	深　鉢	①　－ ②　－	①細粒②良好 ③橙色④破片	隆帯を付した後に半截竹管による横位の平行沈線を施文後、ボタン状粘土を貼付。		諸磯c
8	J－1 埋土	深　鉢	①　－ ②　－	①中粒②良好③にぶい黄橙色④底部破片	半截竹管による斜位の平行沈線を施文後、棒状・ボタン状粘土を貼付。		諸磯c
9	J－2 床直	深　鉢	①[28.5] ②(20.3)	①細粒②良好 ③にぶい黄橙色④1/2	底部を除去。口縁部：内面に幅1.6cmの粘土紐を貼付。内面と口唇部上部に半截竹管による斜位の平行沈線、その下部に横位の平行沈線を施文後、口唇部に耳たぶ状・ボタン状粘土を貼付。胴部：4単位の文様構成。矢羽根状沈線と縦位の集合沈線で区画し、間に木葉状の集合沈線を充塡。ただし、文様割付の失敗により、縦位区画は3単位構成となっている。	埋設土器	諸磯c
10	J－2 床直	小　鉢	①　3.2 ②　3.8	①細粒②良好 ③にぶい黄橙色④完形	有孔小鉢。口唇部に径3mmの孔が8個。その下部に円形の粘土を6ヵ所に貼付。ただし、うち一つは欠落。円形粘土には中央に刻みが入る。	94	諸磯c ミニチュア
11	J－2 埋土	深　鉢	①　－ ②　－	①細粒②良好③にぶい黄橙色④口縁破片	口唇部に凹凸文。その下部に半截竹管による横位の平行沈線を施文後、ボタン状粘土を貼付。		諸磯c
12	J－2 埋土	深　鉢	①　－ ②　－	①細粒②良好 ③褐灰色④口縁破片	口唇部に凹凸文。その下部に半截竹管による横位の平行沈線を施文後、ボタン状粘土を貼付。		諸磯c
13	J－2 埋土	深　鉢	①　－ ②　－	①細粒②良好 ③褐灰色④口縁破片	口唇部に凹凸文。その下部に半截竹管による横位・斜位の平行沈線を施文後、ボタン状粘土を貼付。透かし孔有。	4	諸磯c
14	J－2 埋土	深　鉢	①　－ ②　－	①細粒②良好③にぶい黄橙色④口縁破片	口唇部上部に半截竹管による斜位の平行沈線、その下部に横位の平行沈線を施文後、耳たぶ状・ボタン状粘土を貼付。		諸磯c
15	J－2 床直	深　鉢	①　－ ②　－	①細粒②良好③にぶい黄橙色④口縁破片	口縁部上部に半截竹管による綾杉状の集合沈線、その下部に横位の平行沈線を施文。	123	諸磯c
16	J－2 床直	深　鉢	①　－ ②　－	①細粒②良好 ③褐灰色④口縁破片	口縁上部に半截竹管による横位の平行沈線を施文後、棒状・ボタン状・耳たぶ状粘土を貼付。その下部に斜位の平行沈線を施文。内面良く研磨。	110	諸磯c
17	J－2 埋土	深　鉢	①　－ ②　－	①細粒②良好 ③明黄褐色④口縁破片	口唇部内面に幅1.2cmの粘土紐を貼付し、口唇部との間に透かし孔を設置。口唇部内・外面に半截竹管による矢羽根状の集合沈線を施文後、棒状・ボタン状粘土を貼付、棒状粘土に平行沈線を施文。その下部に横位の集合沈線を施文し、間に刻目文が入る。		諸磯c
18	J－2 埋土	深　鉢	①　－ ②　－	①中粒②良好 ③灰黄褐色④口縁破片	口唇部に凹凸文。その下部に半截竹管による横位・矢羽根状・横位の平行沈線を施文後、ボタン状・耳たぶ状粘土を貼付。	83	諸磯c
19	J－2 床直	深　鉢	①　－ ②　－	①中粒②良好 ③灰黄褐色④口縁破片	口縁部に2段の凹凸文、その間に半截竹管による横位の平行沈線を施文。その下部に半截竹管による横位・縦位・斜位の平行沈線を施文。	8	諸磯c
20	J－2 埋土	深　鉢	①　－ ②　－	①細粒②良好 ③灰褐色④破片	突起部か。内面・外面に半截竹管による横位・斜位の平行沈線を施文。		諸磯c
21	J－2 埋土	深　鉢	①　－ ②　－	①細粒②良好 ③黄灰色④破片	地文にL縄文。半截竹管による横位・弧状の平行沈線を施文。		諸磯b
22	J－2 埋土	深　鉢	①　－ ②　－	①細粒②良好 ③にぶい黄橙色④破片	半截竹管による斜位の平行沈線を施文後、ボタン状粘土を貼付。		諸磯c
23	J－2 埋土	深　鉢	①　－ ②　－	①細粒②良好 ③にぶい橙色④破片	半截竹管による斜位の平行沈線を施文後、ボタン状・耳たぶ状粘土を貼付。		諸磯c
24	U－1	深　鉢	①[25.5] ②　34.1	①細粒②良好 ③橙色④1/2	底部を除去。橋状把手が対に付く。口縁部：無文帯。隆帯により胴部文様帯とを画する。胴部：全体が逆U字状の沈線で区画され、間に懸垂状の沈線が入る。区画内はRL斜縄文を充塡。		加曽利E4

注）①層位は、「床直」：床面より10cm以内の層位からの検出、「埋土」：床面より11cm以上の層位からの検出の2段階に分けた。
②口径、器高の単位はcmである。現存値を（　）、復元値を［　］で示した。
③胎土は、細粒（0.9mm以下）、中粒（1.0～1.9mm以下）、粗粒（2.0mm以上）とし、特徴的な鉱物が入る場合に鉱物名等を記載した。
④焼成は、極良・良好・不良の三段階とした。
⑤色調は土器外面で観察し、色名は新版標準土色帳（小山・竹原1976）によった。

Tab. 6　古墳・奈良・平安時代出土土器観察表

番号	遺構番号 層位	器種	①口径 ②器高	①胎土②焼成 ③色調④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備　考
1	H－1 床直	坏 土師器	①[12.8] ②　2.9	①細粒②良好 ③橙色④1/5	口縁・体部：外傾、内・外面横撫で。底部：平底、内面撫で、外面篦削り。	55	
2	H－1 床直	坏 須恵器	①[11.8] ②　4.0	①細粒②良好 ③灰白色④1/3	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：径5.6cmの平底、内面撫で、外面回転糸切り。	53ほか	
3	H－1 床直	坏 須恵器	①[14.0] ②　3.3	①細粒②良好 ③灰白色④1/3	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：径8.9cmの平底、内面撫で、外面回転糸切り。	59ほか	
4	H－2 竈内	坏 須恵器	①[12.0] ②　4.2	①細粒②良好 ③にぶい橙色④1/2	轆轤整形。口縁・体部：外傾、口縁端部やや肥厚、内・外面撫で。底部：径5.6cmの平底、内面撫で、外面回転糸切り。	180ほか	
5	H－2 床直	坏 須恵器	①[12.1] ②　4.3	①細粒②良好 ③灰黄褐色④1/2	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：径5.7cmの平底、内面撫で、外面回転糸切り。	260ほか	
6	H－2 埋土	坏 須恵器	①[14.9] ②(4.7)	①細粒②良好 ③にぶい黄橙色④破片	轆轤整形。口縁・体部：緩やかに外傾、内・外面撫で。体部外面に2本の沈線による波状文有。底部：欠損。	46	体部外面文様
7	H－2 床直	高台椀 須恵器	① 13.5 ②　5.0	①中粒②良好 ③にぶい橙色④完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾から口縁端部外反・やや肥厚、内・外面撫で。底部：内面撫で、回転糸切り後付け高台。	233	酸化焔焼成
8	H－2 床直	高台椀 須恵器	①[13.2] ②　4.8	①細粒②良好 ③にぶい黄橙色④1/2	轆轤整形。口縁・体部：外傾から口縁端部やや外反、内・外面撫で。底部：内面撫で、回転糸切り後付け高台。	174	酸化焔焼成
9	H－2 竈内	高台椀 須恵器	①[12.8] ②　5.2	①細粒②良好 ③灰黄色④1/4	轆轤整形。口縁・体部：外傾から口縁端部やや外反、内・外面撫で。底部：内面撫で、回転糸切り後付け高台。	221	酸化焔焼成
10	H－2 床直	高台椀 灰　釉	①[13.8] ②　4.0	①細粒②良好 ③灰白色④1/2	轆轤整形。口縁・体部：大きく外傾、口縁端部短く外反、内・外面撫で。高台部：三日月高台。釉薬は刷毛塗り。	74	
11	H－2 竈内	羽　釜 須恵器	①[19.1] ② 24.8	①細粒②良好 ③にぶい黄橙色④1/2	轆轤整形。口縁部：短く内傾、内・外面撫で。鍔部：三角形、やや上向きに付く。胴部：内・外面撫で、外面下位斜め篦削り。底部：径8.2cmの平底。	214ほか	酸化焔焼成
12	H－3 床直	坏 土師器	①[16.3] ②(3.3)	①細粒②良好 ③橙色④破片	口縁部：大きく外傾、内・外面撫で。底部：浅い丸底気味、内面撫で、外面篦削り。	H-14-2	
13	H－3 竈内	坏 土師器	①[10.8] ②(3.2)	①中粒②良好 ③橙色④破片	口縁部：外傾、内・外面撫で。底部：浅い丸底気味、内面撫で、外面篦削り。	22	
14	H－4 床直	高台皿 灰　釉	① 12.8 ②　2.8	①細粒②良好 ③灰白色④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部：大きく外傾、内・外面撫で。高台部：三日月高台か。釉薬は漬けがけ。	62	
15	H－4 竈内	坏 須恵器	①[13.0] ②　4.5	①中粒②良好 ③にぶい黄色④1/3	轆轤整形。口縁・体部：外傾から口縁端部やや外反気味、内・外面撫で。底部：径6.7cmの平底、内面撫で、外面回転糸切り。	59	
16	H－4 埋土	坏 須恵器	①[13.6] ②(3.6)	①中粒②良好 ③灰黄色④破片	轆轤整形。口縁・体部：外傾から口縁端部やや外反気味、内・外面撫で。底部：欠損。	3	体部内外面墨書
17	H－4 竈内	高台椀 須恵器	①[11.8] ②　4.5	①中粒②良好 ③橙色④1/2	轆轤整形。口縁・体部：外傾から口縁端部やや外反、内・外面撫で。底部：内面撫で、回転糸切り後付け高台。	H-2-115	酸化焔焼成
18	H－4 埋土	高台椀 須恵器	①[12.6] ②　4.7	①中粒②良好 ③オリーブ黒色④1/3	轆轤整形。口縁・体部：外傾から口縁端部やや外反、内・外面撫で。底部：内面撫で、回転糸切り後付け高台。	23	酸化焔焼成、漆付着
19	H－4 床直	甕 土師器	① 19.7 ② 25.6	①中粒②良好 ③橙色④ほぼ完形	口縁部：外傾、内・外面横撫で。胴部：やや膨らみ上位が器最大径、内面撫で、外面上位横・下位斜め篦削り。底部：径4.7cmの平底。	35ほか	
20	H－5 竈内	鉢 土師器	①[22.9] ②(8.0)	①細粒②良好 ③橙色④破片	口縁部：大きく外反、内・外面横撫で。底部上位：内面撫で、外面篦削り。	カマドほか	
21	H－5 竈内	甕 土師器	① 20.5 ②(19.7)	①細粒②良好 ③橙色④2/3	口縁部：緩やかに外傾、内・外面横撫で。胴部：上位がやや膨らみ口径とほぼ同径、内面撫で、外面斜め篦削り。底部：欠損。	カマド	
22	H－9 床直	坏 土師器	①[11.8] ②　3.2	①細粒②良好 ③明赤褐色④2/3	口縁・体部：外傾、内・外面横撫で。底部：平底、内面撫で、外面篦削り。	105	
23	H－9 床直	坏 土師器	①[12.0] ②　3.6	①細粒②良好 ③褐色④1/3	口縁・体部：外傾、内・外面横撫で。底部：平底、内面撫で、外面篦削り。	32	
24	H－9 床直	坏 土師器	① 11.2 ②　3.8	①細粒②良好 ③明赤褐色④3/4	口縁・体部：外傾、内・外面横撫で。底部：平底、内面撫で、外面篦削り。	51ほか	
25	H－9 床直	坏 須恵器	①[14.9] ②　4.7	①細粒②良好 ③にぶい黄橙色④1/3	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：径7.6cmの平底、内面撫で、外面回転糸切り。	152ほか	
26	H－9 床直	坏 須恵器	①[10.4] ②　3.2	①細粒②良好 ③灰色④1/3	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：径7.1cmの平底、内面撫で、外面回転糸切り。	35ほか	
27	H－9 貯蔵穴	坏 須恵器	①[13.5] ②　3.6	①細粒②良好 ③灰黄色④2/3	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：径7.0cmの平底、内面撫で、外面回転糸切り。	P5	体部外面墨書
28	H－10 床直	蓋 須恵器	① 17.0 ②　2.5	①中粒②良好 ③灰黄色④ほぼ完形	轆轤整形。天井部：水平から緩やかに傾斜、内・外面撫で、返り無。摘み：無。	142	
29	H－10 床直	蓋 須恵器	① 16.0 ②　3.2	①中粒②良好 ③灰色④ほぼ完形	轆轤整形。天井部：水平から緩やかに傾斜、内・外面撫で、返り無。摘み：無。	195	
30	H－10 床直	坏 土師器	① 12.2 ②　3.7	①細粒②良好 ③橙色④4/5	口縁・体部：外傾、内・外面横撫で。底部：平底、内面撫で、外面篦削り。	186	

番号	遺構番号 層位	器種	①口径 ②器高	①胎土②焼成 ③色調④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備　考
31	H－10 床直	坏 土師器	①[10.6] ②　3.6	①細粒②良好 ③橙色④1／4	口縁・体部：直立気味、内・外面横撫で。底部：平底、内面撫で、外面篦削り。	120	
32	H－10 床直	坏 須恵器	①[13.8] ②　3.6	①細粒②良好 ③浅黄色④2／3	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：径7.6cmの平底、内面撫で、外面回転糸切り。	135ほか	
33	H－10 床直	鉢 須恵器	① 22.6 ② 11.5	①中粒②良好 ③灰色④ほぼ完形	轆轤整形。口縁部：内傾、内・外面撫で。底部：深い丸底、内面撫で、外面回転篦削り。	194ほか	
34	H－10 床直	甕 土師器	①[21.6] ②（8.1）	①細粒②良好 ③にぶい赤褐色④破片	口縁部：直立から外傾、内・外面横撫で。胴部上位：やや膨らみ内面撫で、外面篦削り。底部：欠損。	187ほか	
35	H－11 埋土	坏 土師器	①[11.9] ②　3.5	①中粒②良好 ③橙色④1／2	口縁・体部：外傾、内・外面横撫で。底部：平底、内面撫で、外面篦削り。	135ほか	
36	H－11 埋土	坏 土師器	①　－ ②　－	①中粒②良好 ③橙色④破片	底部内面墨書有。	104ほか	底部内面墨書
37	H－11 埋土	坏 須恵器	①[14.6] ②　3.7	①細粒②良好 ③灰白色④1／2	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：径7.1cmの平底、内面撫で、外面回転糸切り。	173ほか	
38	H－11 埋土	坏 須恵器	①[12.8] ②[3.8]	①中粒②良好 ③灰色④1／3	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：径8.0cmの平底、内面撫で、外面回転糸切り。	1011	
39	H－11 床直	坏 須恵器	①[13.8] ②　3.4	①細粒②良好 ③灰白色④1／3	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：径8.2cmの平底、内面撫で、外面回転糸切り。内面赤色物付着。	230	内面赤色物付着
40	H－11 床下	坏 須恵器	①　－ ②（1.3）	①細粒②良好 ③灰白色④底部破片	轆轤整形。口縁・体部：欠損。底部：径7.8cmの平底、内面撫で、外面回転糸切り。内面赤色物付着。	床下	内面赤色物付着
41	H－11 埋土	高台椀 須恵器	①[14.2] ②　5.2	①細粒②良好 ③灰白色④2／3	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：内面撫で、回転糸切り後付け高台。	63ほか	
42	H－11 埋土	高台椀 灰　釉	①[15.2] ②　4.1	①細粒②良好 ③オリーブ灰色④1／2	轆轤整形。口縁・体部：大きく外傾、口縁端部篦押さえ、内・外面撫で。高台部：角高台。釉薬は刷毛塗り。	30	
43	H－11 床直	甕 土師器	①[20.0] ②(10.0)	①細粒②良好 ③橙色④1／3	口縁部：直立から外傾、内・外面横撫で。胴部上位：やや膨らみ内面撫で、外面篦削り。底部：欠損。	180ほか	
44	H－11 埋土	甕 土師器	①[19.4] ②（8.4）	①細粒②良好 ③橙色④破片	口縁部：直立気味から外傾、内・外面横撫で。胴部上位：やや膨らみ内面撫で、外面篦削り。底部：欠損。	60ほか	
45	H－12 床直	坏 土師器	①[10.8] ②　3.7	①細粒②良好 ③橙色④1／2	口縁・体部：直立気味、内・外面横撫で。底部：平底、内面撫で、外面篦削り。	125ほか	
46	H－12 床直	坏 土師器	①[12.6] ②　3.6	①細粒②良好 ③にぶい橙色④1／3	口縁・体部：外傾、内・外面横撫で。底部：平底、内面撫で、外面篦削り。	131	
47	H－12 埋土	坏 須恵器	①[13.0] ②　3.4	①細粒②良好 ③黄灰色④1／2	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：径7.2cmの平底、内面撫で、外面回転糸切り後篦撫で。	3ほか	
48	H－12 埋土	高台椀 須恵器	①　－ ②（3.4）	①細粒②良好 ③灰白色④底部	轆轤整形。口縁・体部：欠損。底部：内面撫で、回転糸切り後付け高台。	7	
49	H－12 竈内	甕 土師器	①[22.2] ②(18.0)	①細粒②良好 ③にぶい褐色④1／5	口縁部：緩やかに外傾、内・外面横撫で。胴部：中位がやや膨らみ口径とほぼ同径、内面撫で、外面斜め篦削り。底部：欠損。	カマド	
50	H－15 床直	坏 土師器	①[11.6] ②　3.4	①細粒②良好 ③橙色④1／2	口縁部：外傾、内・外面撫で。底部：浅い丸底気味、内面撫で、外面篦削り。	H-13-1	
51	H－15 床直	蓋 須恵器	①[28.2] ②（4.3）	①細粒②良好 ③灰色④破片	轆轤整形。天井部：緩やかに傾斜から端部垂下、内・外面撫で、返り無。摘み：欠損。	1	
52	H－16 床直	坏 土師器	① 11.6 ②　4.6	①細粒②良好 ③橙色④完形	口縁部：直立気味、内・外面横撫で。交換点に稜有。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	133	
53	H－16 床直	坏 土師器	① 12.6 ②　4.0	①細粒②良好 ③にぶい橙色④ほぼ完形	口縁部：やや外傾、内・外面横撫で。交換点に稜有。底部：浅い丸底、内面撫で、外面篦削り。	134	
54	H－16 床直	坏 土師器	① 11.8 ②　4.1	①細粒②良好 ③橙色④4／5	口縁部：やや外傾、内・外面横撫で。交換点に稜有。底部：浅い丸底、内面撫で、外面篦削り。	130	
55	H－16 床直	坏 土師器	①[10.8] ②（4.4）	①細粒②良好 ③橙色④1／3	口縁部：やや外傾、内・外面横撫で。交換点に稜有。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	118	
56	H－16 埋土	小　壺 須恵器	① [9.8] ②（7.5）	①細粒②良好 ③灰色④1／3	轆轤整形。口縁部：短く直立、内・外面撫で。体部：内面撫で、外面上位撫で、下位回転篦削り。底部：欠損。	36ほか	
57	H－16 床直	小型甕 土師器	① 12.8 ②　9.6	①中粒②良好 ③橙色④ほぼ完形	口縁部：短く直立、内・外面横撫で。胴部：内面撫で、外面横篦削り。底部：平底。	135	
58	H－16 床直	甑 土師器	① 12.3 ② 12.9	①中粒②良好 ③橙色④ほぼ完形	口縁部：短く直立、内・外面横撫で。胴部：内面撫で、外面篦削り。底部：丸底気味、焼成後径2.2cmの穿孔。	131	甕の転用
59	H－16 床直	甕 土師器	① 16.0 ②(20.0)	①中粒②良好 ③にぶい黄橙色④1／2	口縁部：短く外傾、内・外面横撫で。胴部：中位がやや膨らみ口径とほぼ同径、内面撫で、外面上位篦削り、下位磨き。底部：欠損。	100ほか	
60	H－16 床直	甕 土師器	①[18.8] ②(10.0)	①中粒②良好 ③にぶい黄橙色④1／6	口縁部：器最大径、大きく外傾、内・外面横撫で。胴部：内面撫で、外面縦篦削り。底部：欠損。	120	

番号	遺構番号 層位	器種	①口径 ②器高	①胎土②焼成 ③色調④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備　考
61	H－18 竈内	坏 須恵器	①[12.4] ②　4.1	①細粒②良好 ③にぶい黄色④1/2	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：径6.0cmの平底、内面撫で、外面回転糸切り。	カマド	
62	H－18 竈内	大　甕 須恵器	①　－ ②(13.2)	①中粒②良好 ③灰色④破片	轆轤整形。口縁部：欠損。頸部：内・外面撫で。胴部・底部：欠損。	カマドほか	
63	H－19 床直	かわらけ	①　－ ②(1.5)	①中粒②良好 ③灰白色④底部	轆轤整形。口縁・体部：欠損。底部：径5.7cmの平底、内面撫で、外面回転糸切り。底部近くで周囲を細かく割り、円形に整形。	12	転用か
64	H－19 床直	坏 須恵器	① 11.9 ②　3.7	①中粒②良好 ③オリーブ黒色④完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾、口縁端部やや肥厚、内・外面撫で。底部：径6.1cmの平底、内面撫で、外面回転糸切り。	178	いぶし焼成
65	H－19 床直	坏 須恵器	① 12.1 ②　3.9	①中粒②良好 ③黄灰色④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：径5.0cmの平底、内面撫で、外面回転糸切り。	84	
66	H－19 貯蔵穴	坏 須恵器	①[16.2] ②　6.7	①細粒②良好 ③灰白色④4/5	轆轤整形。口縁・体部：外傾し深い体部、内・外面撫で。底部：径7.0cmの平底、内面撫で、外面回転糸切り。	260ほか	
67	H－19 床直	高台椀 須恵器	① 12.9 ②　5.4	①細粒②良好 ③にぶい橙色④完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後付け高台。	230	
68	H－19 貯蔵穴	高台椀 須恵器	① 15.2 ②　7.2	①細粒②良好 ③灰色④完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾し深い体部、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後付け高台。	249ほか	
69	H－19 床直	高台椀 須恵器	① 13.4 ②　4.8	①中粒②良好 ③にぶい黄橙色④完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾から口縁端部外反・やや肥厚、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後付け高台。	204	酸化焔焼成
70	H－19 貯蔵穴	高台椀 須恵器	① 13.6 ②　5.0	①中粒②良好 ③にぶい褐色④完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾から口縁端部外反、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後付け高台。	250	酸化焔焼成
71	H－19 床直	高台椀 須恵器	① 13.6 ②　5.4	①中粒②良好 ③暗灰色④完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾から口縁端部外反・肥厚、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後付け高台。	177	酸化焔・いぶし焼成
72	H－19 床直	高台椀 須恵器	① 13.1 ②　5.3	①中粒②良好 ③灰色④完形	轆整整形。口縁・体部：外傾から口縁端部やや外反、内・外面撫で。両面に墨書有。底部：内面撫で、外面回転糸切り後付け高台。	179	酸化焔焼成、体部両面墨書
73	H－19 床直	高台椀 須恵器	① 12.7 ②　5.4	①細粒②良好 ③灰黄色④ほぼ完形	轆整整形。口縁・体部：外傾から口縁端部やや外反・肥厚、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後付け高台。	175	酸化焔焼成
74	H－19 床直	高台椀 須恵器	① 12.5 ②　4.8	①中粒②良好 ③灰白色④4/5	轆整整形。口縁・体部：外傾から口縁端部やや外反、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後付け高台。	35	酸化焔焼成
75	H－19 床直	高台椀 須恵器	① 13.8 ②　5.0	①中粒②良好 ③灰黄色④ほぼ完形	轆整整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後付け高台。	209	酸化焔焼成
76	H－19 竈内	高台椀 須恵器	①[12.8] ②　5.2	①中粒②良好 ③灰褐色④2/3	轆整整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後付け高台。	228ほか	酸化焔焼成
77	H－19 床直	高台椀 須恵器	①[14.0] ②　5.2	①中粒②良好 ③にぶい黄橙色④1/2	轆整整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後付け高台。	176	酸化焔焼成
78	H－19 床直	高台椀 灰　釉	①[19.0] ②　7.5	①細粒②良好 ③灰オリーブ色④1/2	轆轤整形。口縁・体部：外傾し深い体部、内・外面撫で。底部：内・外面撫で。高台部：内彎気味に開く高い高台。釉薬は漬けがけ。	34ほか	
79	H－19 貯蔵穴	小　鉢 土師器	①　8.7 ②　7.9	①中粒②良好 ③灰色④ほぼ完形	口縁部：ほぼ直立、内・外面横撫で。体部：やや外傾、内面撫で、外面篦削り。底部：平底、内面撫でているが粗雑、外面篦削り。全体的に大きく歪む。	248	還元焔焼成
80	H－19 床直	甕 土師器	①[19.0] ②(23.5)	①中粒②良好 ③にぶい赤褐色④3/4	口縁部：直立から大きく外傾、内・外面横撫で。胴部：上位がやや膨らみ内面撫で、外面篦削り。底部：径3.4cmの平底。	108ほか	
81	H－19 床直	羽　釜 須恵器	① 17.2 ②(25.3)	①中粒②良好 ③にぶい褐色④底部欠損	轆轤整形。口縁部：内傾、内・外面撫で。鍔部：断面三角形状でほぼ水平に付く。胴部：やや膨らみ内面撫で、外面上位撫で・下位篦削り。	197ほか	酸化焔焼成
82	H－19 竈内	羽　釜 須恵器	①[18.9] ② 29.6	①中粒②良好 ③にぶい黄橙色④1/2	轆轤整形。口縁部：ほぼ直立、内・外面撫で。鍔部：断面三角形状でほぼ水平に付く。胴部：内面撫で、外面上位篦削り・下位撫で。底部：径8.0cmの平底。	139ほか	酸化焔焼成
83	H－19 竈内	甑 須恵器	①[31.3] ② 35.8	①中粒②良好 ③灰色④1/2	轆轤整形。口縁部：ほぼ直立、内・外面撫で。鍔部：断面三角形状でほぼ水平に付く。胴部：内・外面撫で。胴部内面下位に4箇所、下部が段状となる窪み有り。脚部：水平方向に大きく外反。	264ほか	
84	H－20 埋土	坏 土師器	①[12.4] ②　4.8	①細粒②良好 ③橙色④3/4	口縁部：外傾、内・外面横撫で。交換点に弱い稜有。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	H-17-58ほか	
85	H－20 埋土	坏 土師器	①[12.3] ②　4.4	①細粒②良好 ③橙色④1/3	口縁部：やや外反気味、内・外面横撫で。交換点に稜有。底部：浅い丸底、内面撫で、外面篦削り。	H-17-79ほか	
86	H－20 埋土	高　坏 土師器	①[15.2] ②(4.0)	①中粒②良好 ③にぶい黄橙色④破片	坏部：大きく外傾。口縁部やや外反、内・外面横撫で。底部内面撫で、外面篦削り。脚部：欠損。	H-17-39ほか	
87	H－20 埋土	長胴甕 土師器	①[23.6] ②(17.4)	①細粒②良好 ③橙色④破片	口縁部：器最大径。大きく外傾、内・外面横撫で。胴部：内面撫で・篦磨き、外面縦篦削り。底部：欠損。	H-17-116ほか	
88	H－21 床直	坏 土師器	①[12.9] ②(3.7)	①細粒②良好 ③橙色④1/2	口縁部：やや外傾、内・外面横撫で。交換点に稜有。底部：下半を欠損。丸底、内面撫で、外面篦削り。	33ほか	
89	H－21 埋土	坏 土師器	①[13.0] ②(3.8)	①細粒②良好 ③橙色④破片	口縁部：短く、ほぼ直立。内・外面横撫で。交換点に弱い外稜有り。底部：下半を欠損。丸底、内面撫で、外面篦削り。	13	

番号	遺構番号 層位	器種	①口径 ②器高	①胎土②焼成 ③色調④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備　考
90	H－21 床直	甕 土師器	①[14.0] ②(13.6)	①中粒②良好 ③橙色④破片	口縁部：内傾から緩やかに外反、肥厚、内・外面横撫で。胴部：大きく膨らみ内面撫で、外面斜め箆削り。底部：欠損。	床	
91	T－1 埋土	坏 土師器	①[13.4] ② (3.7)	①細粒②良好 ③にぶい黄橙色④破片	口縁部：やや外傾、内・外面横撫で。交換点に稜有。底部：下半を欠損。丸底、内面撫で、外面箆削り。	覆土	
92	T－1 埋土	坏 土師器	①[13.0] ② (2.7)	①細粒②良好 ③暗灰黄色④破片	口縁部：短くやや内傾気味、内・外面横撫で。底部：下半を欠損。浅い丸底、内面撫で、外面箆削り。	覆土	
93	T－1 埋土	甕 土師器	①[18.0] ②(16.3)	①中粒②良好 ③にぶい橙色④1/6	口縁部：直立気味から緩やかに外反、内・外面横撫で。胴部：下半を欠損。大きく膨らみ内面撫で、外面斜め箆削り。	覆土	
94	T－1 埋土	甕 土師器	①[11.6] ② (3.7)	①中粒②良好 ③にぶい黄橙色④破片	口縁部：直立から外反、やや肥厚、内・外面横撫で。胴部・底部：欠損。	覆土	
95	W－1 埋土	高台椀 緑　釉	①　－ ② (1.8)	①細粒②良好 ③オリーブ黄色④破片	底部のみ。	覆土	
96	W－3 床直	高台皿 須恵器	①[14.8] ②　2.8	①細粒②良好 ③灰色④底部	轆轤整形。口縁・体部：大きく外傾、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後付け高台。	28	
97	W－3 埋土	高台椀 須恵器	① 12.8 ②　4.9	①中粒②良好 ③オリーブ黄④3/4	轆轤整形。口縁・体部：外傾、口縁端部やや肥厚、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後付け高台。	覆土	酸化焔焼成
98	W－4 覆土	坏 須恵器	①　－ ② (1.1)	①中粒②良好 ③浅黄色④破片	轆轤整形。口縁・体部：欠損。底部：径[7.4]cmの平底。内面撫で、外面回転糸切り。両面に墨書有。	覆土	底部両面墨書
99	D－9 床直	高台皿 須恵器	① 12.8 ②　3.0	①中粒②良好 ③灰色④完形	轆轤整形。口縁・体部：大きく直線的に外傾、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後付け高台。	1	
100	D－11 床直	高台皿 灰　釉	① 12.5 ②　2.7	①細粒②良好 ③灰白色④完形	轆轤整形。口縁・体部：大きく外傾、口縁端部やや外反気味、内・外面撫で。底部：内面撫で。高台部：断面三角形の低い高台を付す。釉薬は漬けがけ。	3	
101	D－11 床直	坏 須恵器	① 11.8 ②　3.8	①中粒②良好 ③灰色④完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾から口縁端部やや外反、内・外面撫で。底部：径6.0cmの平底、内面撫で、外面回転糸切り。	1	
102	D－11 床直	高台椀 須恵器	① 12.4 ②　7.4	①中粒②良好 ③橙色④1/2	轆轤整形。口縁・体部：外傾しやや深い体部、内・外面撫で。底部：肥厚、内面撫で。高台部：直線的に開く高い高台を付す。	2	酸化焔焼成
103	X47 Y124	坏 土師器	①[12.4] ② (2.8)	①細粒②良好 ③にぶい褐色④破片	口縁部：直立から短く外反、内・外面横撫で。底部：下半を欠損。浅い丸底、内面撫で、外面箆削り。口縁部および内面を赤彩。		赤色塗彩、比企型か
104	表採	蓋 須恵器	①　－ ② (2.4)	①細粒②良好 ③にぶい黄橙色④破片	轆轤整形。天井部：下半を欠損。内・外面撫で。内面黒色処理。摘み：高く直線的に開く環状摘み。		内黒

注）①層位は、「床直」：床面より10cm以内の層位からの検出、「埋土」：床面より11cm以上の層位からの検出の２段階に分けた。竈内の検出については「竈内」と記載した。
②口径、器高の単位はcmである。現存値を（　）、復元値を［　］で示した。
③胎土は、細粒（0.9mm以下）、中粒（1.0～1.9mm以下）、粗粒（2.0mm以上）とし、特徴的な鉱物が入る場合に鉱物名等を記載した。
④焼成は、極良・良好・不良の三段階とした。
⑤色調は土器外面で観察し、色名は新版標準土色帳（小山・竹原1976）によった。

Tab. 7　石器観察表

番号	遺構・層位	器　種	最大長	最大幅	最大厚	重　さ	石　材	遺存度	登録番号	備　考
1	J－1・埋　土	石　錘	3.2	1.6	0.8	2.2	黒 曜 石	ほぼ完形		
2	J－1・埋　土	削　器	12.5	6.3	2.1	170.0	黒色頁岩	完　形		
3	J－1・埋　土	打 製 石 斧	(6.0)	(5.1)	(1.5)	59.0	黒色頁岩	不　明		
4	J－2・埋　土	石　鏃	2.0	1.1	0.3	0.5	黒 曜 石	ほぼ完形		
5	J－2・床　直	打 製 石 斧	(6.5)	(5.3)	(1.7)	55.5	黒色頁岩	不　明	9	
6	X45、Y125	石　匙	4.1	2.6	1.0	11.0	チャート	ほぼ完形		

注）①層位は、「床直」：床面より10cm以内の層位からの検出、「埋土」：床面より11cm以上の層位からの検出の２段階に分けた。
②最大長・最大幅・最大厚の単位はcmであり、重さの単位はgである。現存値を（　）で示した。

Tab. 8　石製品・土製品観察表

番号	遺構・層位	器　種	最大長	最大幅	最大厚	重　さ	石　材	遺存度	登録番号	備　考
1	H－4・埋　土	土 製 円 盤	2.3	2.1	0.5	3.1	須 恵 器	不　明		外面自然釉。
2	H－9・埋　土	臼　玉	1.8	1.6	0.9	4.2	滑　石	完　形	100	
3	H－9・埋　土	土製紡錘車	(5.3)	(2.8)	(1.7)	(25.4)		1／2	61	外面磨き。
4	H－9・床　直	砥　石	8.4	5.3	2.6	135.0	凝 灰 岩	不　明	50	４面使用。
5	H－10・床　直	土製紡錘車	3.8	4.0	1.3	20.6		完　形	35	外面磨き。
6	H－10・埋　土	土　錘	(3.1)	(2.5)	(2.6)	(13.8)		1／2	179	
7	H－11・床　直	臼　玉	1.5	1.5	0.4	0.9	滑　石	完　形	1054	
8	H－11・床　直	臼　玉	1.4	1.3	0.6	1.6	滑　石	完　形	1060	
9	H－11・埋　土	土　錘	3.5	2.0	2.0	15.4		完　形	1053	
10	H－16・床　直	石製模造品	(3.9)	2.5	0.5	(6.8)	滑　石	不　明	132A	穿孔有。
11	H－16・床　直	石製模造品	(2.9)	(2.3)	0.4	(2.8)	滑　石	不　明	132B	穿孔有。
12	H－17・埋　土	臼　玉	1.5	1.5	0.5	1.4	滑　石	完　形	102	
13	H－18・埋　土	砥　石	3.6	2.5	1.7	16.2	凝 灰 岩	不　明		穿孔有。
14	H－19・埋　土	土 製 円 盤	3.1	3.2	1.1	14.0	縄文土器	不　明		加曽利Ｅ。
15	H－21・埋　土	臼　玉	1.3	1.3	0.6	1.5	滑　石	完　形	17	

注）①層位は、「床直」：床面より10cm以内の層位からの検出、「埋土」：床面より11cm以上の層位からの検出の２段階に分けた。
②最大長・最大幅・最大厚の単位はcmであり、重さの単位はgである。現存値を（　）で示した。

Tab. 9　鉄器・鉄製品観察表

番号	遺構・層位	器　種	最大長	最大幅	最大厚	重　さ	遺存度	登録番号	備　考
1	H－4・床　直	飾 り 金 具	(8.6)	1.5	0.3	14.0	破　片	17	中央２ヶ所に長さ2.0cmの釘有。
2	H－4・床　直	釘	6.1	0.4	0.5	8.6	完　形	26	
3	H－4・竈　内	釘	9.6	0.5	0.4	22.6	ほぼ完形	70	
4	H－10・床　直	刀　子	21.9	1.8	0.4	35.8	完　形	130	
5	H－10・床　直	刀　子	17.6	1.3	0.3	17.6	ほぼ完形	190	
6	H－12・埋　土	釘	9.5	0.6	0.7	22.4	ほぼ完形	76	
7	H－12・床　直	釘	10.2	0.7	0.7	21.6	ほぼ完形	143	
8	H－12・埋　土	釘	8.1	0.5	0.6	15.4	ほぼ完形		
9	H－19・床　直	鉄　鏃	(5.4)	(2.3)	0.5	12.8	破　片	107	箆被（のかつぎ）部か。
10	H－19・床　直	刀　子	(9.2)	1.4	0.3	9.4	破　片	221	

注）①層位は、「床直」：床面より10cm以内の層位からの検出、「埋土」：床面より11cm以上の層位からの検出の２段階に分けた。
②最大長・最大幅・最大厚の単位はcmであり、重さの単位はgである。現存値を（　）で示した。

Tab.10　瓦観察表

番号	遺構番号 層位	器種	①長さ ②厚さ	①胎土②焼成 ③色調④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備　考
1	H－2 竈内	平　瓦	①(30.5) ②　2.1	①中粒②良好 ③黄灰色④破片	一枚作り。凹面：布目有。凸面：撫で。箆書き文字有。側面：面取り２回。	258	箆書き文字
2	H－2 竈内	平　瓦	①(27.4) ②　2.1	①中粒②良好 ③黄灰色④破片	一枚作り。凹面：布目有。凸面：撫で。側面：面取り２回。	259	
3	H－2 竈内	平　瓦	①(23.7) ②　2.1	①粗粒②良好 ③褐灰色④破片	一枚作り。幅24.9cm。凹面：布目有。凸面：箆削り。側面：複数回面取りを行い丸くする。	244ほか	
4	H－2 竈内	平　瓦	①(26.0) ②　1.3	①細粒②良好 ③灰色④破片	一枚作り。凹面：布目有。凸面：斜位箆削り。側面：面取り２回。	256ほか	
5	H－2 竈内	平　瓦	①(20.8) ②　1.7	①細粒②良好 ③灰白色④破片	一枚作り。凹面：布目有。凸面：縄叩き後撫で。側面：面取り３回。	254	

番号	遺構番号 層位	器種	①長さ ②厚さ	①胎土②焼成 ③色調④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備　考
6	H－4 竈内	平　瓦	①(30.3) ②　2.4	①細粒②良好 ③灰色④破片	一枚作り。凹面：布目有。凸面：篦削り後撫で。側面：面取り２回。	73	右壁に使用
7	H－4 竈内	丸　瓦	①(23.3) ②　2.9	①中粒②良好 ③灰色④破片	行基式。凸面：篦削り。凹面：布目有。篦書き文字有。側面：面取り２回。	72	左壁に使用 篦書き文字
8	H－4 床直	平　瓦	①(15.6) ②　2.0	①中粒②良好 ③灰色④破片	一枚作り。石英多く含む。凹面：布目有。凸面：撫で。篦書き文字３字有。側面：面取り２回。	11	篦書き文字
9	H－5 竈内	平　瓦	①(22.0) ②　1.4	①中粒②良好 ③灰色④破片	一枚作り。凹面：布目有、撫で。凸面：縄叩き、撫で。側面：面取り２回。	35	支脚に使用か
10	H－10 床直	平　瓦	①(17.8) ②　2.4	①中粒②良好 ③灰色④破片	一枚作り。石英多く含む。凹面：布目有。凸面：撫で。篦書き文字有。側面：面取り３回。	5	篦書き文字
11	H－11 床直	平　瓦	① 42.6 ②　1.7	①中粒②良好 ③灰色④1/2	一枚作り。石英多く含む。凹面：布目有。凸面：篦削り後撫で。側面：面取り２回。	244ほか	貯蔵穴に使用
12	H－11 竈内	平　瓦	①(26.3) ②　1.6	①細粒②良好 ③灰褐色④破片	桶巻き作り。凹面：模骨痕・布目有。凸面：篦削り後撫で。側面：面取り２回。	254	右壁に使用
13	H－11 竈内	平　瓦	①(22.5) ②　1.6	①中粒②良好 ③灰色④破片	一枚作り。石英多く含む。凹面：布目有。凸面：撫で。	237	
14	H－11 床直	平　瓦	①(21.6) ②　2.4	①中粒②良好 ③灰色④破片	一枚作り。石英多く含む。凹面：布目有。凸面：平行叩き目文有。側面：面取り２回。	243	貯蔵穴に使用
15	H－11 竈内	平　瓦	①(13.8) ②　2.7	①中粒②良好 ③灰色④破片	一枚作り。石英多く含む。凹面：布目有。凸面：撫で。篦書き文字有。側面：面取り２回。	232	篦書き文字
16	H－11 竈内	丸　瓦	①(24.4) ②　1.1	①細粒②良好 ③灰黄色④破片	玉縁式。凸面：撫で。凹面：布目有。側面：面取り２回。	238	
17	H－11 床直	丸　瓦	① 39.4 ②　1.5	①細粒②良好 ③灰色④1/2	行基式。凸面：撫で。凹面：布目有。乾燥時のあたり痕有。側面：面取り２回。	242	貯蔵穴に使用
18	H－11 竈内	丸　瓦	① 39.2 ②　1.2	①細粒②良好 ③オリーブ黒色④1/2	行基式。凸面：撫で。凹面：布目有。側面：面取り２回。	253ほか	
19	H－11 竈内	丸　瓦	①(23.5) ②　1.4	①細粒②良好 ③灰色④破片	行基式。凸面：撫で。凹面：布目有。側面：面取り２回。	247ほか	
20	H－12 床直	丸　瓦	①(20.1) ②　1.2	①中粒②良好 ③灰色④破片	石英多く含む。凸面：撫で。篦書き文字有。凹面：布目有。側面：面取り２回。	46	篦書き文字
21	H－19 竈内	平　瓦	① 40.5 ②　3.0	①細粒②良好 ③灰色④ほぼ完形	一枚作り。凹面：布目有。凸面：篦削り後撫で。側面：面取り３回。下部隅を斜めに面取り。重量5370g。	273	左壁に使用
22	H－19 竈内	平　瓦	①(39.1) ②　2.0	①細粒②良好 ③灰色④1/2	一枚作り。凹面：布目有。撫で。凸面：撫で。側面：面取り２回。	275	右壁に使用
23	H－19 竈内	平　瓦	① 38.0 ②　2.1	①細粒②良好 ③橙色④1/2	一枚作り。凹面：布目有。撫で。凸面：斜行叩き目痕有。撫で。押印文字有。側面：面取り２回。	237	天井部に使用
24	H－19 竈内	平　瓦	①(30.0) ②　2.8	①細粒②良好 ③灰色④破片	一枚作り。凹面：布目有。凸面：撫で。側面：面取り２回。	270	煙道部下部に使用
25	H－19 竈内	平　瓦	①(26.4) ②　2.0	①中粒②良好 ③灰白色④破片	一枚作り。凹面：布目有。凸面：撫で。篦書き文字有。	232ほか	篦書き文字
26	W－3	平　瓦	①　－ ②　3.2	①中粒②良好 ③灰色④破片	軒瓦か。凹面：布目有。凸面：撫で。側面：面取り３回。	12	
27	W－3	平　瓦	①　－ ②　2.1	①細粒②良好 ③橙色④破片	凹面：布目有。撫で。凸面：撫で。	6	篦書き文字
28	W－3	平　瓦	①　－ ②　2.3	①中粒②良好 ③灰色④破片	石英多く含む。凹面：布目有。凸面：平行叩き目文有。側面：面取り２回。	8	
29	W－3	平　瓦	①　－ ②　2.1	①中粒②良好 ③灰色④破片	石英多く含む。凹面：布目有。凸面：撫で。篦書き文字有。		篦書き文字
30	W－3	平　瓦	①　－ ②　1.7	①細粒②良好 ③灰白色④破片	凹面：布目有。撫で。凸面：縄叩き後撫で。側面：面取り１回。		
31	W－3	平　瓦	①　－ ②　1.4	①細粒②良好 ③灰色④破片	凹面：布目有。凸面：斜行し叩き目文有。		
32	W－3	丸　瓦	①　－ ②　1.6	①細粒②良好 ③灰白色④破片	玉縁式。凸面：撫で。凹面：布目有。側面：面取り３回。	14ほか	
33	W－3	丸　瓦	①　－ ②　1.5	①細粒②良好 ③灰色④破片	行基式。凸面：撫で。凹面：布目有。側面：面取り２回。		
34	X 46 Y125	平　瓦	①　－ ②　4.0	①中粒②良好 ③橙色④破片	軒瓦か。凹面：布目有。凸面：撫で。篦書き文字有。側面：面取り１回か。		篦書き文字

注）①層位は、「床直」：床面より10cm以内の層位からの検出、「埋土」：床面より11cm以上の層位からの検出の２段階に分けた。竈内の検出については「竈内」と記載した。
②長さ、厚さの単位はcmである。現存値を（　）、復元値を［　］で示した。
③胎土は、細粒（0.9mm以下）、中粒（1.0～1.9mm以下）、粗粒（2.0mm以上）とし、特徴的な鉱物が入る場合に鉱物名等を記載した。
④焼成は、極良・良好・不良の三段階とした。
⑤色調は瓦外面で観察し、色名は新版標準土色帳（小山・竹原1976）によった。

VI まとめ

本遺跡は相馬ヶ原扇状地の東縁にあり、遺跡内の微地形は北西から南東に向かって次第に低くなる。調査区の地層は、①30～40cmの現耕作土層、②10～20cmの As-B 混土層、③20～30cmの As-C・HR-FP 混土層、④15cmの As-C 混土層、⑤黄褐色砂質土層（総社砂層）で、東側では②層が厚く堆積し、また、④層も東側だけにある。遺構は⑤層まで掘り込んで構築されている。

本遺跡からは縄文時代前期から平安時代・中世の各時代にわたる資料が得られた。この中で量的な主体を占めるのは９世紀の遺構と遺物である。

本遺跡は推定国府域の西側に位置し、また、調査区の西には国分僧寺、北には国分尼寺が存在する。ここでは、元総社蒼海遺跡群の従来の分類に従い、Ⅰ期（～７世紀前半：律令期以前）、Ⅱ期（７世紀～10世紀初頭：律令期）、Ⅲ期（10世紀前半～：律令期以後）の３期に大別して集落跡を概観する。

Ⅰ期（～７世紀前半）

縄文時代の遺構は、竪穴住居跡が２軒、住居外埋設土器が１基、土坑が１基検出された。２軒の竪穴住居跡は諸磯ｃ式土器を伴う前期のものであり、底部を除去した土器を埋設している。住居外埋設土器は中期の加曽利Ｅ４式土器でこれも底部を除去している。周辺の遺跡でも前期と中期の竪穴住居跡等が検出されており、この辺りを中心に集落が広がっていたと考えられる。

古墳時代の遺構は、後期の竪穴住居跡が４軒検出された。４軒のうち３軒は東竈で、１軒が西竈である。竈は構築材として粘土を使用しており、東竈の住居跡の主軸方向はＮ－75°－Ｅ前後にまとまる。100m程南西の過年度調査の元総社小見Ⅱ・Ⅳ遺跡では４世紀・５世紀代の集落跡が検出されており、古墳時代の集落は時代とともに北へ展開していくと考えられる。

Ⅱ期（７世紀～10世紀初頭）

この時期に該当する竪穴住居跡は、時期の想定できたもので10軒検出された。

７世紀から８世紀代の竪穴住居跡は３軒で、主軸方向はＮ－74°－ＥからＮ－87°－Ｅである。

９世紀代の竪穴住居跡は７軒で、主軸方向はＮ－76°－ＥからＮ－117°－Ｅである。

また、住居跡の規模は、９世紀代のものは東西辺で2.5mから３m代にまとまる。

竈は、構築材として主に粘土を使用しているが、瓦も使用するようになる。９世紀中葉と想定されるＨ－11号竪穴住居跡は、竈の両袖および燃焼部壁、さらに貯蔵穴の上部（蓋のように）に瓦を使用している。また、この住居からは、内面に赤色物が付着した坏２点も出土している。

住居内での瓦の使用については、今後、国分僧寺・国分尼寺の衰退と関連させて検討していく必要があるであろう。

Ⅲ期（10世紀前半～）

この時期に該当する竪穴住居跡は３軒検出され、時期は10世紀前半と想定される。

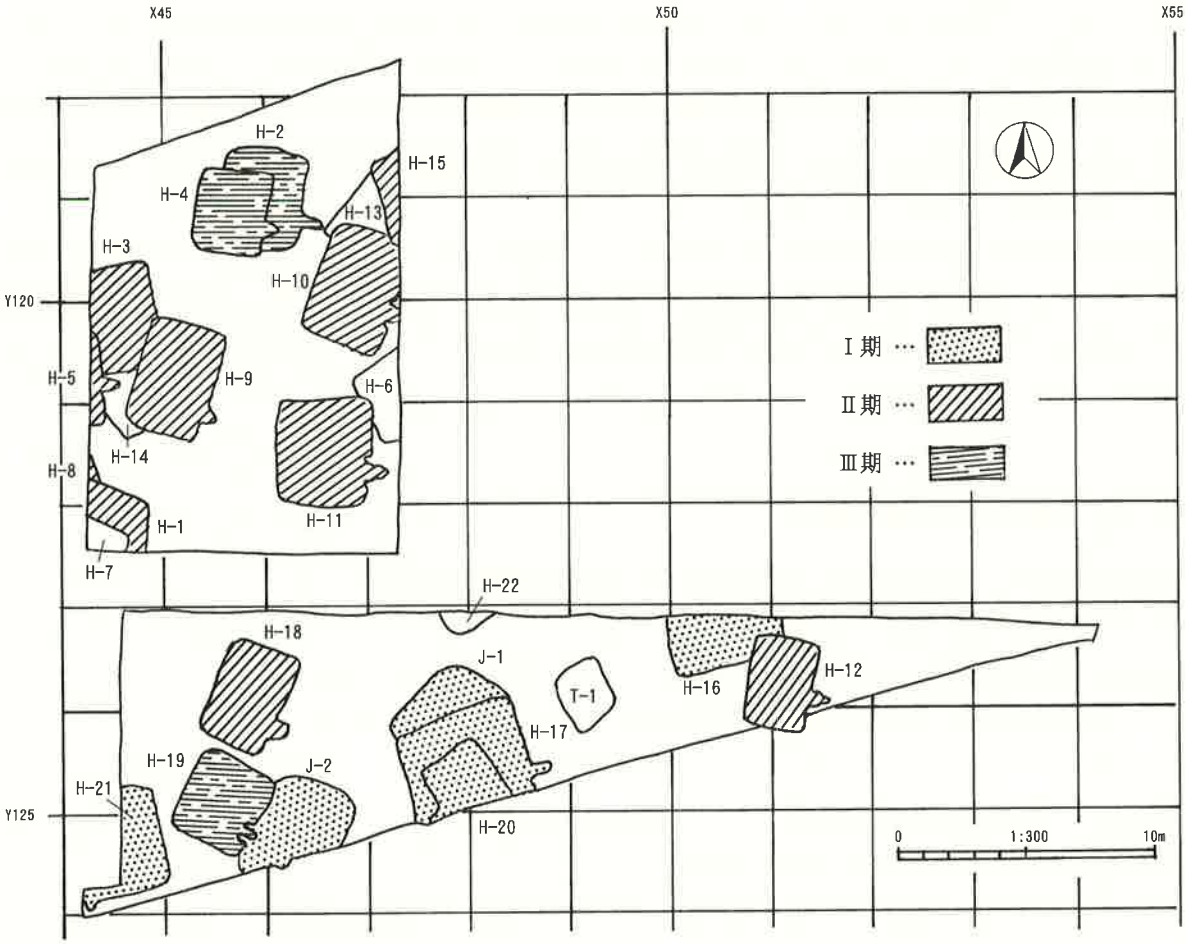
主軸方向はＮ－99°－ＥからＮ－119°－Ｅであり、規模は住居跡の東西辺で３m前後である。出土遺物は、崩れ

た高台の付く高台椀が多くなり、羽釜が共伴する。また、竈の構築材としての瓦の使用も継続し、H－19号竪穴住居跡は両袖・天井・煙道下部に使用している。

10世紀前半以降の遺構としては、As-B（浅間B軽石）が覆土に入る溝跡・井戸跡等が検出された。この中でW－1号溝跡は、部分的な検出であるが、直線的・断面形が薬研掘りに近い・深さが1.4mにもなることから、何らかの施設に伴う遺構の可能性も考えられる。

本遺跡地周辺では、Ⅰ期の縄文時代より人々の生活が営まれている。そして、Ⅱ期からⅢ期にかけては、さらに多くの人々が連続して生活を続けている。

今後も継続していく元総社蒼海遺跡群の発掘調査により、国府・国分僧寺・国分尼寺、さらには蒼海城と周辺集落の関わりがより明らかになっていくことを期待したい。



時期別の竪穴住居跡配置図

〈引用参考文献〉

群馬県埋蔵文化財調査事業団編　『中尾』　㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団　1984年

群馬県埋蔵文化財調査事業団編　『糸井宮前遺跡II』　㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団　1986年

群馬県埋蔵文化財調査事業団編　『上野国分僧寺・尼寺中間地域１～８』　㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団　1986年～

群馬県教育委員会　『史跡上野国分寺跡』　1988年

東京都埋蔵文化財センター　『資料目録６』　㈶東京都教育文化財団東京都埋蔵文化財センター　1991年

山武考古学研究所編　『総社閑泉明神北遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1999年

真塩明男・飯田祐二編　『上野国分尼寺寺域確認調査』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2000年

鈴木雅浩・高橋一彦編　『元総社宅地遺跡・上野国分尼寺寺域確認調査II』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2000年

山武考古学研究所編　元総社蒼海遺跡群『元総社小見遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2000年

山武考古学研究所編　元総社蒼海遺跡群『元総社小見内III遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2001年

齊木一敏・近藤雅順編　元総社蒼海遺跡群『総社甲稲荷塚大道西遺跡・総社閑泉明神北II遺跡・総社甲稲荷塚大道西II遺跡』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2001年

齊木一敏・高坂麻子編　元総社蒼海遺跡群『元総社小見内IV遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2002年

高橋一彦・近藤薫編　元総社蒼海遺跡群『総社甲稲荷塚大道西III遺跡・総社閑泉明神北III遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2002年

山武考古学研究所編　元総社蒼海遺跡群『元総社小見II遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2002年

山武考古学研究所編　元総社蒼海遺跡群『元総社小見III遺跡・元総社草作V遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2002年

高橋一彦・高坂麻子編　元総社蒼海遺跡群『元総社小見V遺跡・元総社小見内VI遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2003年

高橋一彦・高坂麻子編　元総社蒼海遺跡群『元総社小見IV遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2003年

近藤雅順・稲垣慎太郎編　元総社蒼海遺跡群『元総社小見内VII遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2003年

近藤雅順・稲垣慎太郎編　元総社蒼海遺跡群『元総社小見内VIII遺跡・総社甲稲荷塚大道西IV遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2003年

岩崎琢郎・高坂麻子編　元総社蒼海遺跡群『元総社小見内IX遺跡・総社閑泉明神北V遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2005年

山武考古学研究所編　元総社蒼海遺跡群『元総社小見内X遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2005年

スナガ環境測設株式会社編　『元総社蒼海遺跡群（３）』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2005年

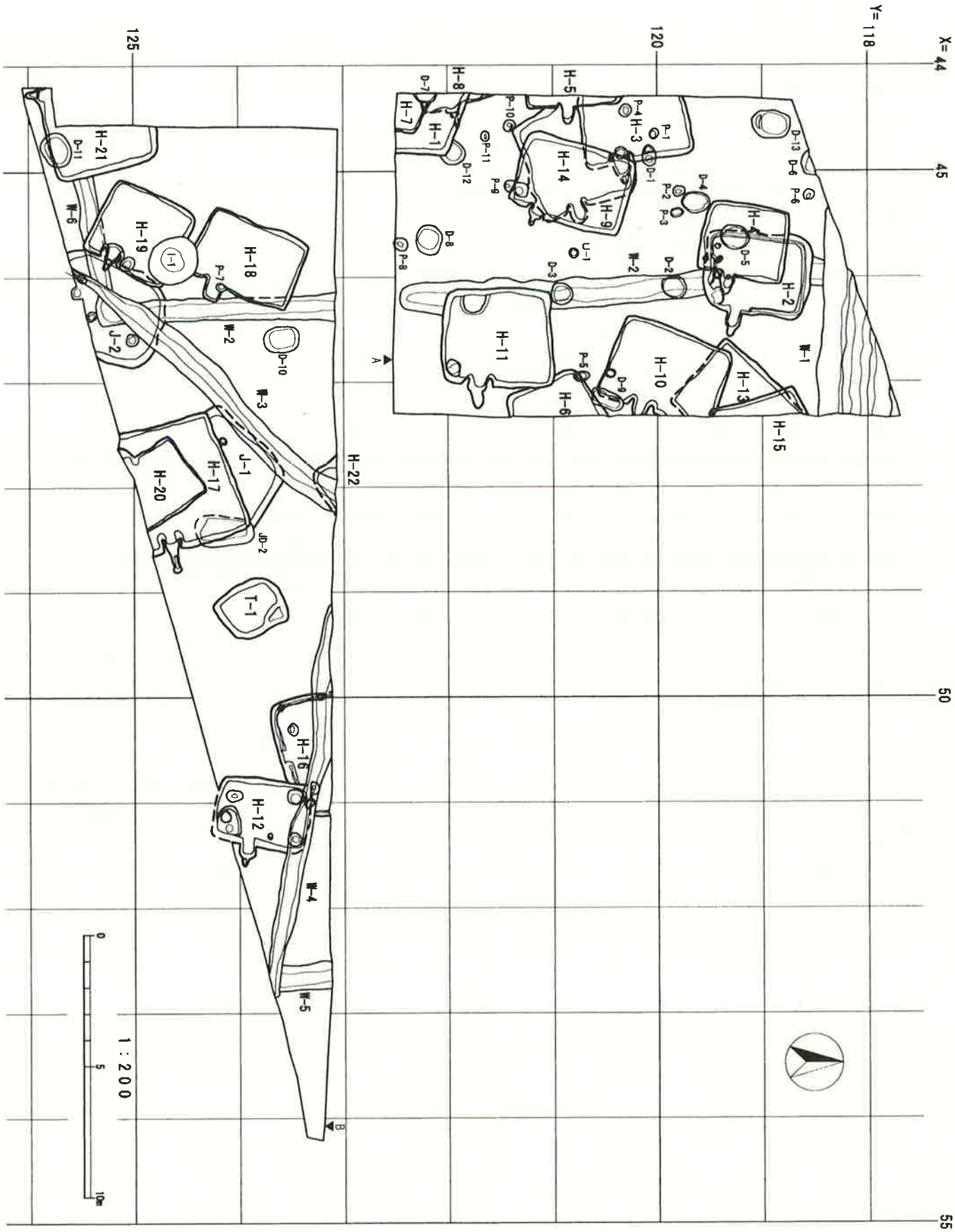
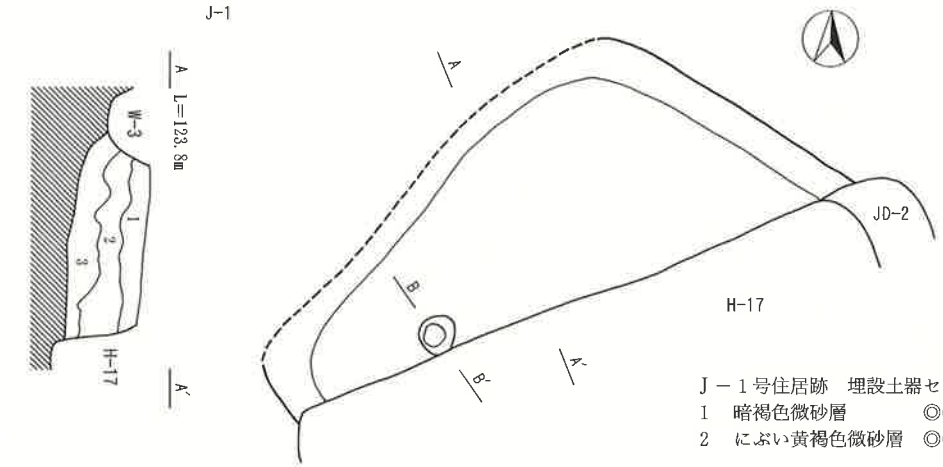
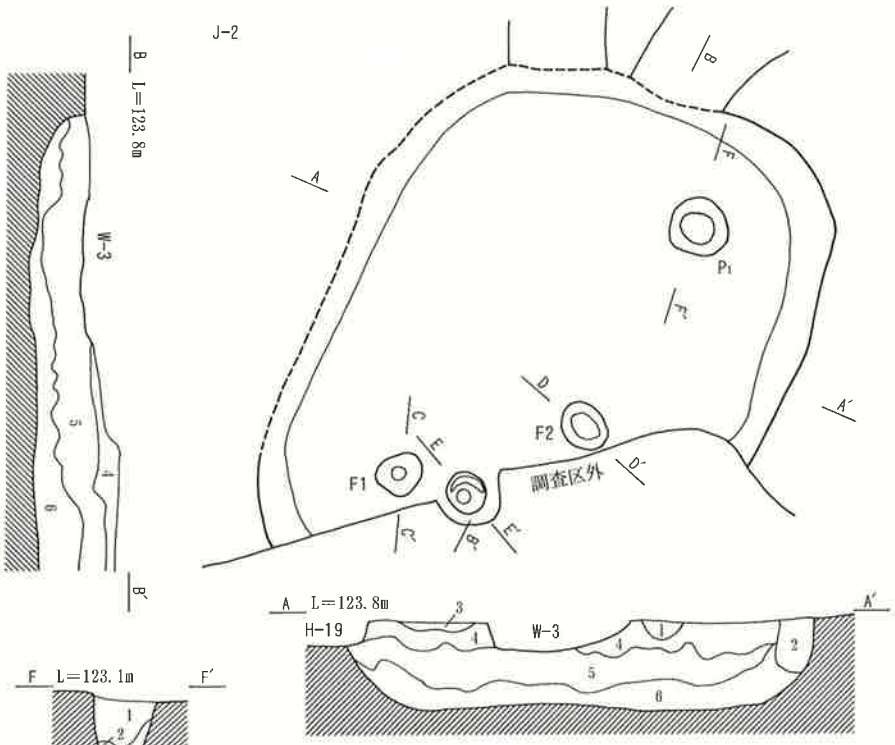


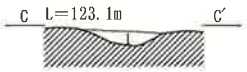
Fig. 5　元総社蒼海遺跡（4）全体図



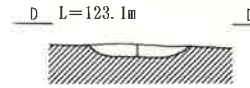
J－1号住居跡　埋設土器セクション
1　暗褐色微砂層　◎○　白色・赤褐色軽石（φ 1㎜以下）1％
2　にぶい黄褐色微砂層　◎○　白色・赤褐色軽石（φ 1㎜以下）1％、黄橙色ブロック1％
3　にぶい黄褐色微砂層　◎○　赤褐色軽石（φ 1～5㎜）1％

J－1号住居跡　ベルトセクション
1　暗褐色微砂層　○○　橙色軽石（φ 5～10㎜）1％、黄橙色ブロック（φ 5～10㎜）2％
2　黒褐色微砂層　◎○　赤褐色・黄褐色軽石（φ 1㎜）2％、黄橙色ブロック（φ10～30㎜）5％、炭化物1％
3　褐色微砂層　◎○　赤褐色・黄褐色軽石（φ 1～5㎜）2％、黄橙色ブロック（φ 5～20㎜）2％

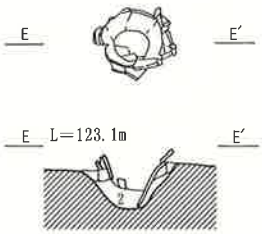




J－2号住居跡　F1号炉跡セクション
1　にぶい黄褐色微砂層　○○　焼土粒5％



J－2号住居跡　F2号炉跡セクション
1　にぶい黄褐色微砂層　△○　焼土粒1％



J－2号住居跡　埋設土器セクション
1　にぶい黄褐色微砂層　◎○　白色軽石1％
2　オリーブ褐色微砂層　○○　白色軽石1％

0　1：30　1m

J－2号住居跡　P1号柱穴セクション
1　褐色微砂層　◎○　白色・赤褐色軽石1％、黄橙色ブロック（φ 5～15㎜）3％
2　オリーブ褐色微砂層　○○　黄橙色粒50％
3　黄褐色微砂層　○○　白色・赤褐色軽石1％

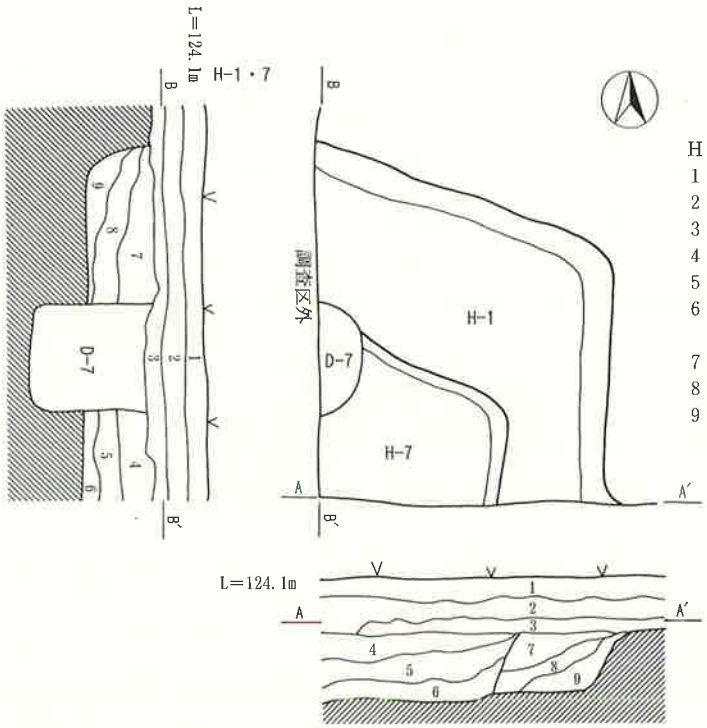
J－2号住居跡　ベルトセクション
1　にぶい黄褐色細砂層　○○　As-C 5％
2　にぶい黄褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP 5％
3　にぶい黄褐色微砂層　○○
4　褐色微砂層　○○　赤褐色軽石（φ 1㎜）2％
5　黒褐色微砂層　◎○　赤褐色軽石（φ 1～3㎜）5％
6　にぶい黄褐色微砂層　◎○　赤褐色軽石（φ 1～3㎜）5％、白色軽石（φ 1㎜）2％

0　1：60　2m

J－2号住居跡柱穴計測表

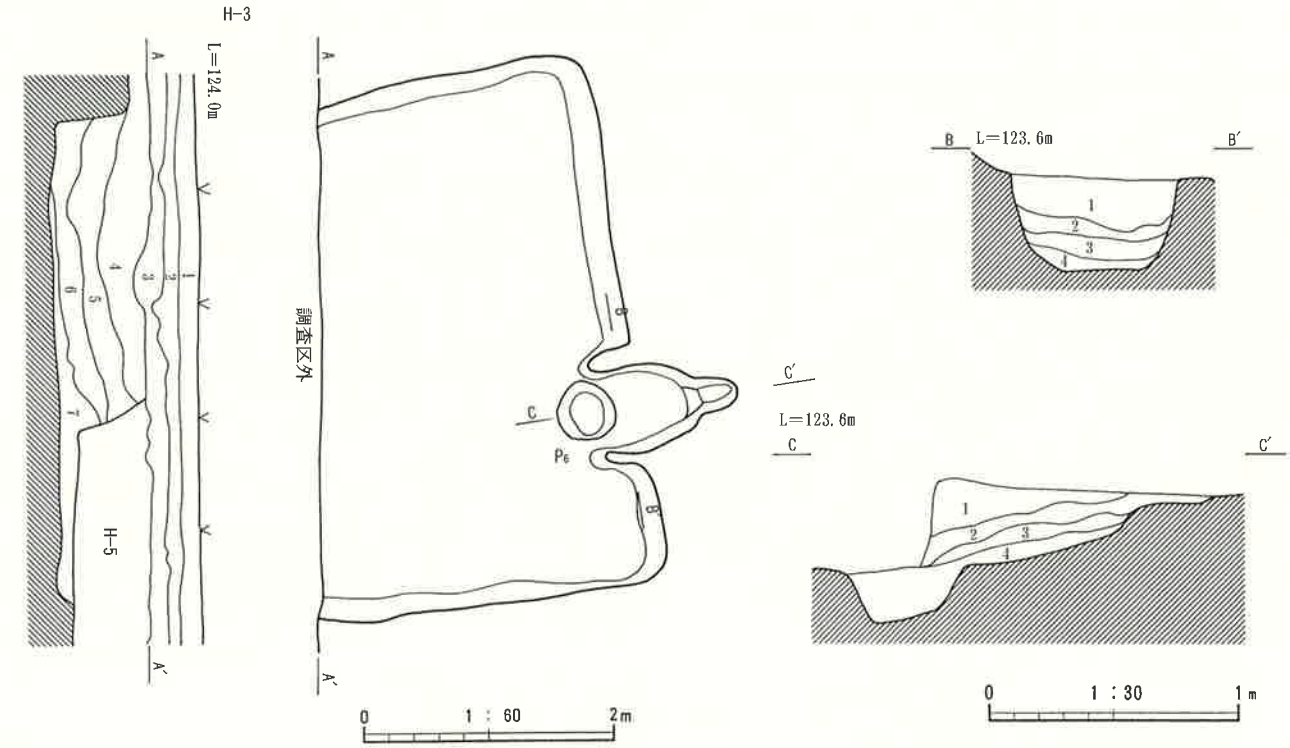
No.	形　状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
P_1	円　形	50	48	55.5

Fig. 6　J－1・2号住居跡



H－1・7号住居跡　ベルトセクション

1	灰黄褐色細砂層	○△	現耕作土
2	褐色細砂層	◎○	現代の水田耕作土
3	灰黄褐色粗砂層	○△	As-B 混土層
4	褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP 10%
5	にぶい黄褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP 5%、炭化物 1%
6	にぶい黄褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP 2%、黄橙色ブロック（φ10mm）
7	にぶい黄褐色細砂層	○○	Hr-FP 20%
8	にぶい黄褐色細砂層	○○	Hr-FP 10%
9	暗褐色細砂層	○○	Hr-FP 5%、東側端部に褐色粘土ブロック



H－3号住居跡　ベルトセクション

1	灰黄褐色細砂層	○△	現耕作土
2	褐色細砂層	◎○	現代の水田耕作土
3	灰黄褐色粗砂層	○△	As-B 混土層
4	灰黄褐色細砂層	○○	Hr-FP 2%、As-B 10%
5	にぶい黄褐色細砂層	○○	Hr-FP 1%、黄橙色ブロック（φ10mm）5%、炭化物 1%
6	にぶい黄褐色細砂層	○○	Hr-FP 2%、黄橙色ブロック（φ10～30mm）10%、炭化物 1%
7	灰黄褐色細砂層	○◎	As-C・Hr-FP 1%、黄橙色ブロック（φ10mm）1%、浅黄橙色粘土ブロック 2%

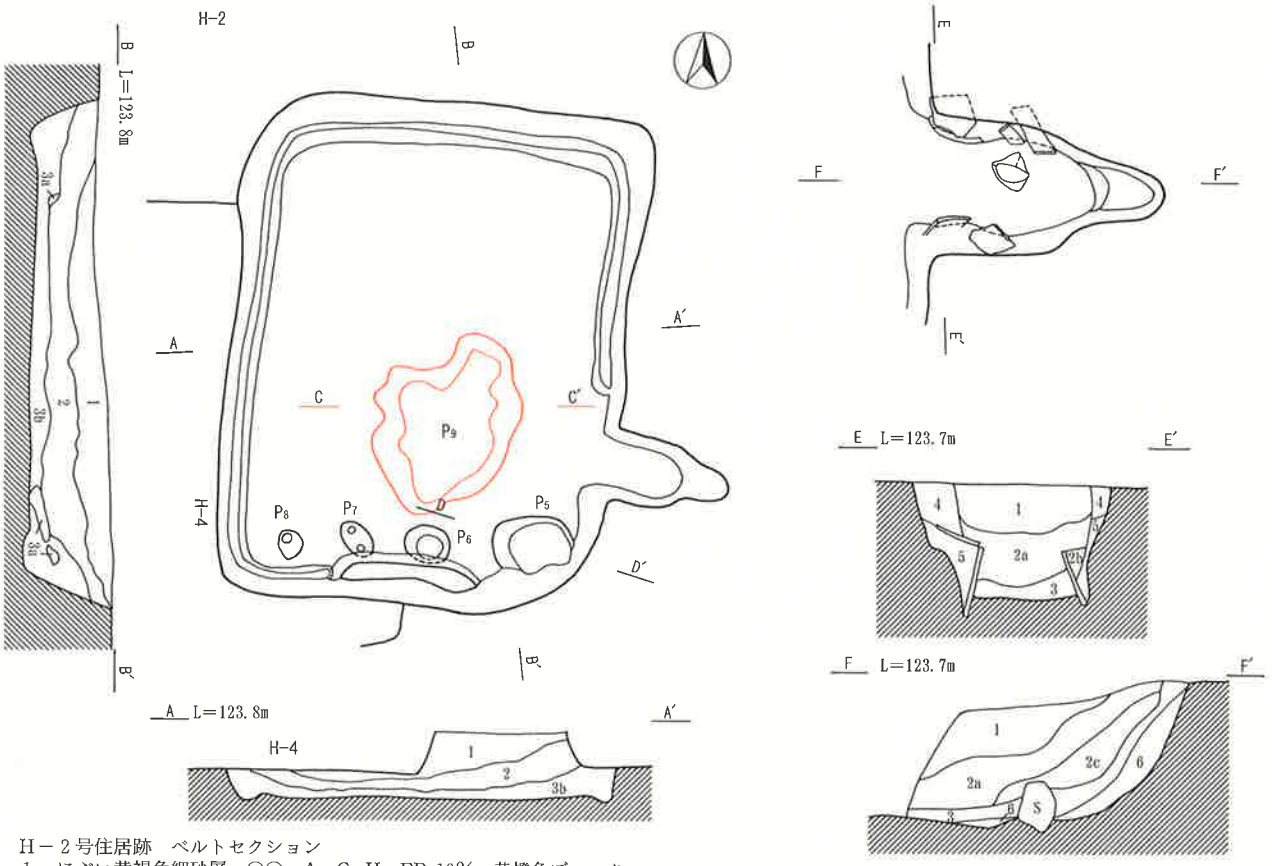
H－3号住居跡　竈セクション

1	にぶい黄褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP 5%、灰褐色粘土ブロック・黄橙色ブロック（φ 5～20mm）1%
2	暗褐色細砂層	○◎	灰褐色粘土ブロック主体、焼土粒・黄橙色ブロック（φ10mm）1%
3	暗褐色微砂層	○◎	焼土ブロック20%
4	灰黄褐色微砂層	△○	灰層、黄橙色粒 2%

H－3号住居跡柱穴計測表

No.	形　状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P_6	円　形	47	44	21.5	灰掻き穴

Fig. 7　H－1・3・7号住居跡



H－２号住居跡　ベルトセクション

1　にぶい黄褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP 10%、黄橙色ブロック（φ10mm）２％

2　にぶい黄褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP 15%、黄橙色ブロック（φ10～20mm）５％

3a　黒褐色微砂層　△○　灰層

3b　褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP ５%、黄橙色ブロック（φ５～10mm）２％

H－２号住居跡　竈セクション

1　暗褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP ５%、灰褐色粘土ブロック（φ15mm）２％

2a　灰褐色微砂層　○◎　灰褐色粘土主体、焼土粒・炭化物１％

2b　にぶい赤褐色微砂層　○○　焼土主体

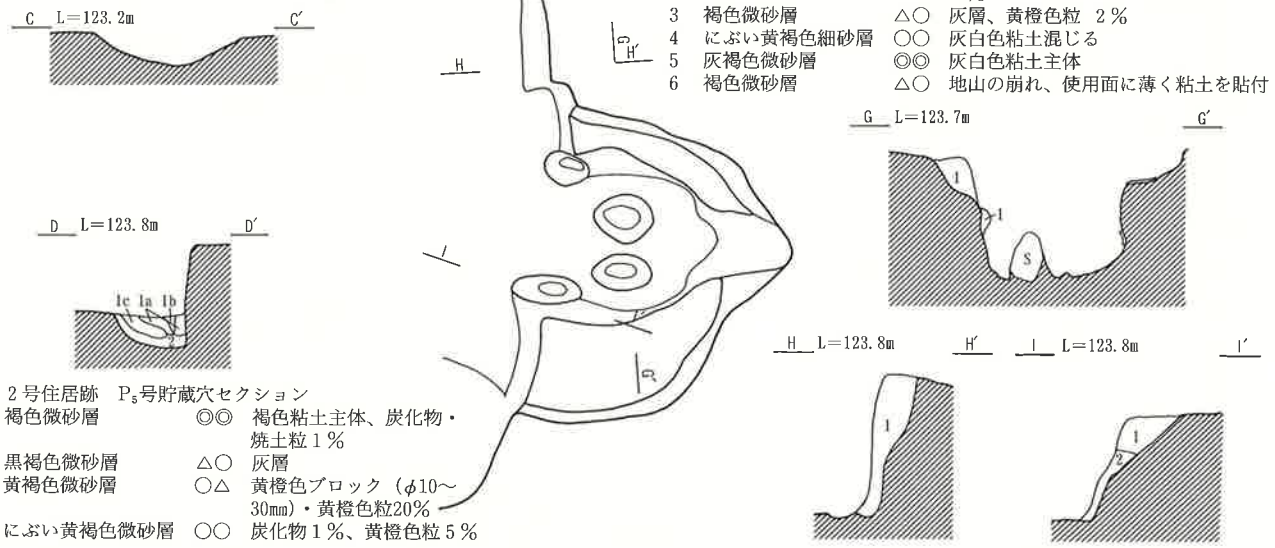
2c　にぶい黄褐色細砂層　○○　Hr-FP １%、黄橙色ブロック（φ10mm）１％

3　褐色微砂層　△○　灰層、黄橙色粒　２％

4　にぶい黄褐色細砂層　○○　灰白色粘土混じる

5　灰褐色微砂層　◎◎　灰白色粘土主体

6　褐色微砂層　△○　地山の崩れ、使用面に薄く粘土を貼付



H－２号住居跡　P_5号貯蔵穴セクション

1a　褐色微砂層　◎◎　褐色粘土主体、炭化物・焼土粒１％

1b　黒褐色微砂層　△○　灰層

1c　黄褐色微砂層　○△　黄橙色ブロック（φ10～30mm）・黄橙色粒20%

2　にぶい黄褐色微砂層　○○　炭化物１％、黄橙色粒５％

H－２号住居跡　竈袖裁割セクション

1　にぶい黄褐色細砂層　○○　灰白色粘土混じる

2　灰褐色微砂層　◎◎　灰白色粘土主体

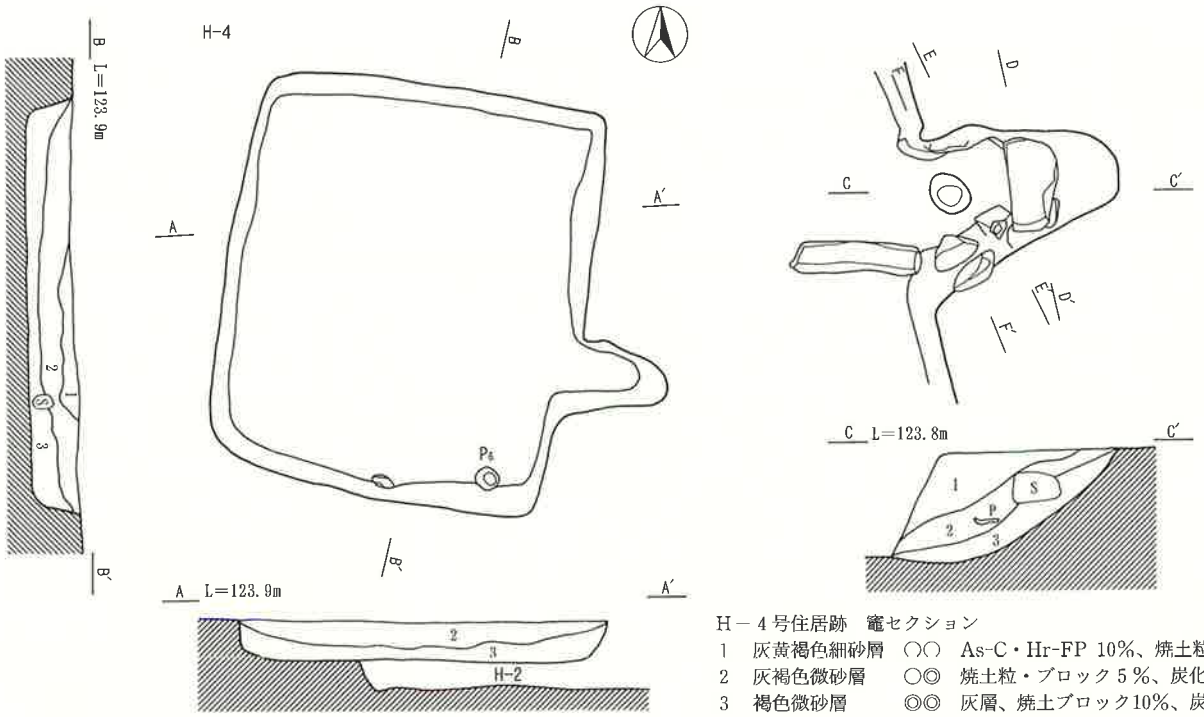
0　1：30　1m

H－２号住居跡柱穴計測表

No.	形　状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P_5	楕円形	64	48	26.5	貯蔵穴
P_6	楕円形	35	27	24.5	
P_7	楕円形	30	17	10.5	
P_8	円　形	22	19	7.5	
P_9	不整形	150	113	16.0	床下土坑

0　1：60　2m

Fig. 8　H－２号住居跡



H－４号住居跡　竈セクション

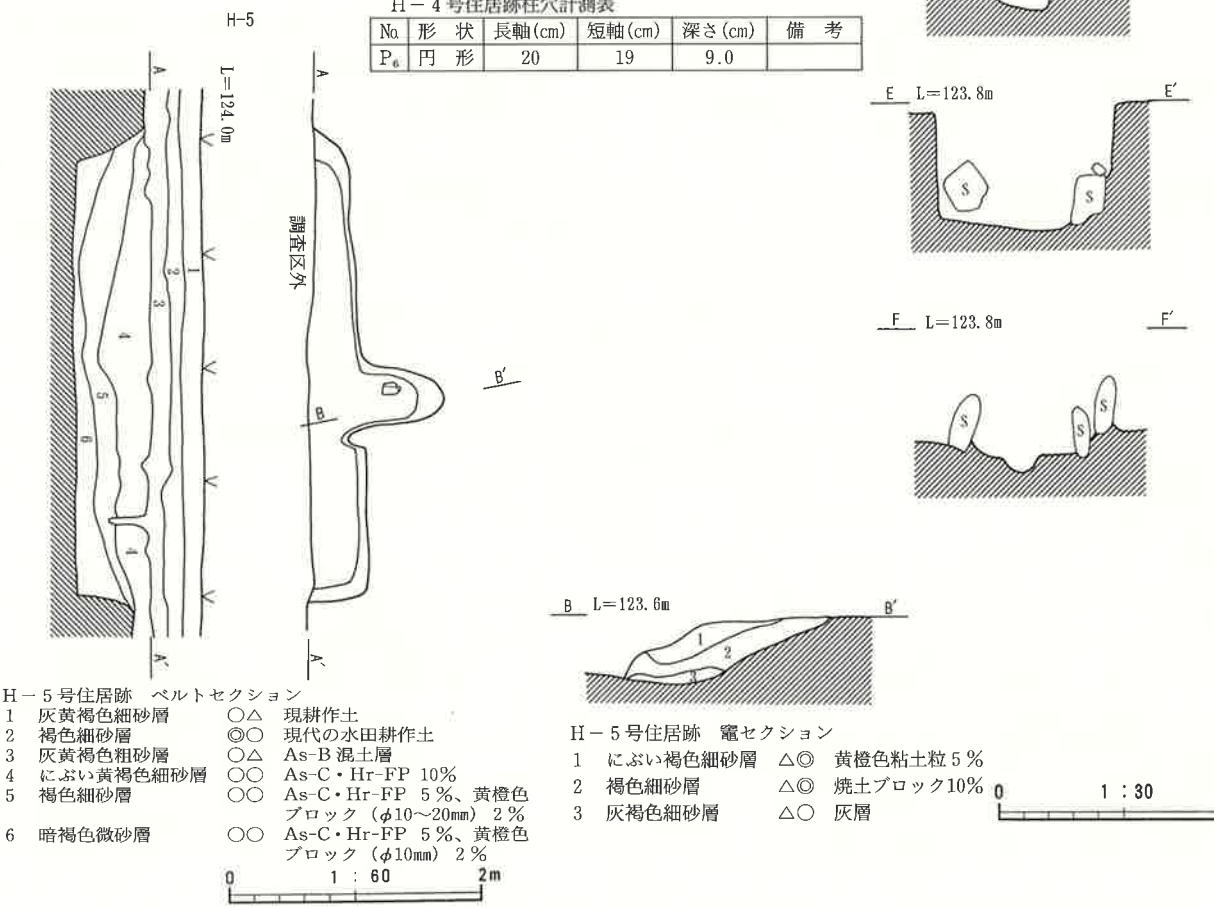
1　灰黄褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP 10%、焼土粒１％
2　灰褐色微砂層　○◎　焼土粒・ブロック５％、炭化物２％
3　褐色微砂層　◎◎　灰層、焼土ブロック10%、炭化物１％

H－４号住居跡　ベルトセクション

1　灰黄褐色細砂層　○△　As-B 15%、As-C・Hr-FP 10%、炭化物１％
2　にぶい黄褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP 10%
3　にぶい黄褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP ５％、黄橙色ブロック（φ10mm）２％

H－４号住居跡柱穴計測表

No.	形　状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P_6	円　形	20	19	9.0	



H－５号住居跡　ベルトセクション

1　灰黄褐色細砂層　○△　現耕作土
2　褐色細砂層　◎○　現代の水田耕作土
3　灰黄褐色粗砂層　○△　As-B 混土層
4　にぶい黄褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP 10%
5　褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP ５％、黄橙色ブロック（φ10～20mm）２％
6　暗褐色微砂層　○○　As-C・Hr-FP ５％、黄橙色ブロック（φ10mm）２％

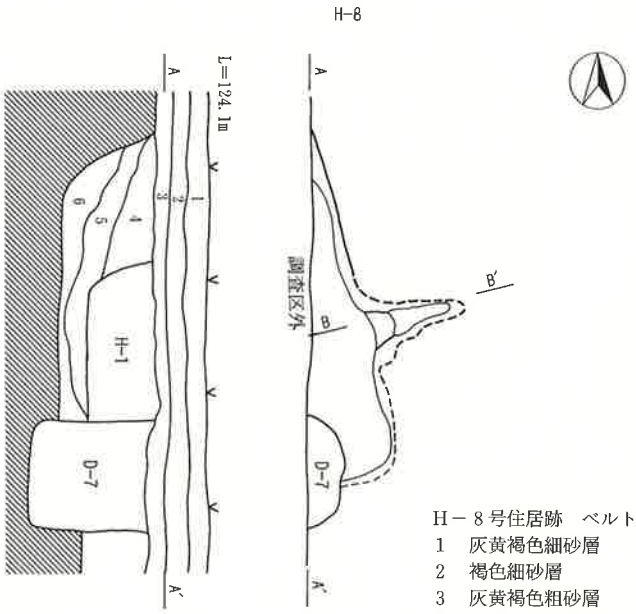
0　1：60　2m

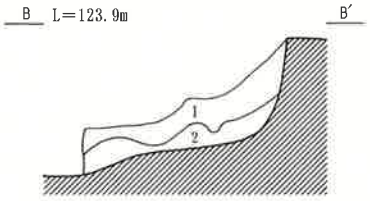
H－５号住居跡　竈セクション

1　にぶい褐色細砂層　△◎　黄橙色粘土粒５％
2　褐色細砂層　△◎　焼土ブロック10%
3　灰褐色細砂層　△○　灰層

0　1：30　1m

Fig. 9　H－４・５号住居跡



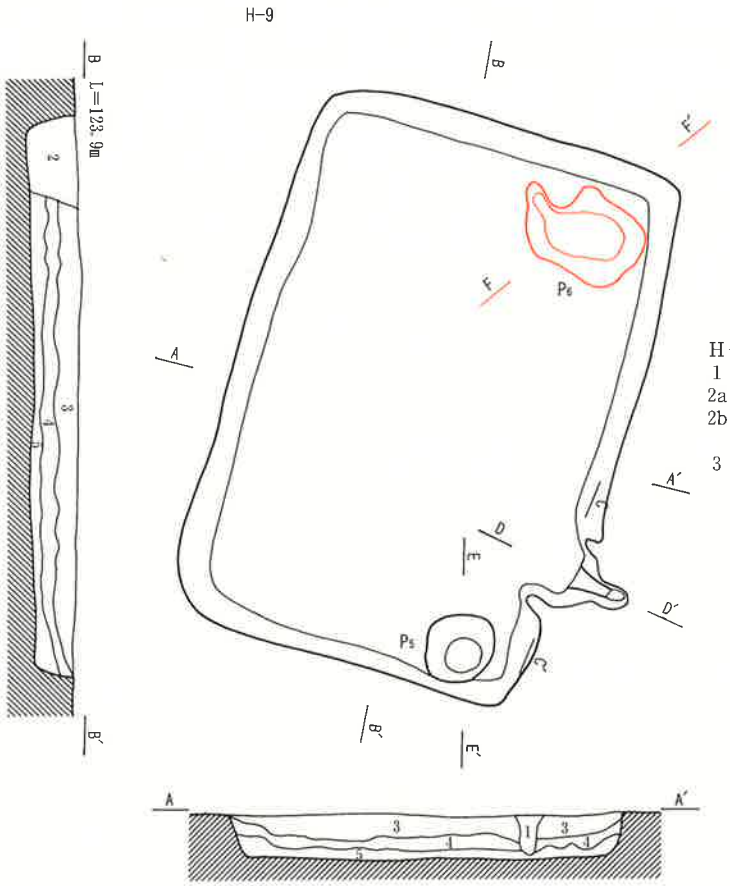


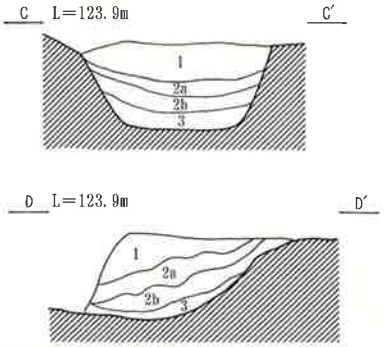
H－８号住居跡　竈セクション

1	灰黄褐色細砂層	○◎	Hr-FP 1％、炭化物５％、黄橙色土混じる
2	にぶい黄褐色細砂層	○◎	炭化物10％、浅黄橙色粘土ブロック２％

H－８号住居跡　ベルトセクション

1	灰黄褐色細砂層	○△	現耕作土
2	褐色細砂層	◎○	現代の水田耕作土
3	灰黄褐色粗砂層	○△	As-B 混土層
4	にぶい黄褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP 20％
5	にぶい黄褐色細砂層	○○	Hr-FP ５％、黄橙色ブロック（φ10mm）２％
6	にぶい黄褐色細砂層	○○	Hr-FP ５％、黄橙色ブロック（φ10～30mm）２％

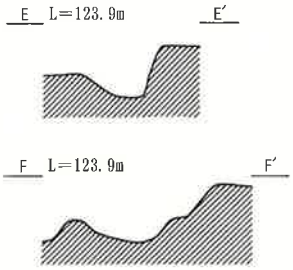




H－９号住居跡　竈セクション

1	にぶい黄褐色細砂層	○○	Hr-FP 10％
2a	褐色微砂層	○◎	灰褐色粘土主体、焼土粒２％
2b	褐色微砂層	○◎	焼土ブロック５％、左側部に灰褐色粘土多い
3	褐色微砂層	△○	灰層

0　1：30　1m



H－９号住居跡　ベルトセクション

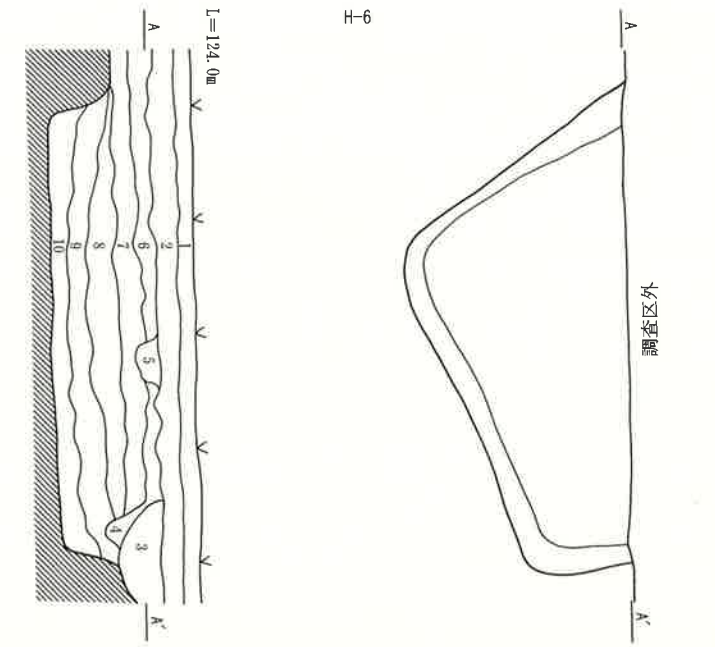
1	灰黄褐色細砂層	○△	As-B 50％
2	灰黄褐色細砂層	○△	As-B 20％、As-C・Hr-FP 10％
3	にぶい黄褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP 20％
4	にぶい黄褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP 10％、黄橙色ブロック１％
5	褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP ５％

0　1：60　2m

H－９号住居跡柱穴計測表

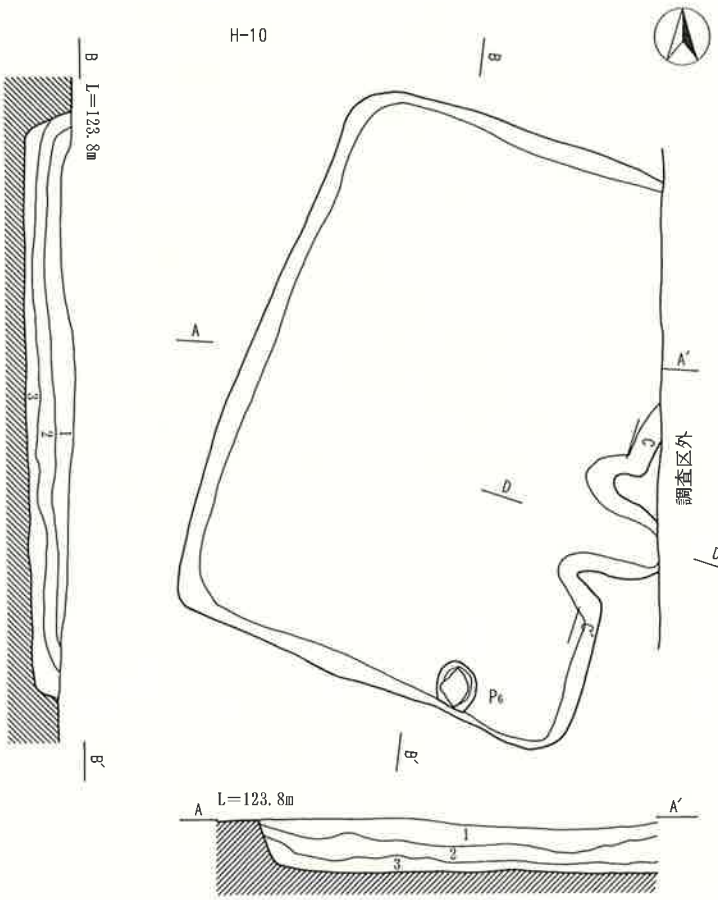
No.	形　状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P_5	円　形	52	51	19.5	貯 蔵 穴
P_6	不整形	98	70	22.0	床下土坑

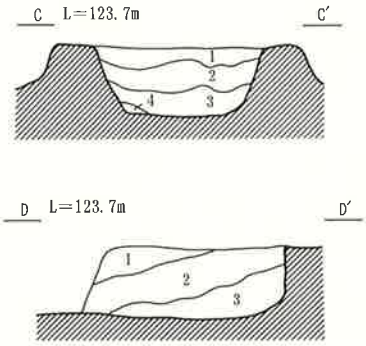
Fig.10　H－８・９号住居跡



H－6号住居跡　ベルトセクション

1	灰黄褐色細砂層	○△	現耕作土
2	褐色細砂層	◎○	現代の水田耕作土
3	にぶい黄褐色粗砂層	○×	
4	灰黄褐色粗砂層	○×	
5	灰黄褐色粗砂層	○×	石多い
6	灰黄褐色粗砂層	○△	As-B 混土層
7	にぶい黄褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP 20%
8	にぶい黄褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP 20%、黄橙色ブロック（φ10～20mm）2％
9	暗褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP 10%、黄橙色ブロック（φ10～20mm）5％
10	暗褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP 5％、黄橙色ブロック（φ10～30mm）5％





H－10号住居跡　竈セクション

1	にぶい黄褐色微砂層	△○	As-C・Hr-FP 5％、灰褐色粘土ブロック（φ10～20mm）2％
2	褐色微砂層	○◎	灰褐色粘土主体、下部に焼土ブロック・粒含む
3	灰褐色微砂層	△○	灰層、上部に焼土ブロック含む
4	黄褐色微砂層	△○	黄橙色粒20%、灰混じる

0　1：30　1m

H－10号住居跡　ベルトセクション

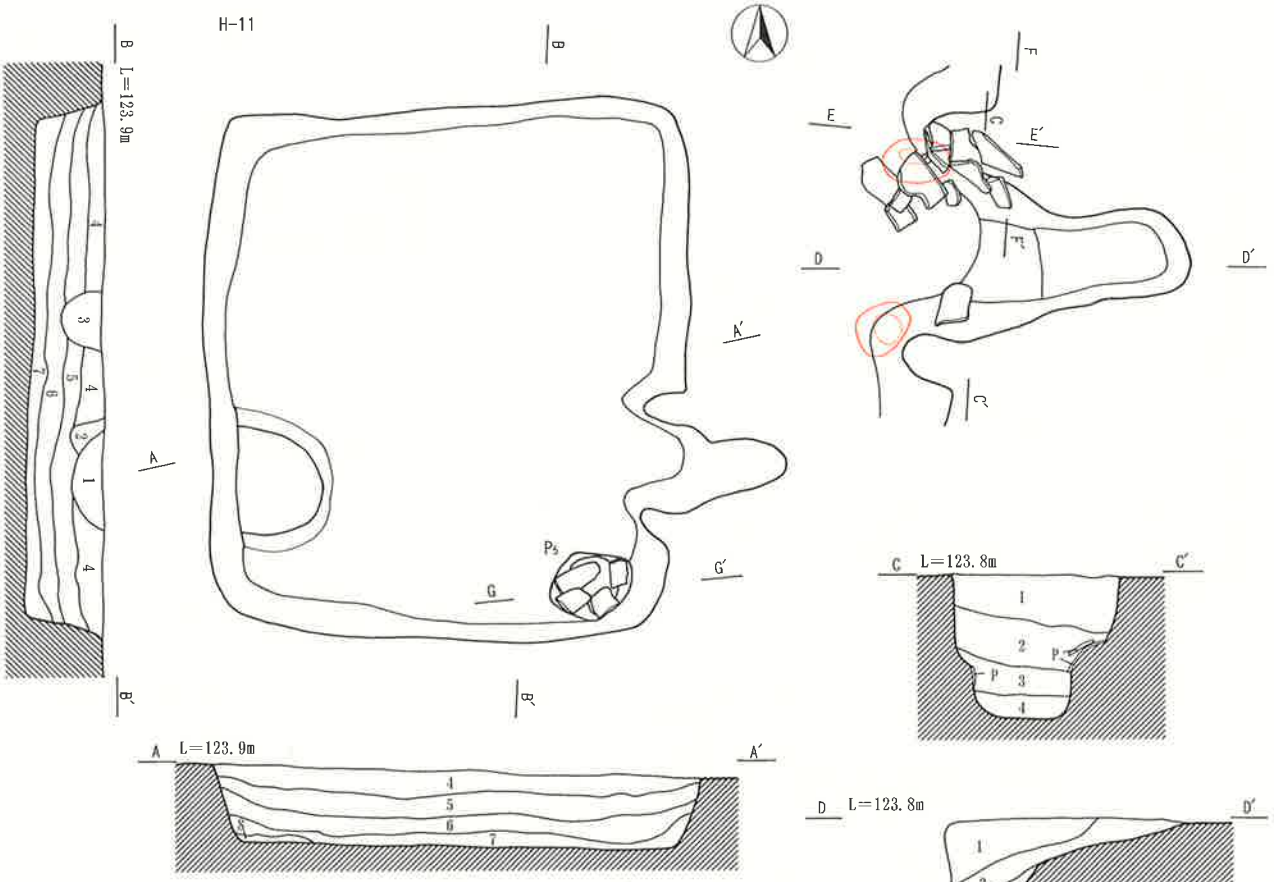
1	にぶい黄褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP 20%
2	暗褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP 10%
3	褐色微砂層	○○	As-C・Hr-FP 2％、黄橙色粒・ブロック（φ 5～20mm）5％

0　1：60　2m

H－10号住居跡柱穴計測表

No.	形　状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P6	楕円形	38	32	10.5	

Fig.11　H－6・10号住居跡



H－11号住居跡　ベルトセクション

1	にぶい黄褐色細砂層	○○	As-B 5％、As-C・Hr-FP 5％
2	灰黄褐色細砂層	×△	As-B10％、As-C・Hr-FP 2％
3	にぶい黄褐色細砂層	○△	As-B10％、As-C・Hr-FP 5％
4	褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP 20％
5	褐色微砂層	○○	As-C・Hr-FP 10％、灰褐色粘土・焼土粒・炭化物混じる
6	にぶい黄褐色微砂層	○○	As-C・Hr-FP 5％、炭化物1％
7	暗褐色微砂層	○○	As-C・Hr-FP 2％、炭化物1％、黄橙色粒2％
8	暗褐色細砂層	◎○	

H－11号住居跡　竈セクション

1	暗褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP 5％、焼土粒・炭化物1％
2	褐色微砂層	○◎	灰褐色粘土主体、焼土ブロック10％
3	褐色微砂層	○○	焼土ブロック・焼土粒20％、炭化物2％
4	灰褐色微砂層	△○	灰層、黄橙色粒20％

H－11号住居跡　P_5号貯蔵穴セクション

1	にぶい黄褐色細砂層	△○	
2	にぶい褐色微砂層	○◎	粘土層
3	にぶい黄褐色微砂層	△◎	黄橙色ブロック1％

H－11号住居跡柱穴計測表

No.	形　状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P_5	楕円形	70	53	23.5	貯 蔵 穴

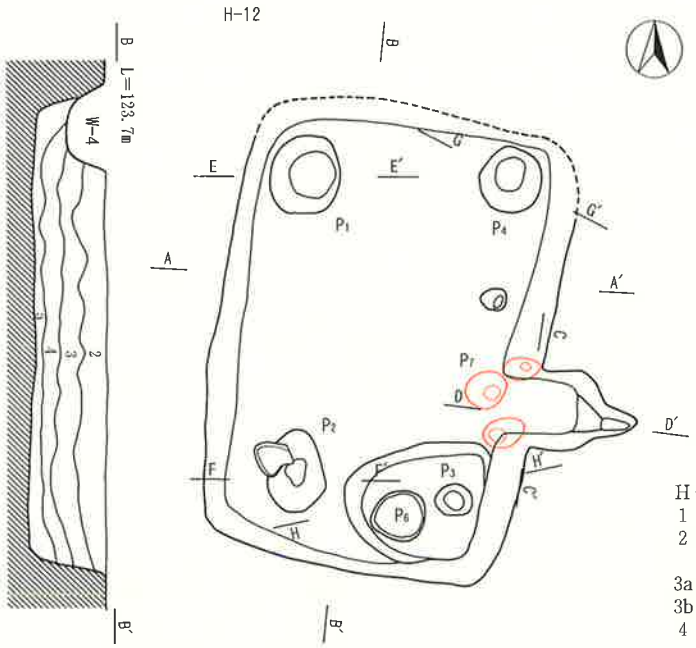
H－11号住居跡　竈袖裁割セクション

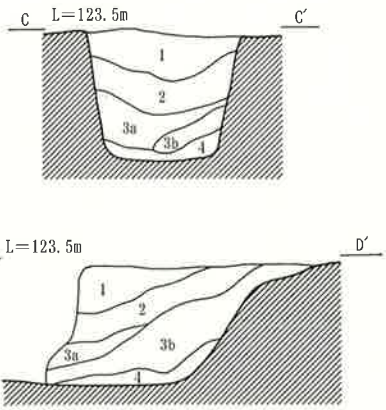
1	黒褐色細砂層	○○
2	にぶい褐微砂層	◎◎

0　1：60　2m

0　1：30　1m

Fig.12　H－11号住居跡

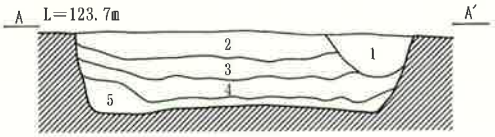




H－12号住居跡　竈セクション

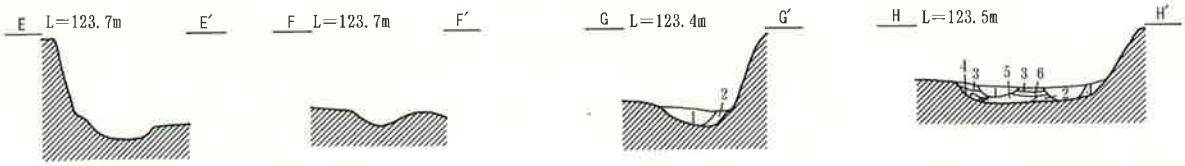
1　暗褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP　5％
2　暗褐色微砂層　○○　As-C・Hr-FP　3％、灰褐色粘土ブロック（φ 5～20mm）10％、炭化物1％
3a　褐色微砂層　○◎　灰褐色粘土主体
3b　灰褐色微砂層　○○　灰褐色粘土主体、焼土ブロック10％
4　褐灰色微砂層　×△　灰層、灰褐色粘土10％

0　1：30　1m



H－12号住居跡　ベルトセクション

1　にぶい黄褐色細砂層　△○　As-C・Hr-FP 20％
2　にぶい黄褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP 10％
3　にぶい黄褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP　5％
4　暗褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP　2％
5　暗褐色細砂層　○◎　As-C・Hr-FP　1％、黄橙色粒5％



H－12号住居跡　P_4号柱穴セクション

1　にぶい黄橙色細砂層　○○　黄橙色ブロック（φ10～30mm）20％
2　明黄褐色微砂層　△○　As-C多く含む、粘土ブロック多く含む

0　1：60　2m

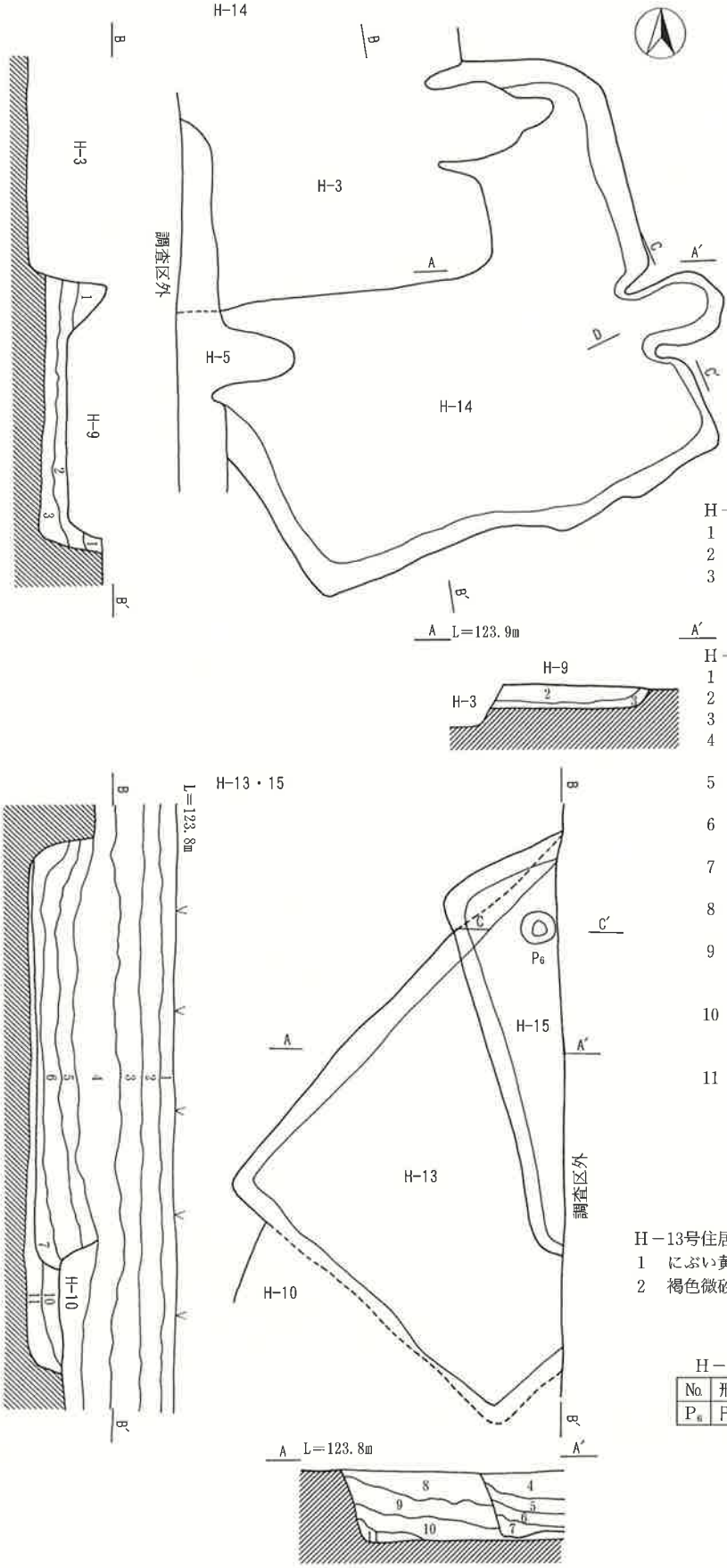
H－12号住居跡　P_3・P_6号柱穴セクション

1　暗褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP　2％
2　灰褐色微砂層　◎◎　Hr-FP　5％
3　明黄褐色微砂層　◎○
4　にぶい黄褐色微砂層　○◎　Hr-FP　1％、黄橙色粒10％
5　にぶい褐色微砂層　◎◎　粘土層、Hr-FP　1％、黄橙色粒2％
6　明黄褐色微砂層　○○

H－12号住居跡柱穴計測表

No.	形　状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P_1	円　形	61	55	20.0	
P_2	楕円形	65	45	26.0	
P_3	円　形	28	26	15.0	
P_4	円　形	52	48	22.5	
P_6	円　形	44	40	19.0	
P_7	円　形	16	16	25.0	灰掻き穴

Fig.13　H－12号住居跡



H－14号住居跡　竈セクション

1	にぶい黄褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP　1％
2a	褐色微砂層	○◎	焼土粒1％
2b	暗褐色微砂層	◎◎	灰褐色粘土主体、焼土粒1％
3a	灰褐色微砂層	△○	灰層、焼土粒5％
3b	にぶい褐色細砂層	△△	灰層、焼土粒20％

0　1：30　1m

H－14号住居跡　ベルトセクション

1	にぶい黄褐色細砂層	△○	Hr-FP　1％
2	にぶい黄褐色細砂層	○○	Hr-FP 10％、黄橙色粒20％
3	にぶい黄褐色細砂層	△○	As-C・Hr-FP　1％、黄橙色粒20％

H－13・15号住居跡　ベルトセクション

1	灰黄褐色細砂層	○△	現耕作土
2	褐色細砂層	◎○	現代の水田耕作土
3	灰黄褐色粗砂層	○△	As-B混土層
4	にぶい黄褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP 20％、黄橙色粒2％、炭化物1％
5	褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP 10％、黄橙色ブロック（φ10～20mm）1％
6	にぶい黄褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP　5％、黄橙色ブロック（φ10～20mm）1％
7	暗褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP　1％、黄橙色ブロック（φ10mm）1％
8	黒褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP 10％、黄橙色ブロック（φ10～30mm）2％
9	にぶい黄褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP　5％、黄橙色ブロック（φ10～30mm）10％、黒褐色土ブロック混じる
10	にぶい黄褐色細砂層	○○	Hr-FP　1％、黄橙色ブロック（φ10～30mm）20％、黒褐色土ブロック混じる
11	にぶい黄橙色細砂層	○○	Hr-FP　1％、黄橙色ブロック（φ10mm）1％、黄橙色粒5％

H－13号住居跡　P_6号柱穴セクション

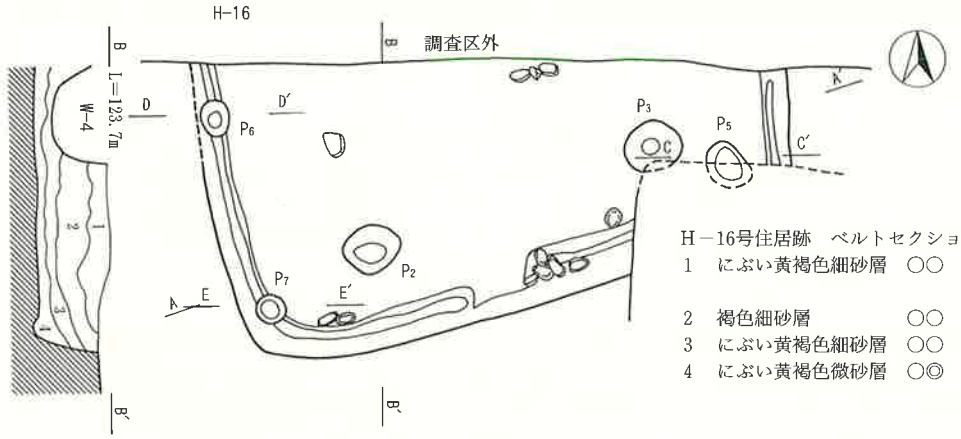
1	にぶい黄褐色細砂層	△○	As-C・Hr-FP　2％
2	褐色微砂層	○○	As-C・Hr-FP　2％、黄橙色粒10％

H－13号住居跡柱穴計測表

No.	形　状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P_6	円　形	30	47	28.0	

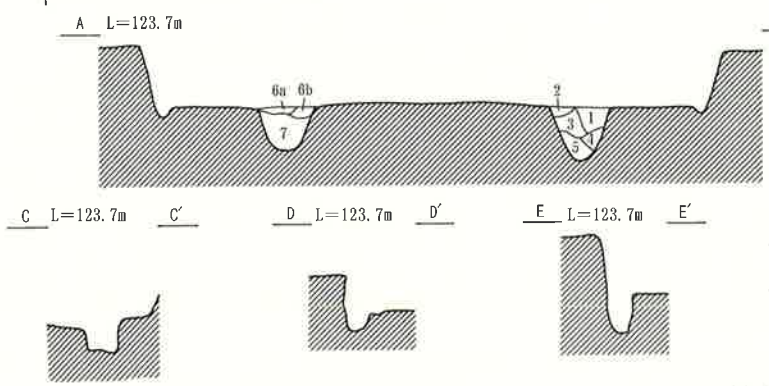
0　1：60　2m

Fig.14　H－13・14・15号住居跡



H－16号住居跡　ベルトセクション

1	にぶい黄褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP 5％、黄橙色ブロック（φ10mm）2％
2	褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP 5％、黄橙色粒5％
3	にぶい黄褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP 2％、黄橙色粒2％
4	にぶい黄褐色微砂層	○◎	As-C・Hr-FP 2％、黄橙色ブロック（φ10～20mm）2％

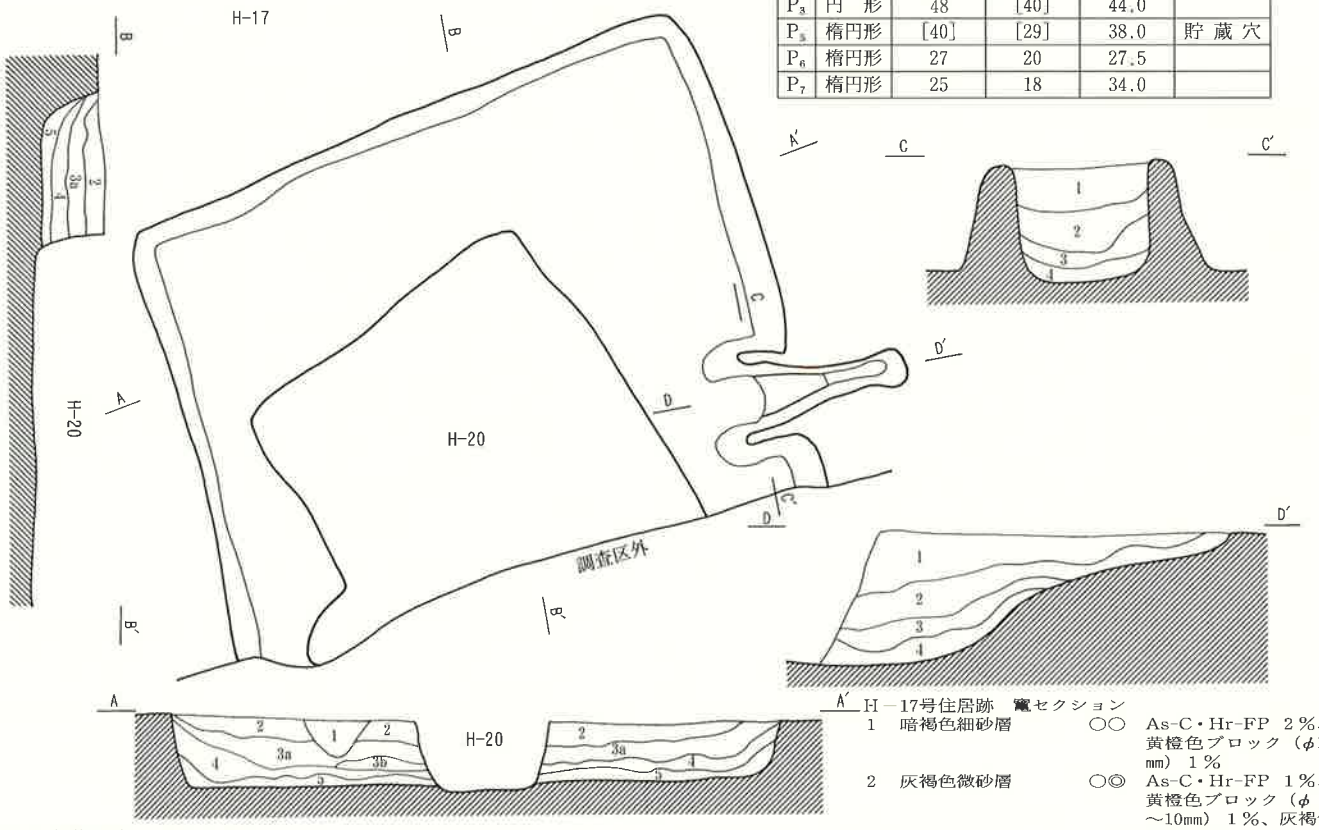


H－16号住居跡　P_2・P_3号柱穴セクション

1	黄褐色細砂層	○○	黄橙色ブロック（φ10mm）10％
2	黄褐色細砂層	◎○	黄橙色粒15％、上部に黒褐色土の貼床
3	にぶい黄褐色細砂層	○○	黄橙色粒5％
4	にぶい黄色微砂層	○○	
5	暗灰黄色微砂層	○○	
6a	にぶい黄褐色細砂層	○○	Hr-FP 1％、黄橙色粒5％
6b	黒褐色細砂層	◎○	上部に黄橙色土の貼床
7	にぶい黄褐色細砂層	○○	黄橙色ブロック（φ5mm）5％

H－16号住居跡柱穴計測表

No.	形　状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P_2	円　形	46	39	37.5	
P_3	円　形	48	[40]	44.0	
P_5	楕円形	[40]	[29]	38.0	貯 蔵 穴
P_6	楕円形	27	20	27.5	
P_7	楕円形	25	18	34.0	



H－17号住居跡　ベルトセクション

1	にぶい黄褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP 10％、黄橙色粒10％
2	にぶい黄褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP 5％、黄橙色ブロック（φ10mm）2％
3a	にぶい黄褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP 5％、黄橙色ブロック（φ10～30mm）5％
3b	黒褐色細砂層	◎○	As-C 20％、黄橙色ブロック（φ10mm）5％
4	にぶい黄褐色細砂層	○○	As-C 10％、黄橙色ブロック（φ10～30mm）5％
5	にぶい黄褐色微砂層	○◎	As-C 1％、黄橙色ブロック（φ10mm）2％

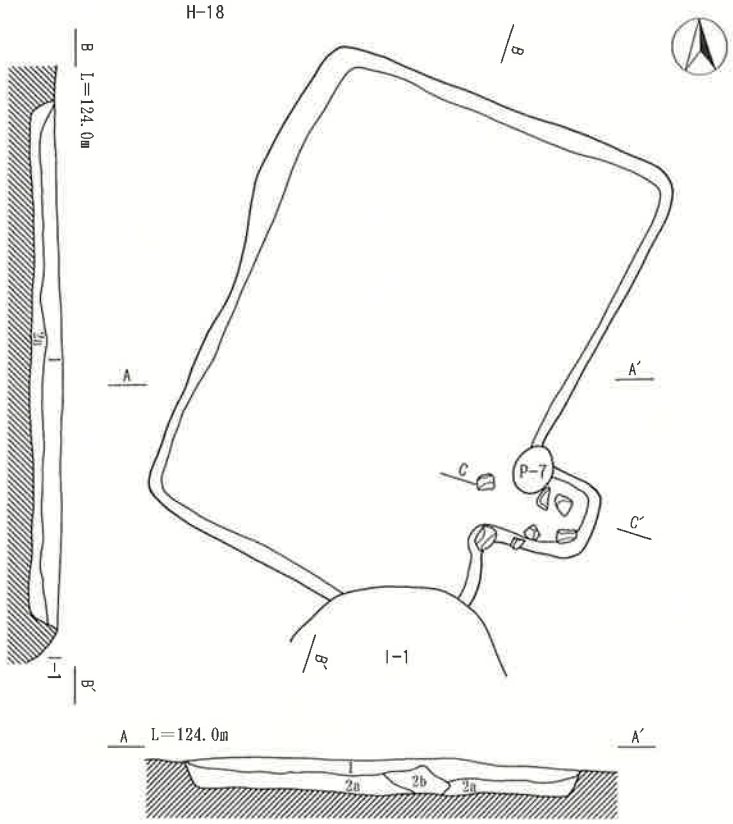
0　1：60　2m

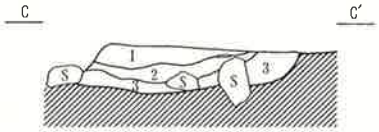
H－17号住居跡　竈セクション

1	暗褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP 2％、黄橙色ブロック（φ10mm）1％
2	灰褐色微砂層	○◎	As-C・Hr-FP 1％、黄橙色ブロック（φ5～10mm）1％、灰褐色粘土20％
3	にぶい赤褐色細砂層	○○	焼土粒ブロック主体、炭化物・浅黄橙色粘土1％
4	褐灰色微砂層	△○	灰層、焼土ブロック5％、黄橙色粒5％

0　1：30　1m

Fig.15　H－16・17号住居跡





H－18号住居跡　竈セクション

1　にぶい黄褐色細砂層　○○　Hr-FP　2％、褐色粘土ブロック1％

2　にぶい褐色微砂層　○◎　褐色粘土20％

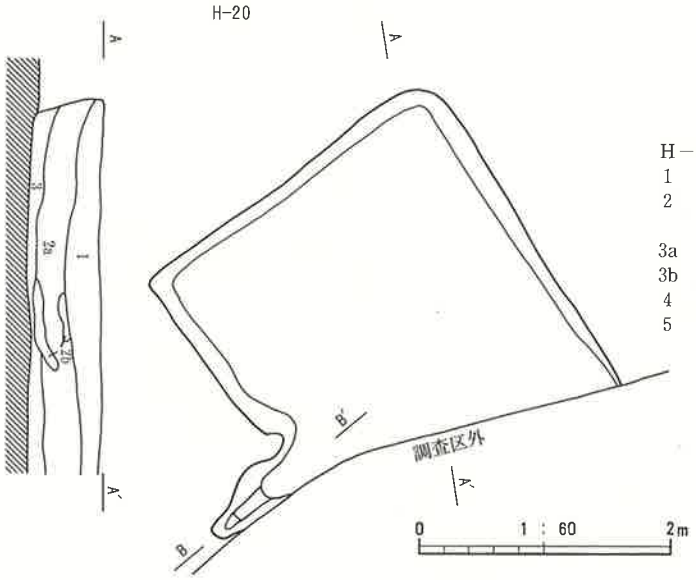
3　黒褐色微砂層　△△　灰層

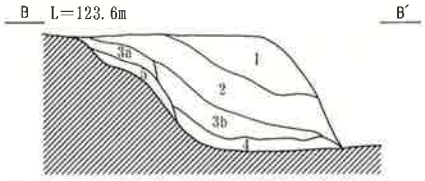
H－18号住居跡　ベルトセクション

1　にぶい黄褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP　2％

2a　褐色微砂層　○○　As-C・Hr-FP　1％、黄橙色ブロック（φ10mm）1％

2b　暗褐色微砂層　◎◎　暗褐色粘土主体、As-C・Hr-FP　1％





H－20号住居跡　竈セクション

1　にぶい黄褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP　10％、焼土粒2％

2　灰黄褐色微砂層　○◎　浅黄橙色粘土ブロック（φ20mm）5％、西側部に黄橙色粘土、焼土粒5％

3a　にぶい褐色微砂層　○◎　焼土粒2％

3b　橙色細砂層　◎△　橙色粘土主体（焼けた天井部）

4　灰褐色微砂層　△△　灰層

5　灰褐色微砂層　◎◎　灰褐色粘土主体（煙道部の構築材）

0　1 : 30　1m

H－20号住居跡　ベルトセクション

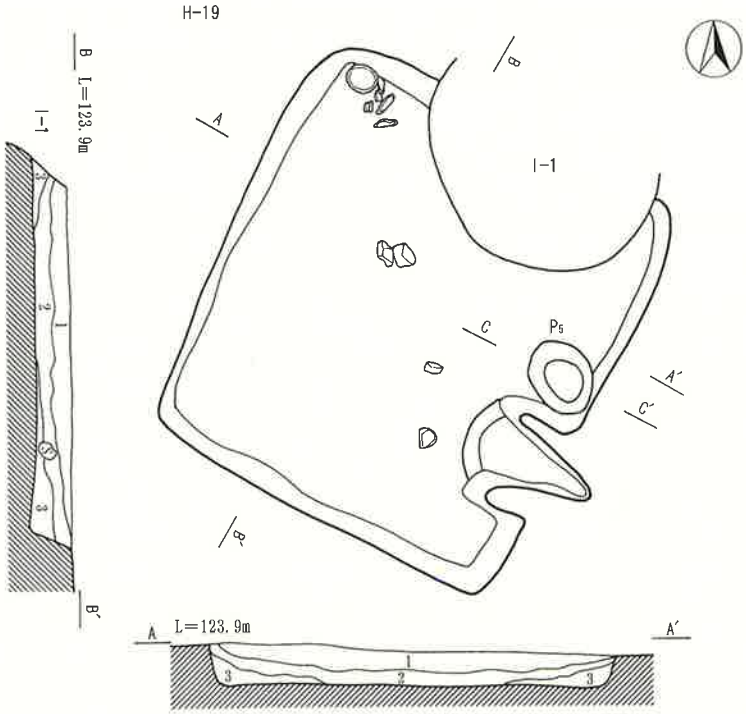
1　にぶい黄褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP　5％、黄橙色粘土ブロック（φ10mm）2％、炭化物1％

2a　にぶい黄褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP　5％、黄橙色ブロック（φ10mm）2％

2b　黒褐色微砂層　△◎　灰層、焼土粒5％

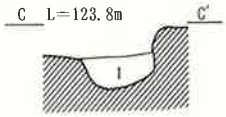
3　にぶい黄褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP　2％

Fig.16　H－18・20号住居跡



H－19号住居跡　ベルトセクション

1　にぶい黄褐色細砂層　○○　Hr-FP 10%
2　暗褐色細砂層　○○　Hr-FP 2%
3　褐色微砂層　○○　Hr-FP 1%、黄橙色粒1%

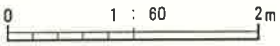


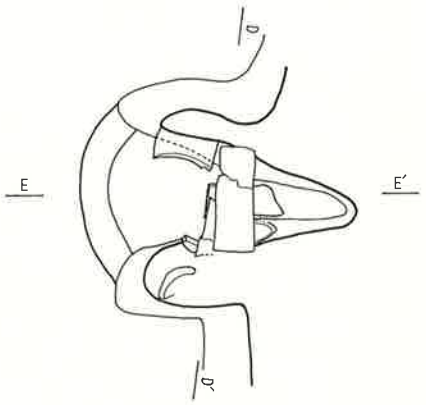
H－19号住居跡　P_5貯蔵穴セクション

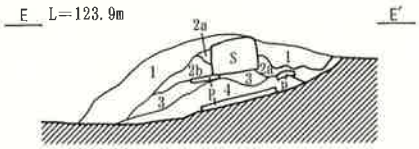
1　にぶい黄褐色微砂層　△○

H－19号住居跡柱穴計測表

No.	形　状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P_5	楕円形	62	47	25.5	貯 蔵 穴

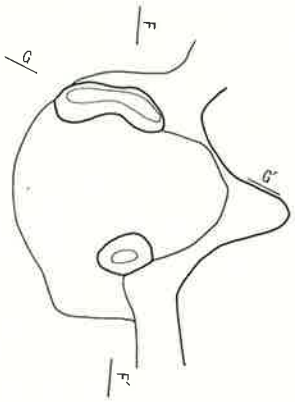


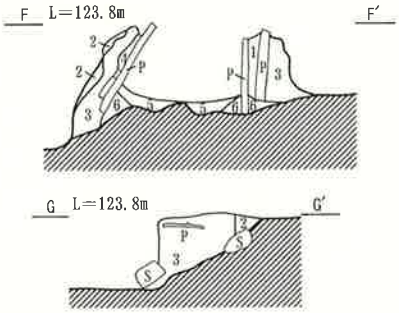




H－19号住居跡　竈セクション

1　にぶい黄褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP 5%
2a　暗褐色微砂層　◎◎　暗褐色粘土主体
2b　にぶい褐色微砂層　○○　焼けた粘土主体
3　灰褐色細砂層　△○
4　灰褐色微砂層　△○　灰層





H－19号住居跡　竈掘り方セクション

1　褐色微砂層　△○
2　にぶい褐色微砂層　○◎
3　灰褐色微砂層　◎◎　灰白色粘土ブロック主体
4　褐色微砂層　○○
5　黒褐色微砂層　△○　灰混じる
6　灰黄褐微砂層　△○

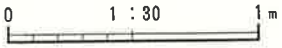
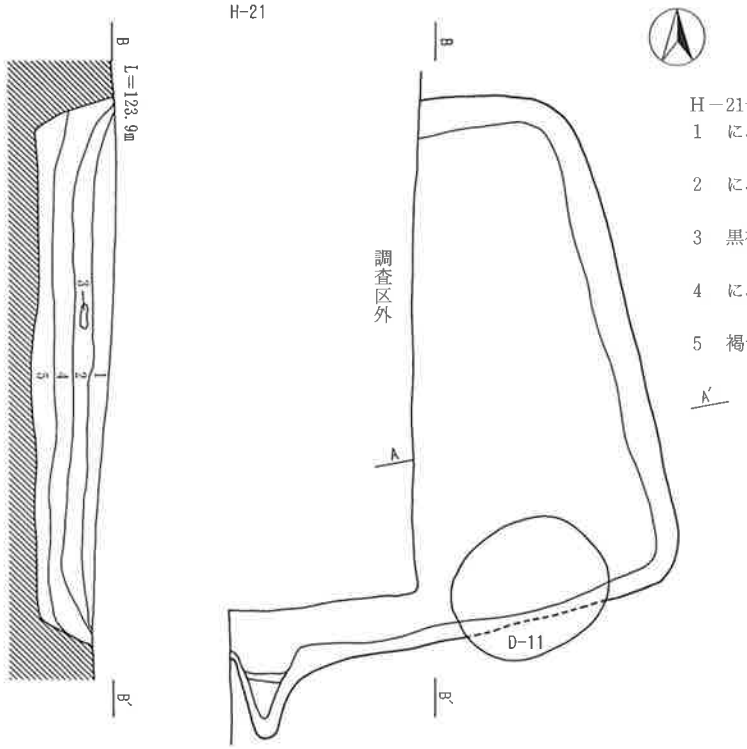
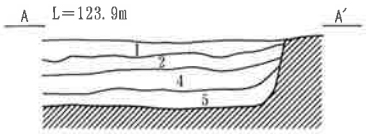


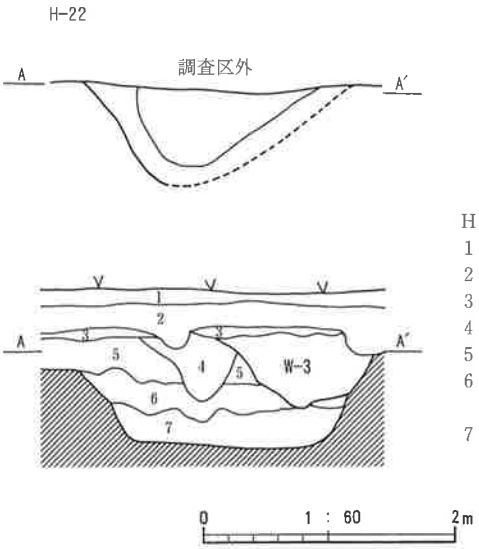
Fig.17　H－19号住居跡



H－21号住居跡　ベルトセクション

1	にぶい黄褐色細砂層	△○	As-C・Hr-FP 10%、黄橙色ブロック（φ10㎜）1％
2	にぶい黄褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP 5％、黄橙色ブロック（φ10～50㎜）1％
3	黒褐色細砂層	○○	As-C 20%（黒褐色土がブロックで混入）
4	にぶい黄褐色微砂層	△○	As-C・Hr-FP 2％、黄橙色粒5％
5	褐色細砂層	○○	Hr-FP 2％、黄橙色ブロック（φ10㎜）5％

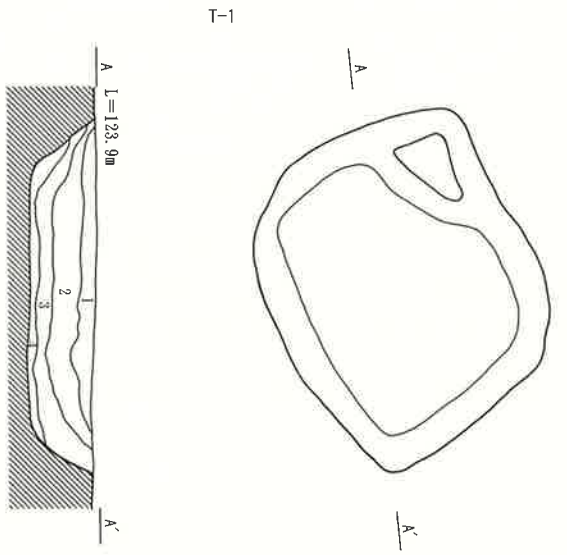




H－22号住居跡　ベルトセクション

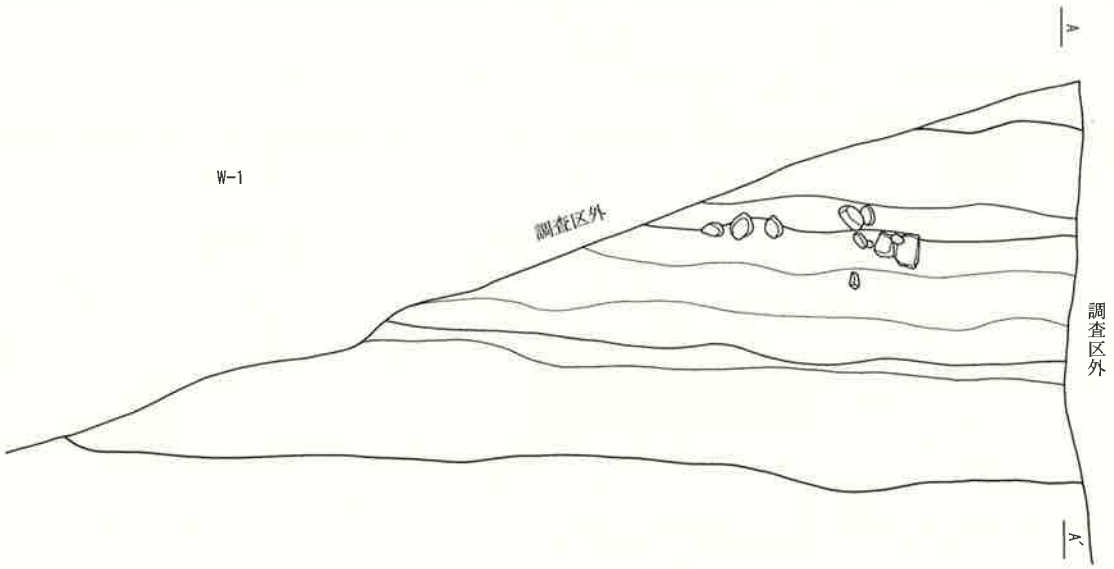
1	灰黄褐色細砂層	○△	現耕作土
2	褐色細砂層	◎○	現代の水田耕作土
3	灰黄褐色粗砂層	○△	As-B 混土層
4	にぶい黄褐色細砂層	△○	As-C・Hr-FP 10%
5	にぶい黄褐色細砂層	○○	As-C 5％
6	にぶい黄褐色微砂層	○○	As-C 5％、黄橙色ブロック（φ20㎜）5％、黒褐色土ブロック混じる
7	にぶい黄褐色細砂層	○○	As-C 5％、黄橙色ブロック（φ10～50㎜）、西側部に焼土ブロック

Fig.18　H－21・22号住居跡



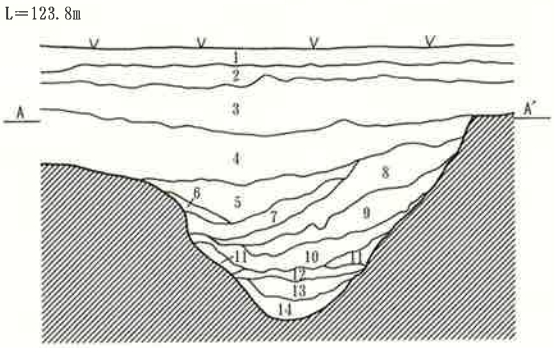
T－１号竪穴状遺構　ベルトセクション

1	にぶい黄褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP ５％、黄橙色ブロック（φ10～30㎜）５％
2	にぶい黄褐色微砂層	○○	As-C・Hr-FP １％、黄橙色ブロック（φ10～50㎜）10％
3	暗褐色微砂層	○○	As-C・Hr-FP １％、黄橙色ブロック（φ30～70㎜）５％、炭化物１％
4	褐色微砂層	△◎	炭化物１％



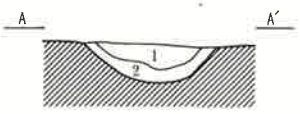
W－１号溝跡セクション

1	灰黄褐色細砂層	○△	現耕作土
2	褐色細砂層	◎○	現代の水田耕作土
3	灰黄褐色粗砂層	○△	As-B 混土層
4	灰黄褐色粗砂層	○△	As-B 20％、黄橙色ブロック（φ10㎜）５％
5	にぶい黄褐色細砂層	○△	As-B 10％、黄橙色ブロック（φ10～30㎜）10％
6	にぶい黄橙色細砂層	○○	黄橙色粒20％
7	にぶい黄褐色微砂層	○○	As-B 10％
8	にぶい黄橙色微砂層	○○	As-B ５％、黄橙色ブロック（φ10～50㎜）50％
9	にぶい黄褐色粗砂層	○△	As-B 20％、黄橙色ブロック（φ10～20㎜）10％
10	暗褐色細砂層	○○	As-B ５％、黄橙色ブロック（φ10㎜）５％
11	にぶい黄褐色微砂層	○◎	黄橙色ブロック（φ10㎜）20％
12	にぶい黄橙色細砂層	○○	黄橙色ブロック（φ10～30㎜）主体
13	にぶい黄橙色微砂層	○○	黄橙色ブロック（φ10～30㎜）20％
14	にぶい黄褐色細砂層	○△	黄橙色ブロック（φ10㎜）20％



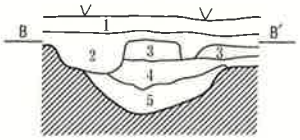
0　1：60　2m

Fig.19　Ｔ－１号竪穴状遺構、Ｗ－１溝跡



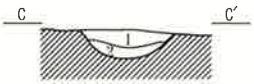
W－２号溝跡セクション（北）

1	暗褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP　5％
2	にぶい黄褐色細砂層	○○	Hr-FP　2％



W－２号溝跡セクション（南）

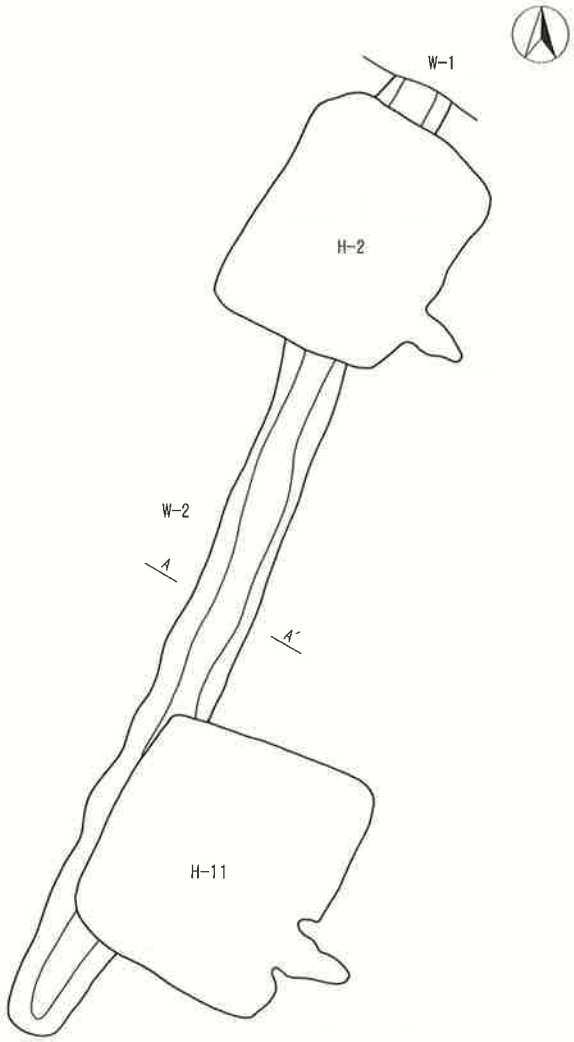
1	灰黄褐色細砂層	○△	現耕作土
2	褐色細砂層	◎○	現代の水田耕作土
3	灰黄褐色粗砂層	○△	As-B 混土層
4	にぶい黄褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP 10%
5	暗褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP 10%

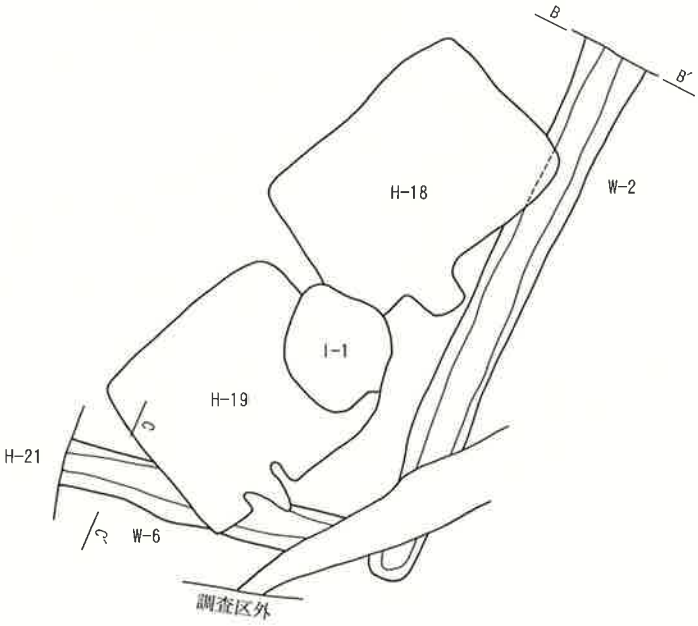


W－６号溝跡セクション

1	にぶい黄褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP 10%
2	褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP　2％、黄橙色ブロック２％

0　1：60　2m





0　1:120　4m

Fig.20　W－２・６号溝跡

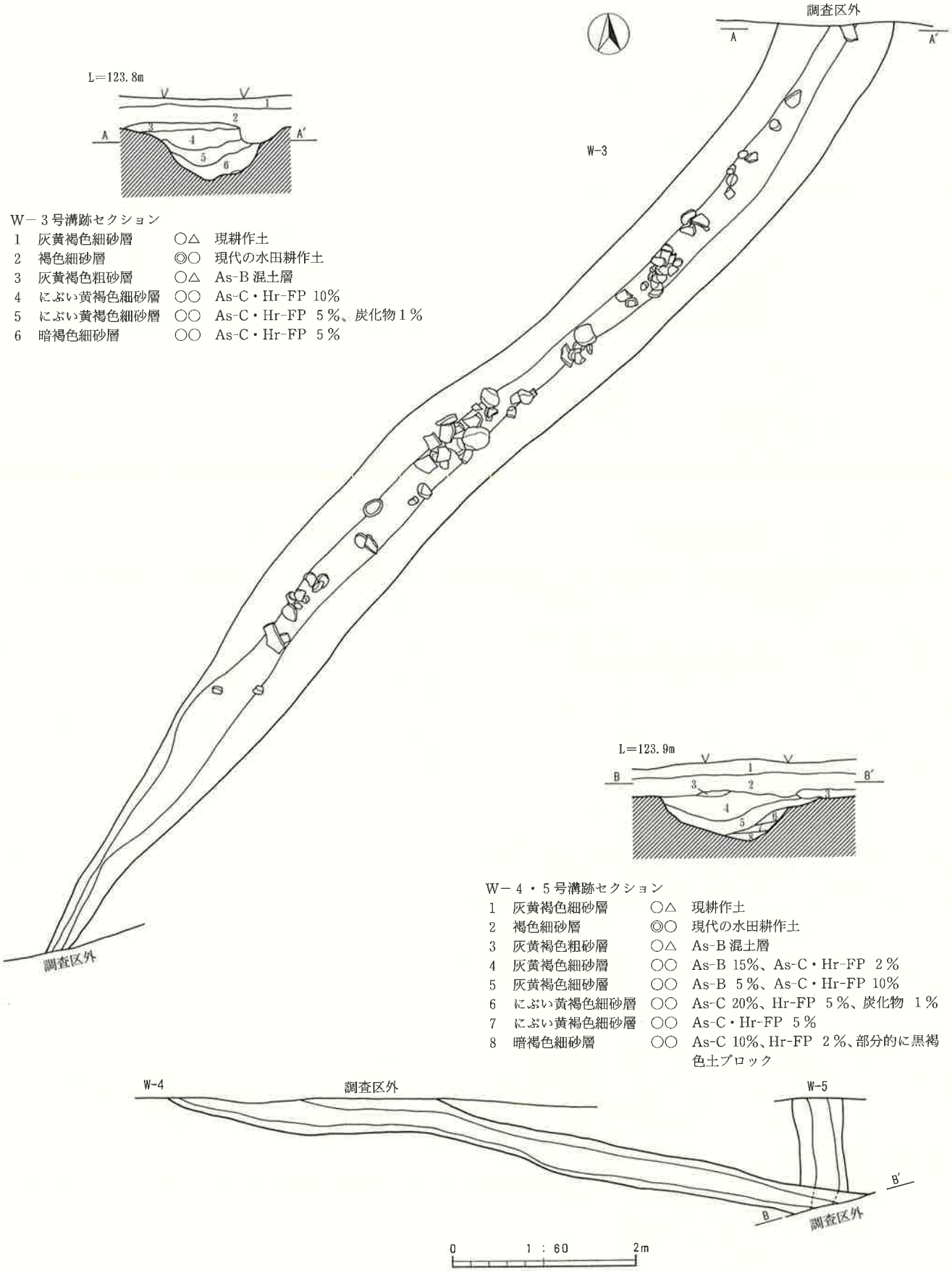
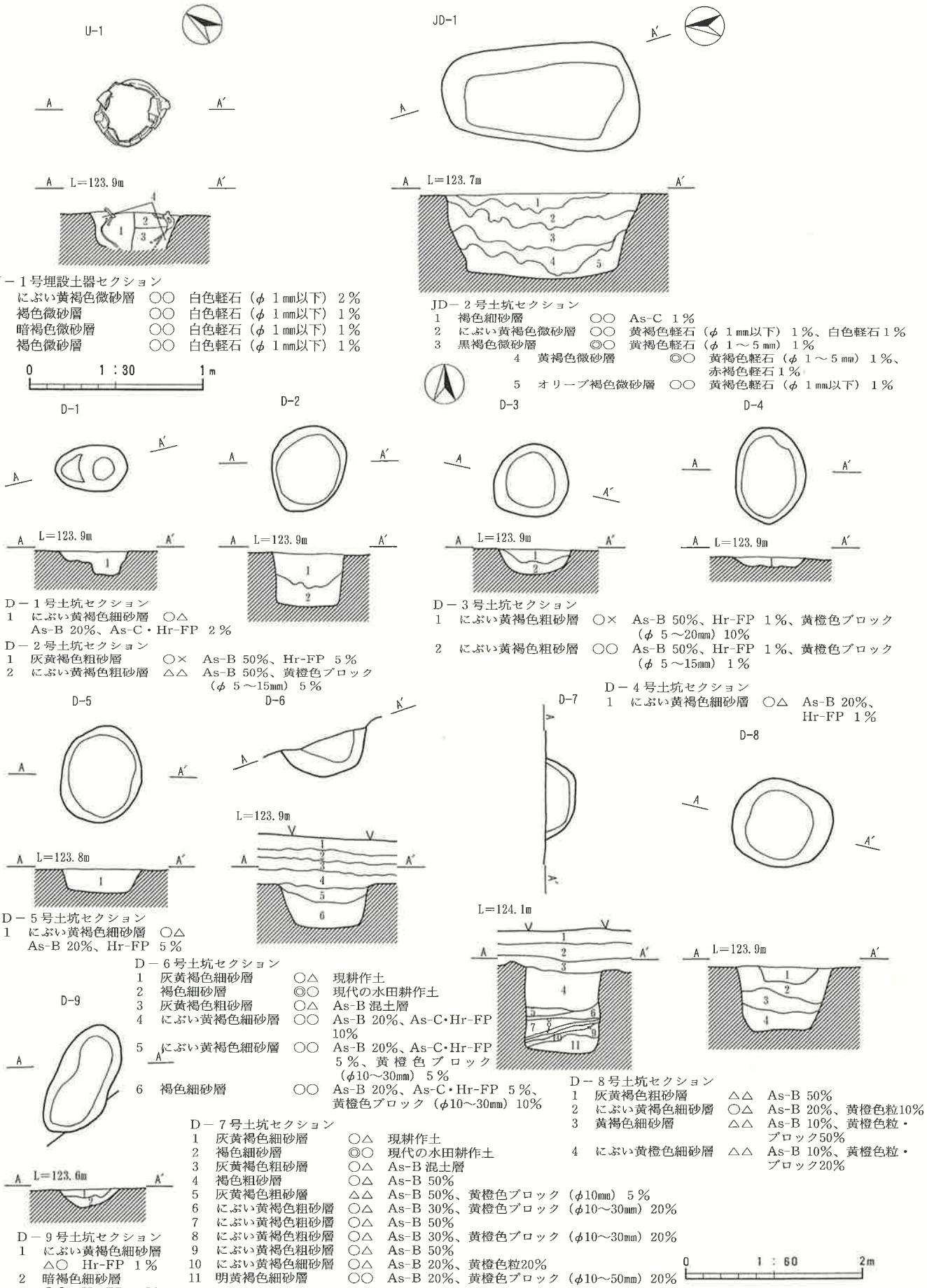


Fig.21　W－３～５号溝跡



U－１号埋設土器セクション

1	にぶい黄褐色微砂層	○○	白色軽石（φ１mm以下）２％
2	褐色微砂層	○○	白色軽石（φ１mm以下）１％
3	暗褐色微砂層	○○	白色軽石（φ１mm以下）１％
4	褐色微砂層	○○	白色軽石（φ１mm以下）１％

JD－２号土坑セクション

1	褐色細砂層	○○	As-C １％
2	にぶい黄褐色微砂層	○○	黄褐色軽石（φ１mm以下）１％、白色軽石１％
3	黒褐色微砂層	◎○	黄褐色軽石（φ１～５mm）１％
4	黄褐色微砂層	◎○	黄褐色軽石（φ１～５mm）１％、赤褐色軽石１％
5	オリーブ褐色微砂層	○○	黄褐色軽石（φ１mm以下）１％

D－１号土坑セクション

1	にぶい黄褐色細砂層	○△	As-B 20%、As-C・Hr-FP ２％

D－２号土坑セクション

1	灰黄褐色粗砂層	○×	As-B 50%、Hr-FP ５％
2	にぶい黄褐色粗砂層	△△	As-B 50%、黄橙色ブロック（φ５～15mm）５％

D－３号土坑セクション

1	にぶい黄褐色粗砂層	○×	As-B 50%、Hr-FP １％、黄橙色ブロック（φ５～20mm）10％
2	にぶい黄褐色粗砂層	○○	As-B 50%、Hr-FP １％、黄橙色ブロック（φ５～15mm）１％

D－４号土坑セクション

1	にぶい黄褐色細砂層	○△	As-B 20%、Hr-FP １％

D－５号土坑セクション

1	にぶい黄褐色細砂層	○△	As-B 20%、Hr-FP ５％

D－６号土坑セクション

1	灰黄褐色細砂層	○△	現耕作土
2	褐色細砂層	◎○	現代の水田耕作土
3	灰黄褐色粗砂層	○△	As-B 混土層
4	にぶい黄褐色細砂層	○○	As-B 20%、As-C・Hr-FP 10%
5	にぶい黄褐色細砂層	○○	As-B 20%、As-C・Hr-FP ５％、黄橙色ブロック（φ10～30mm）５％
6	褐色細砂層	○○	As-B 20%、As-C・Hr-FP ５％、黄橙色ブロック（φ10～30mm）10％

D－７号土坑セクション

1	灰黄褐色細砂層	○△	現耕作土
2	褐色細砂層	◎○	現代の水田耕作土
3	灰黄褐色粗砂層	○△	As-B 混土層
4	褐色粗砂層	○△	As-B 50%
5	灰黄褐色粗砂層	△△	As-B 50%、黄橙色ブロック（φ10mm）５％
6	にぶい黄褐色粗砂層	○△	As-B 30%、黄橙色ブロック（φ10～30mm）20%
7	にぶい黄褐色粗砂層	○△	As-B 50%
8	にぶい黄褐色粗砂層	○△	As-B 30%、黄橙色ブロック（φ10～30mm）20%
9	にぶい黄褐色粗砂層	○△	As-B 50%
10	にぶい黄褐色細砂層	○△	As-B 20%、黄橙色粒20%
11	明黄褐色細砂層	○○	As-B 20%、黄橙色ブロック（φ10～50mm）20%

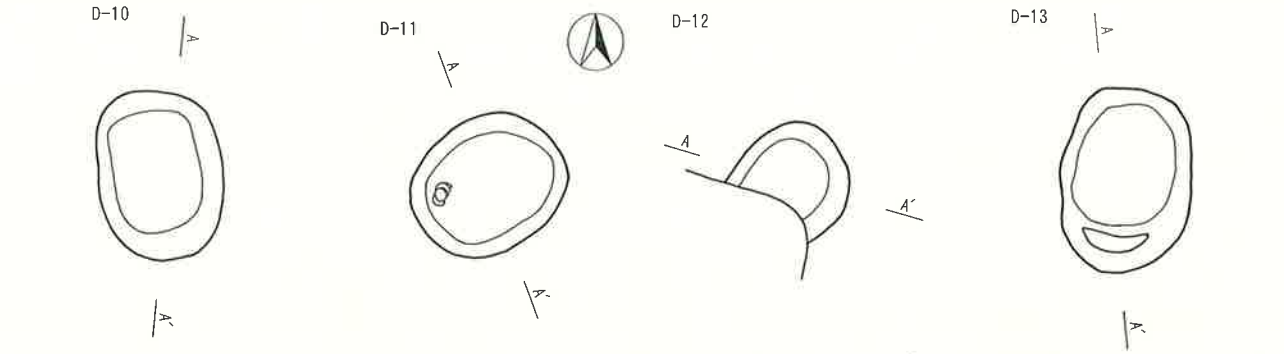
D－８号土坑セクション

1	灰黄褐色粗砂層	△△	As-B 50%
2	にぶい黄褐色細砂層	○△	As-B 20%、黄橙色粒10%
3	黄褐色細砂層	△△	As-B 10%、黄橙色粒・ブロック50%
4	にぶい黄橙色細砂層	△△	As-B 10%、黄橙色粒・ブロック20%

D－９号土坑セクション

1	にぶい黄褐色細砂層	△○	Hr-FP １％
2	暗褐色細砂層	○○	Hr-FP ２％

Fig.22　U－１・JD－２号土坑、D－１～９号土坑

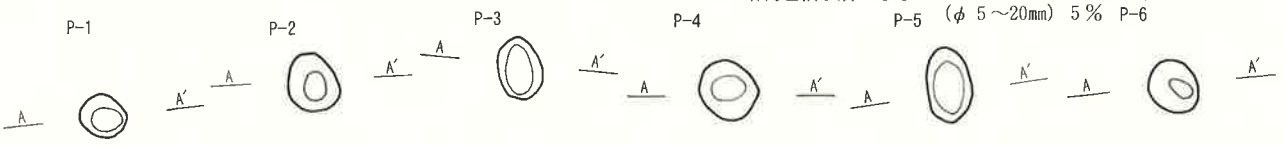


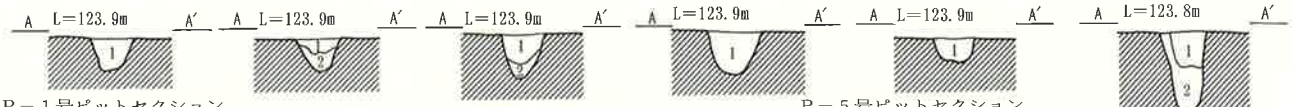
D－10号土坑セクション
1　灰黄褐色粗砂層　△△
　As-B 50%、黄橙色粒１％

D－11号土坑セクション
1　灰黄褐色粗砂層　○△　As-B 20%
2　にぶい黄褐色細砂層　○△　As-B 10%

D－12号土坑セクション
1　褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP 10%

D－13号土坑セクション
1　褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP 15%、黄橙色ブロック（φ５～10mm）２％、炭化物１％
2　暗褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP 10%、黄橙色ブロック（φ５～20mm）５％





P－１号ピットセクション
1　にぶい黄褐色細砂層　△△
　As-B 10%、Hr-FP ２％

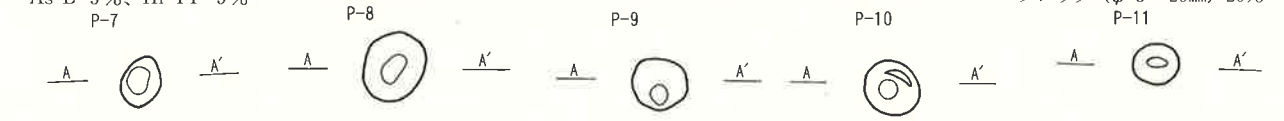
P－２号ピットセクション
1　褐色細砂層　○△
　As-B ５％、Hr-FP 10%
2　にぶい黄褐色細砂層　○○
　As-B ５％、Hr-FP ５％

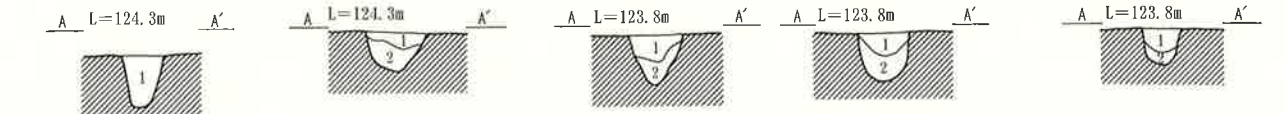
P－３号ピットセクション
1　にぶい黄褐色細砂層　○△
　As-B 20%、Hr-FP ２％、炭化物１％
2　にぶい黄褐色細砂層　○○
　As-B 10%、黄橙色粒・ブロック（φ５～15mm）５％

P－４号ピットセクション
1　暗褐色細砂層　○△　As-B ５％、Hr-FP ２％

P－５号ピットセクション
1　にぶい黄褐色細砂層　○△
　As-B 10%、Hr-FP ２％

P－６号ピットセクション
1　暗褐色細砂層　△○　As-C・Hr-FP ２％、黄橙色粒・ブロック（φ５～20mm）１％
2　褐色微砂層　△○　As-C・Hr-FP ２％、黄橙色粒・ブロック（φ５～20mm）20%





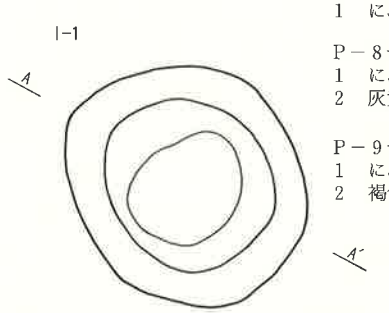
P－７号ピットセクション
1　にぶい黄褐色粗砂層　○×　As-B 20%

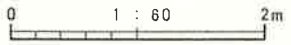
P－８号ピットセクション
1　にぶい黄褐色細砂層　△△　As-B 20%
2　灰黄褐色細砂層　○○　As-B 10%、黄橙色粒３％

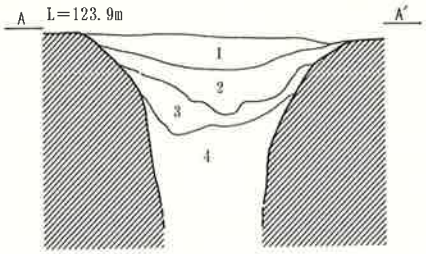
P－９号ピットセクション
1　にぶい黄褐色粗砂層　△×　As-B 20%
2　褐色細砂層　○△　As-B 10%、黄橙色粒５％、部分的に堅緻

P－10号ピットセクション
1　にぶい黄褐色粗砂層　○×　As-B 20%
2　褐色粗砂層　△×　As-B 20%、黄橙色粒５％、部分的に堅緻

P－11号ピットセクション
1　にぶい黄褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP ５％、炭化物１％
2　褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP ２％







I－１号井戸跡セクション
1　灰黄褐色粗砂層　○△　As-B 50%
2　にぶい黄褐色細砂層　○△　As-B 20%、As-C・Hr-FP ５％
3　にぶい黄褐色微砂層　△○　As-B 10%
4　暗褐色粗砂層　△△　As-B 50%、黄橙色粒５％

Fig.23　D－10～13号土坑、P－１～11号ピット、I－１号井戸跡

J-1

縄2

縄3

縄4

縄5

縄6

縄7

縄8

縄1

U-1

縄24

0　1／3　10cm

Fig.24　Ｊ－１号住居跡、Ｕ－１号土坑出土遺物

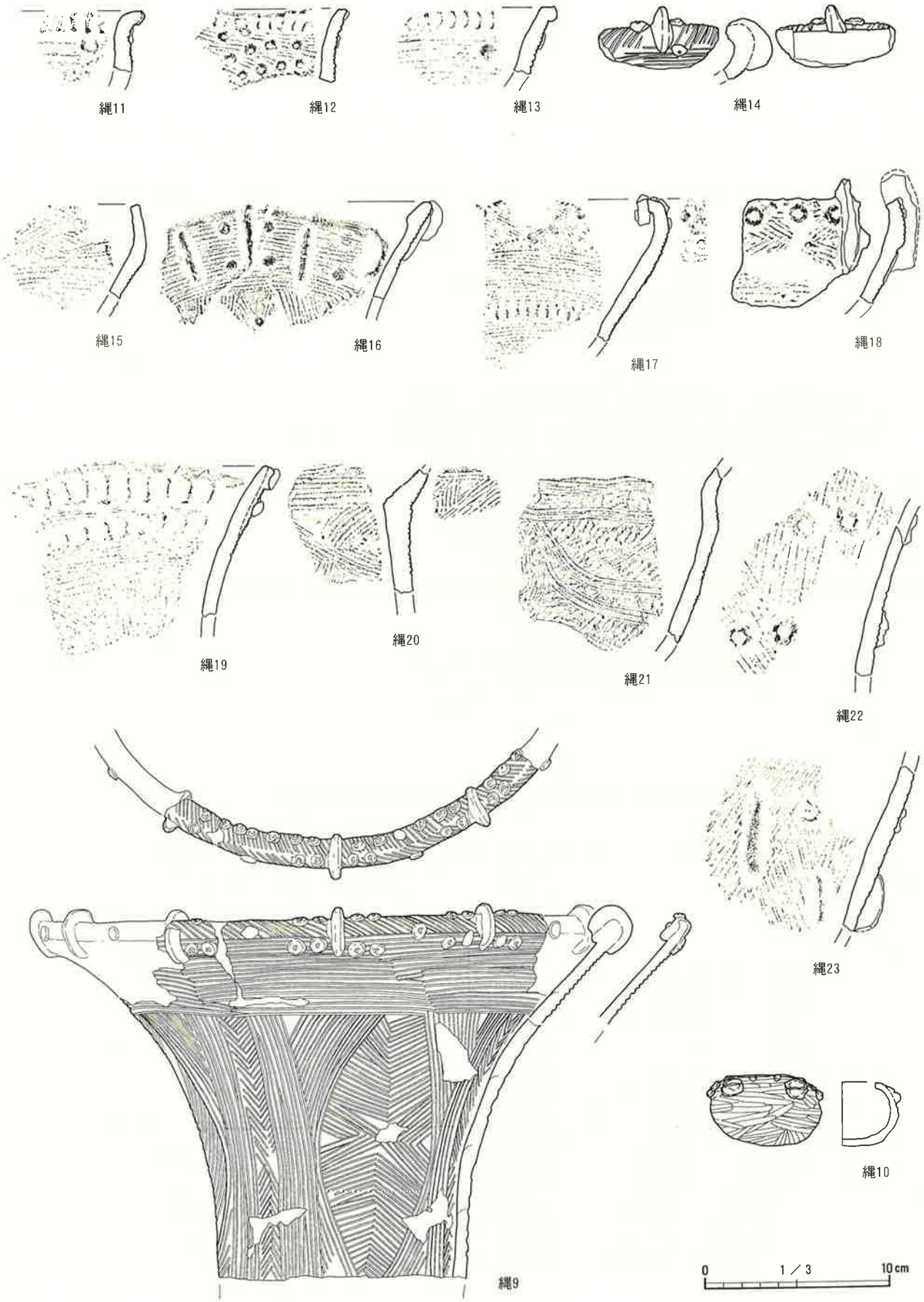


Fig.25　J－2号住居跡出土遺物

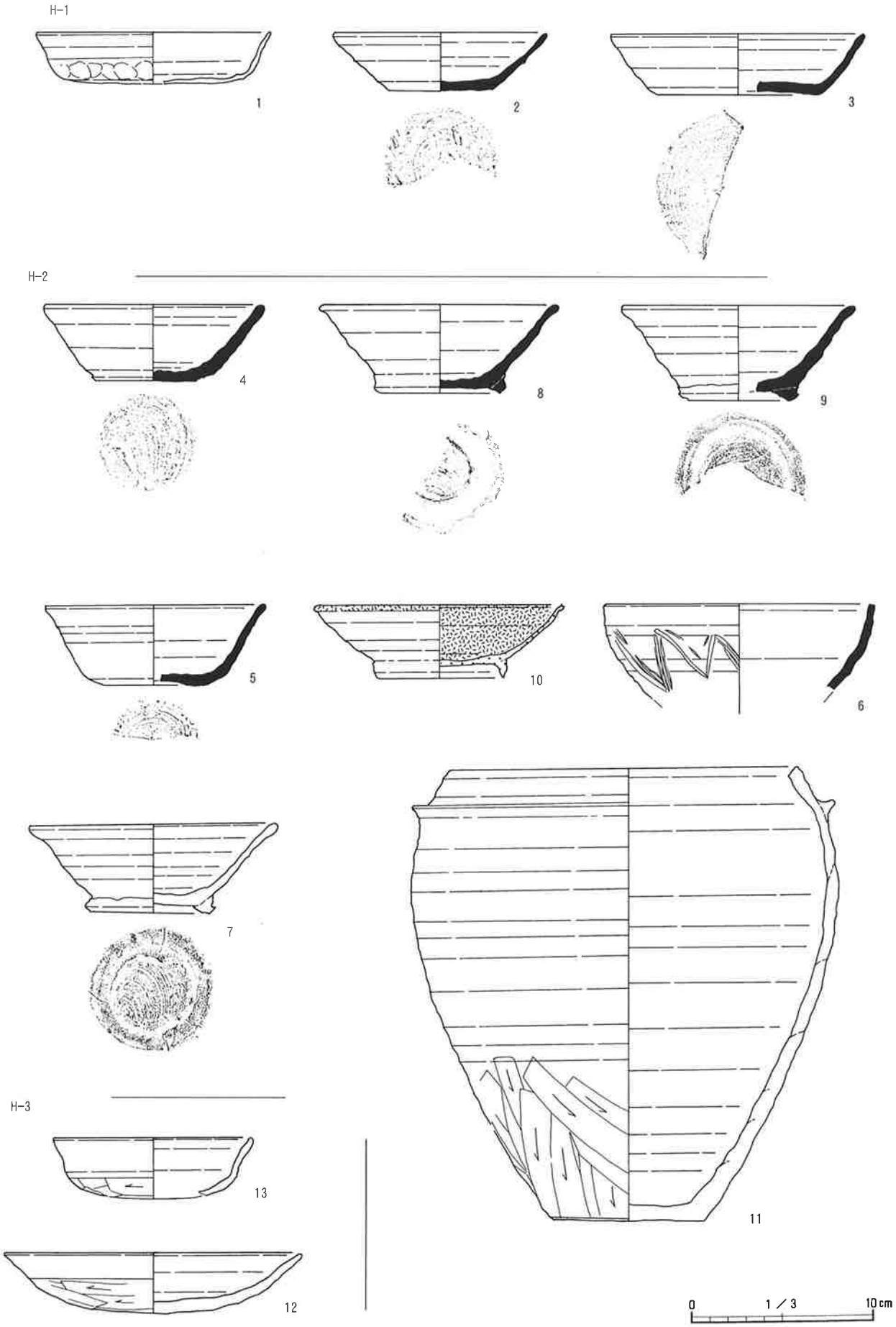


Fig.26　H－1～3号住居跡出土遺物

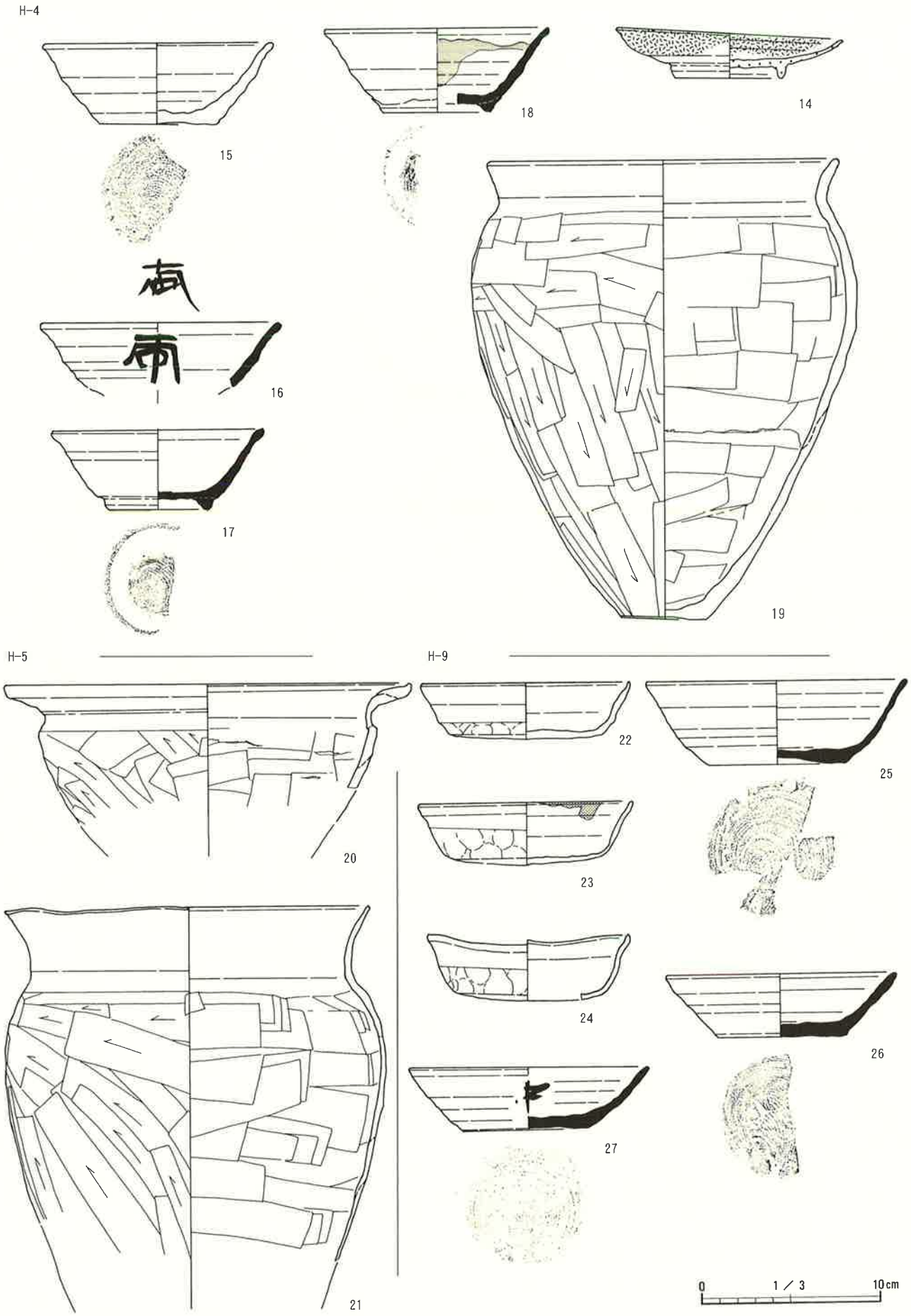


Fig.27　H－4・5号住居跡出土遺物

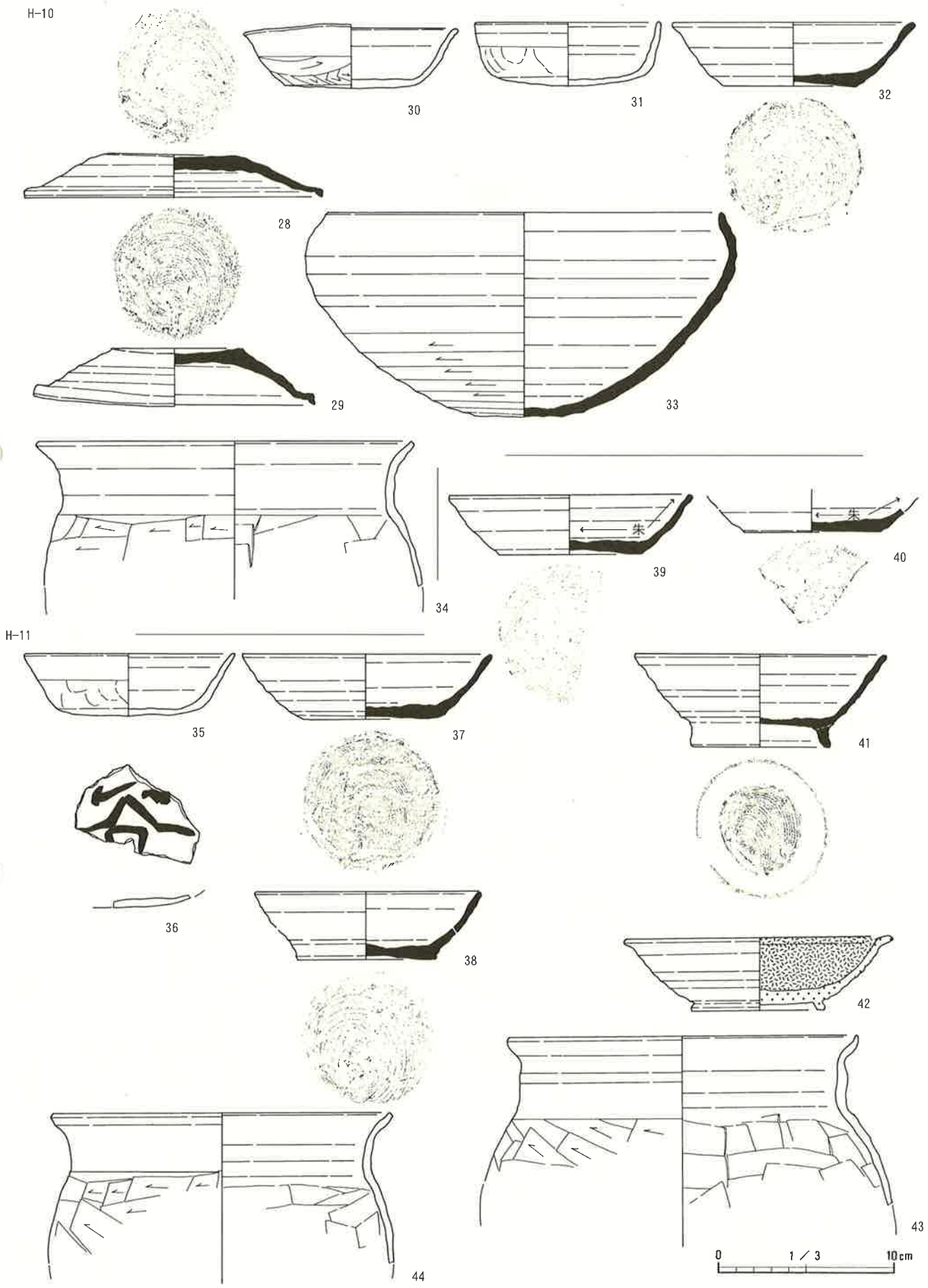


Fig.28　H－10・11号住居跡出土遺物

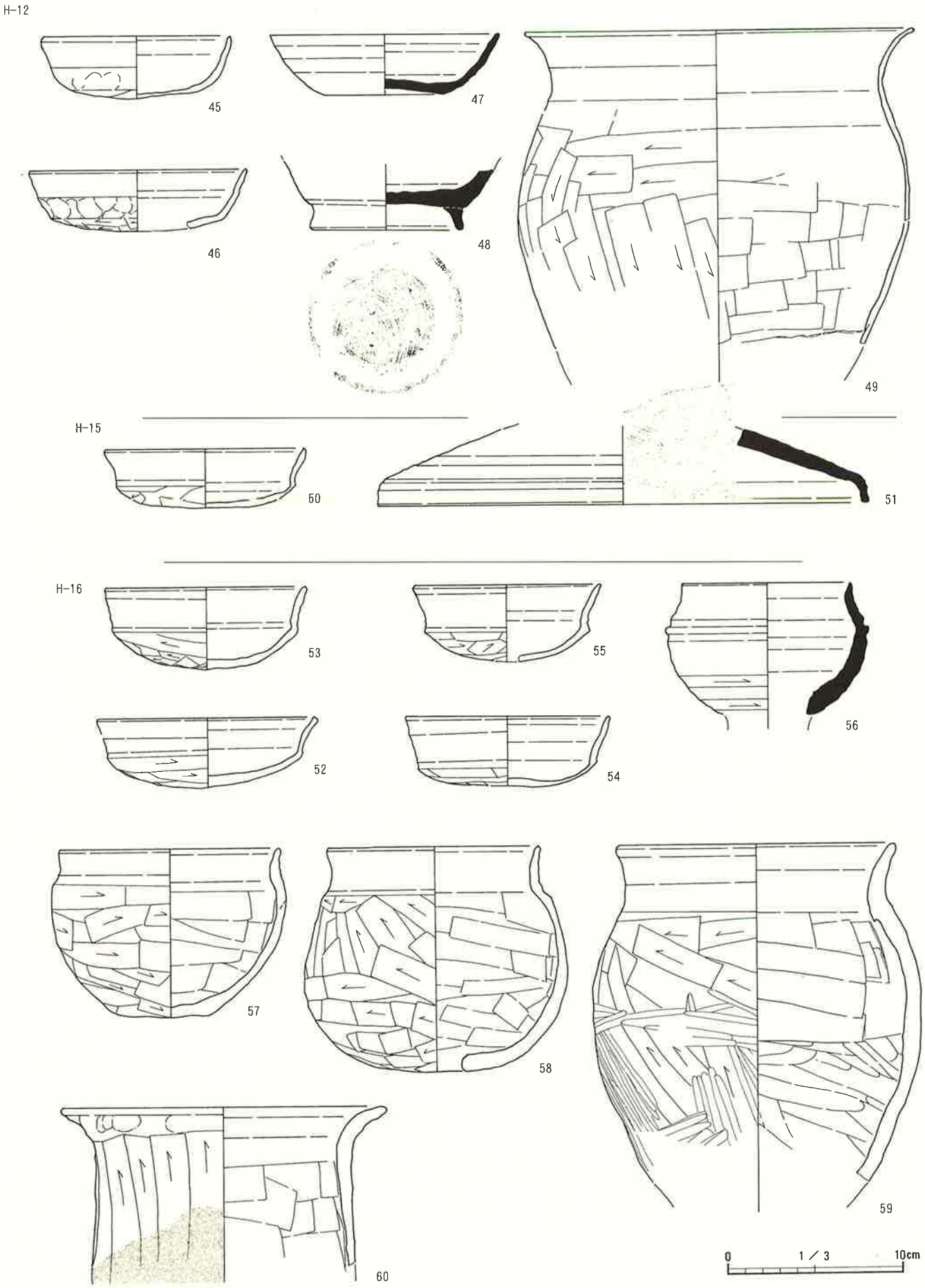


Fig.29　H－12・15・16号住居跡出土遺物

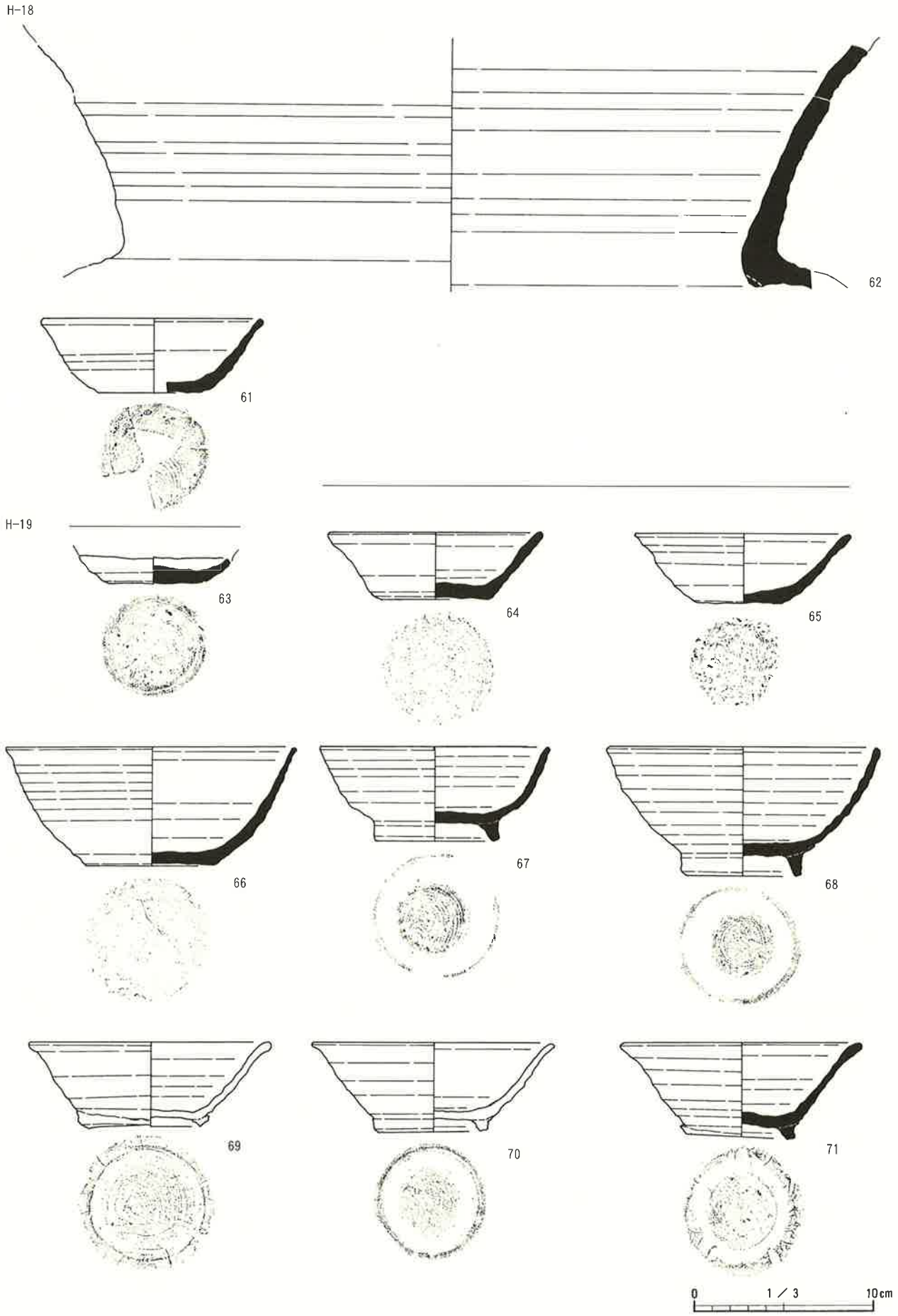


Fig.30　H－18・19号住居跡出土遺物

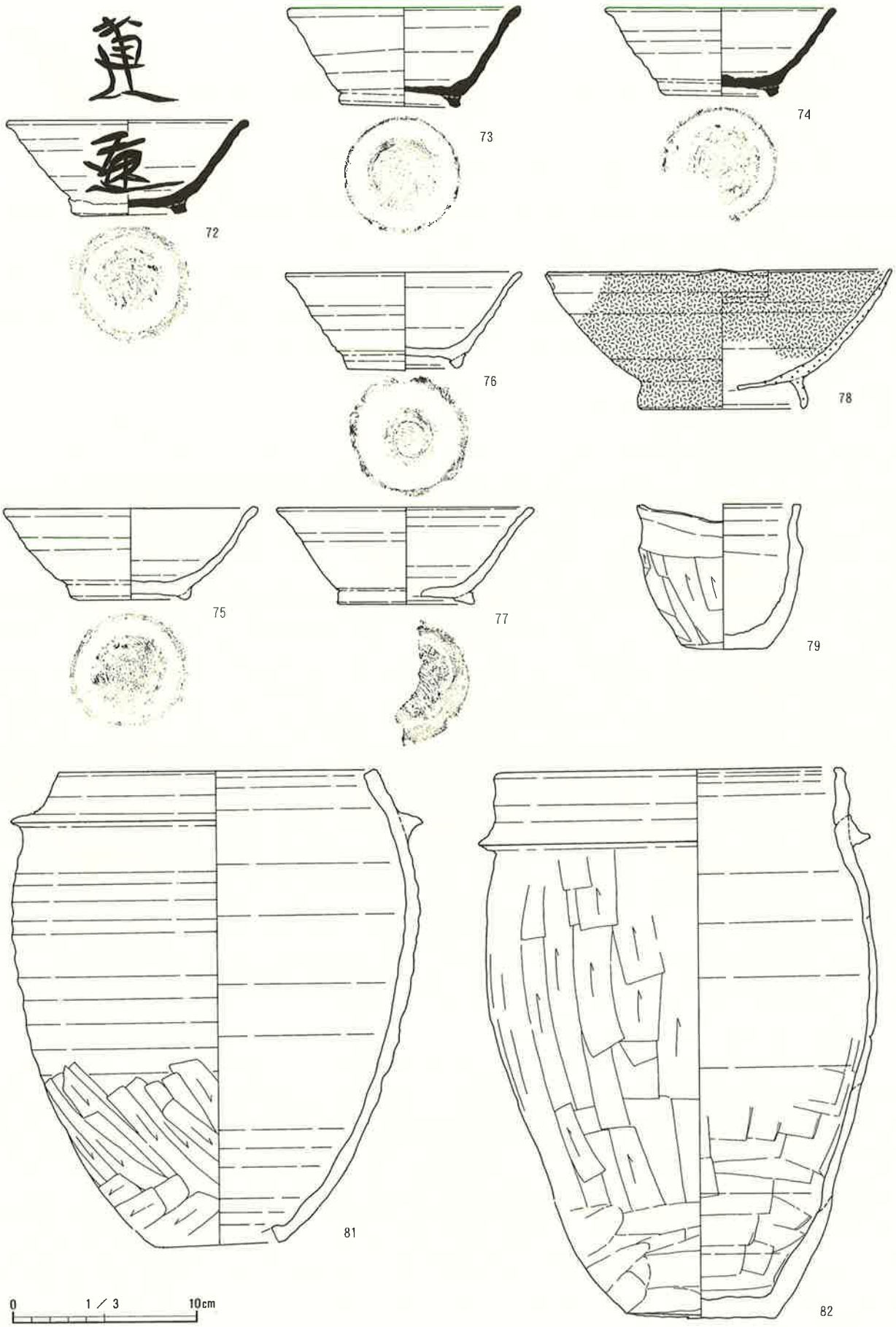


Fig.31　H－19号住居跡出土遺物

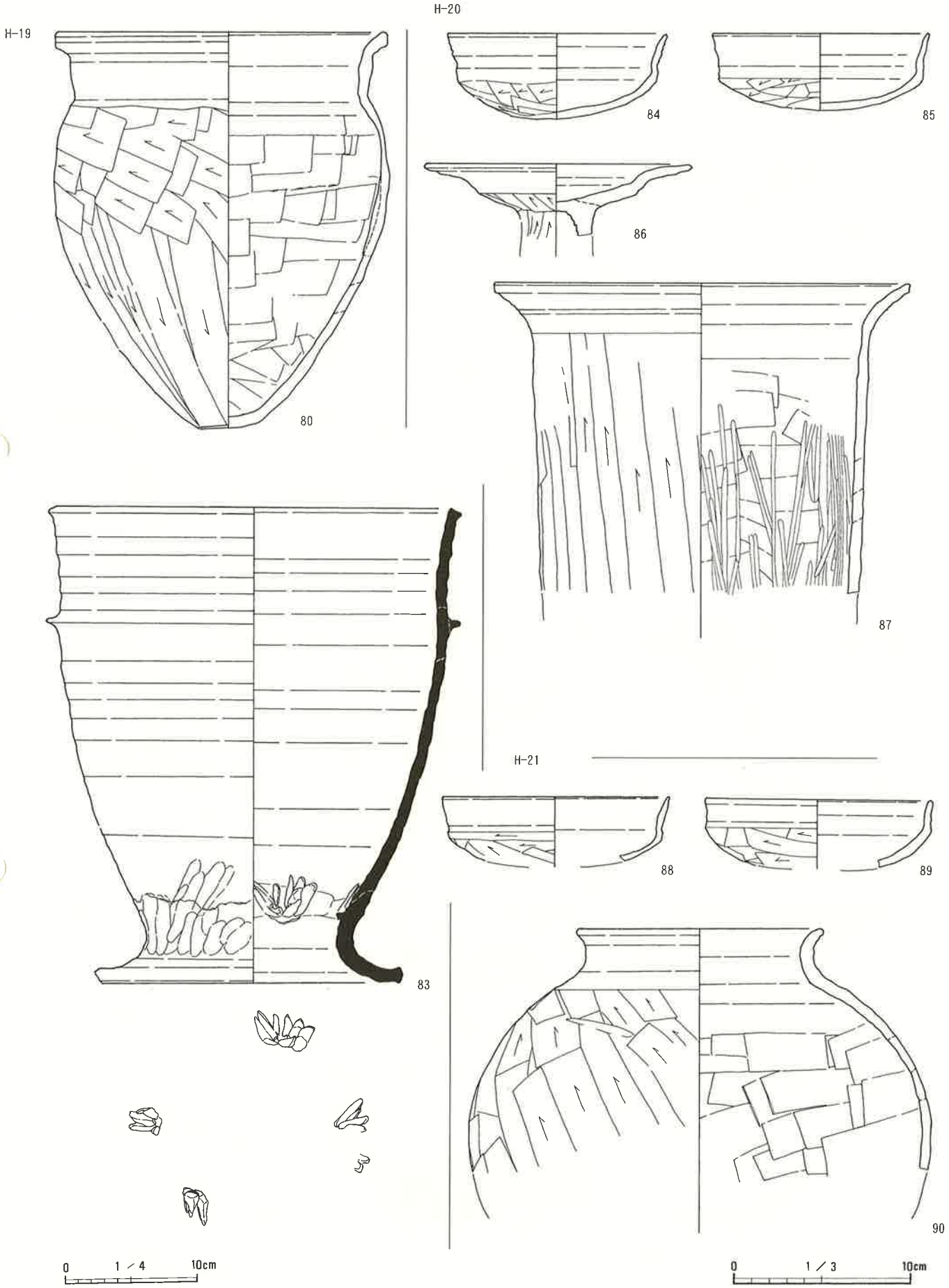


Fig.32　H－19・20・21号住居跡出土遺物

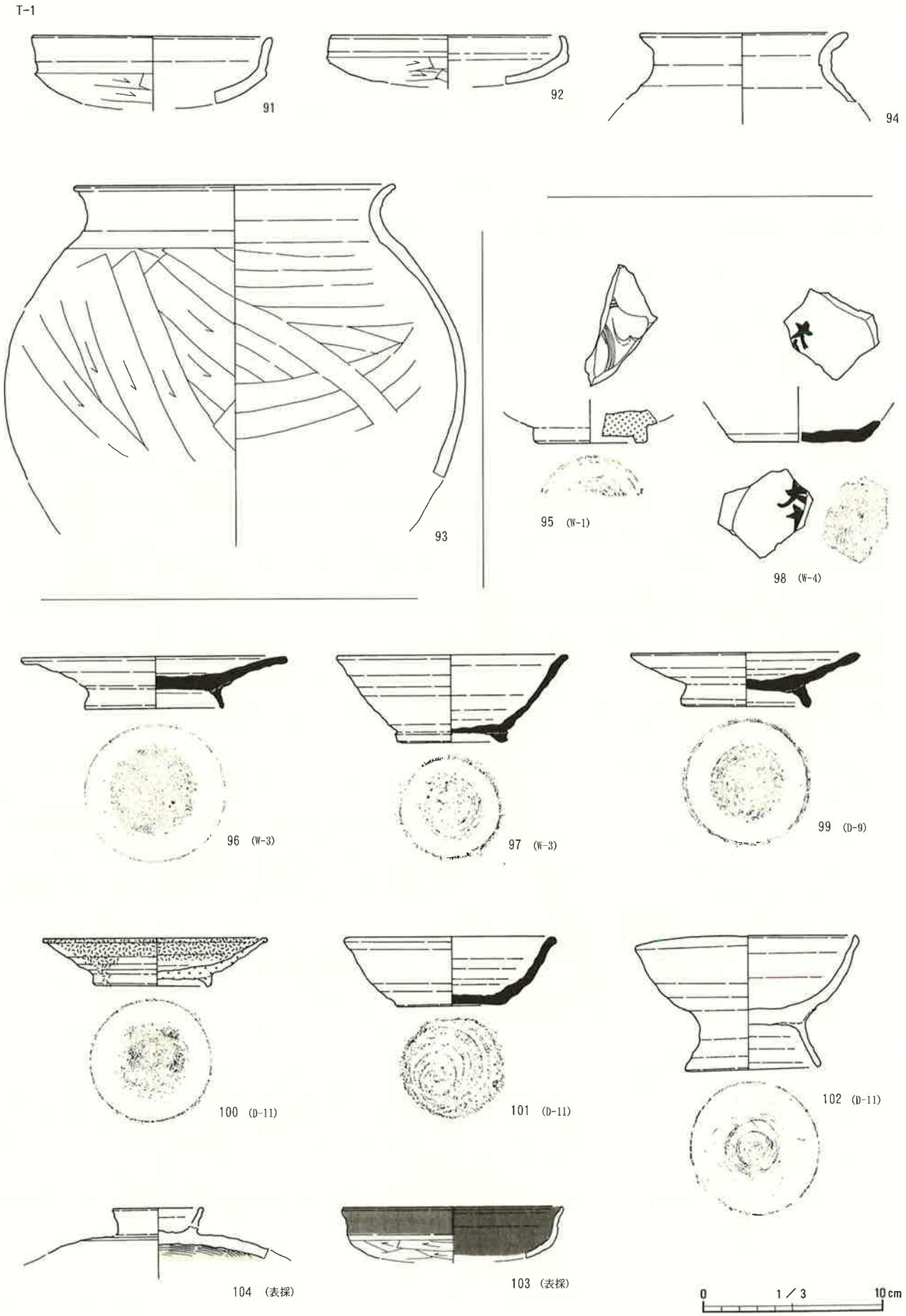


Fig.33　T－1号竪穴状遺構、溝跡、土坑出土遺物

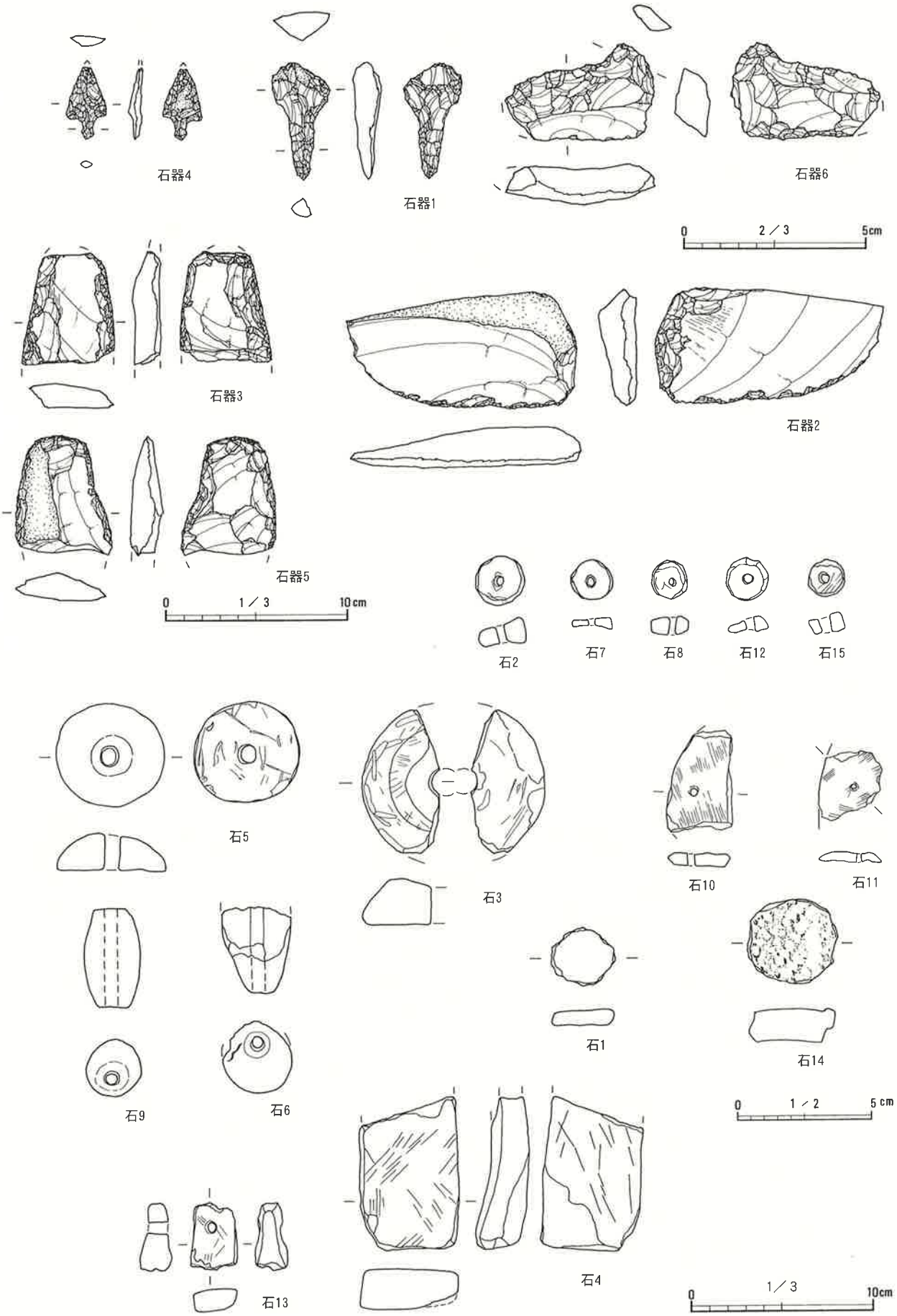
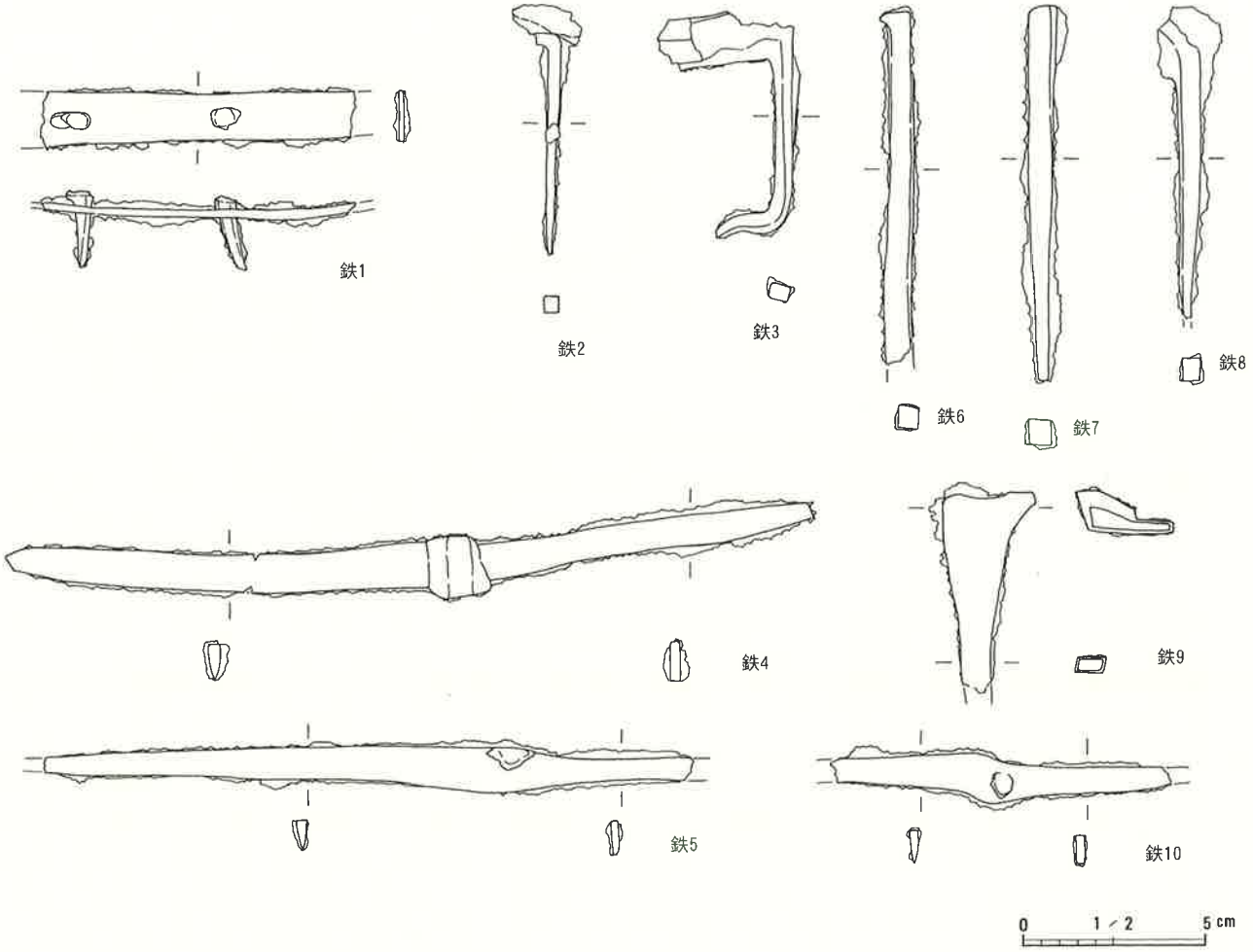


Fig.34　石器・石製品・土製品



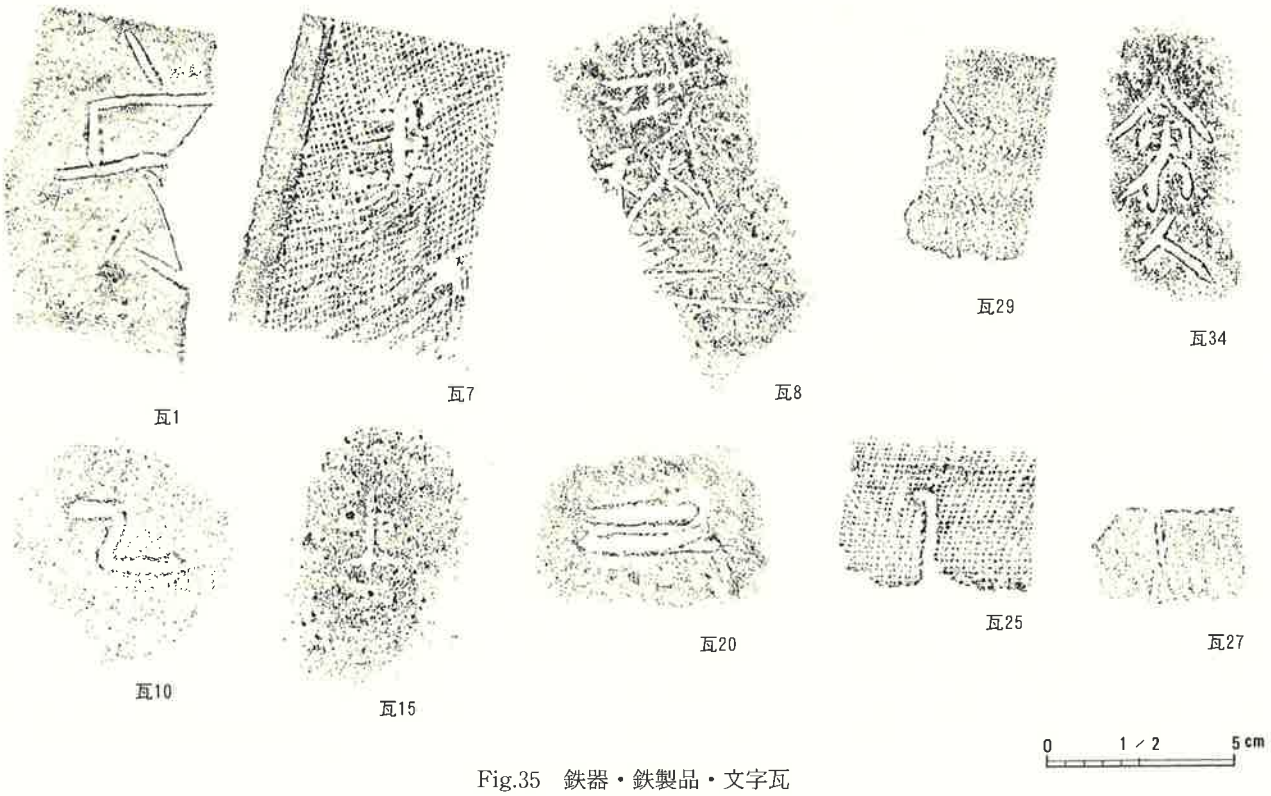


Fig.35　鉄器・鉄製品・文字瓦

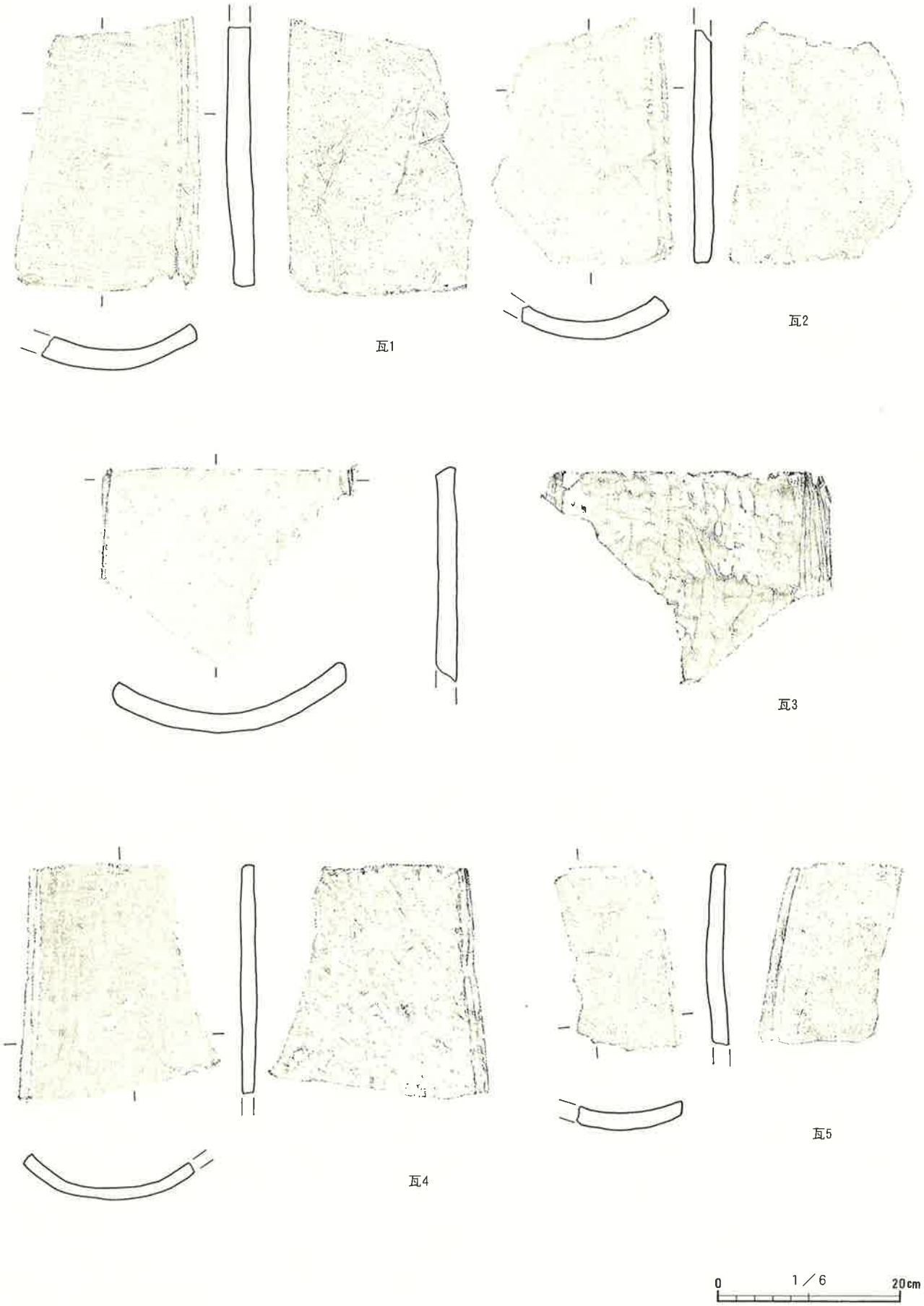


Fig.36　瓦(1)

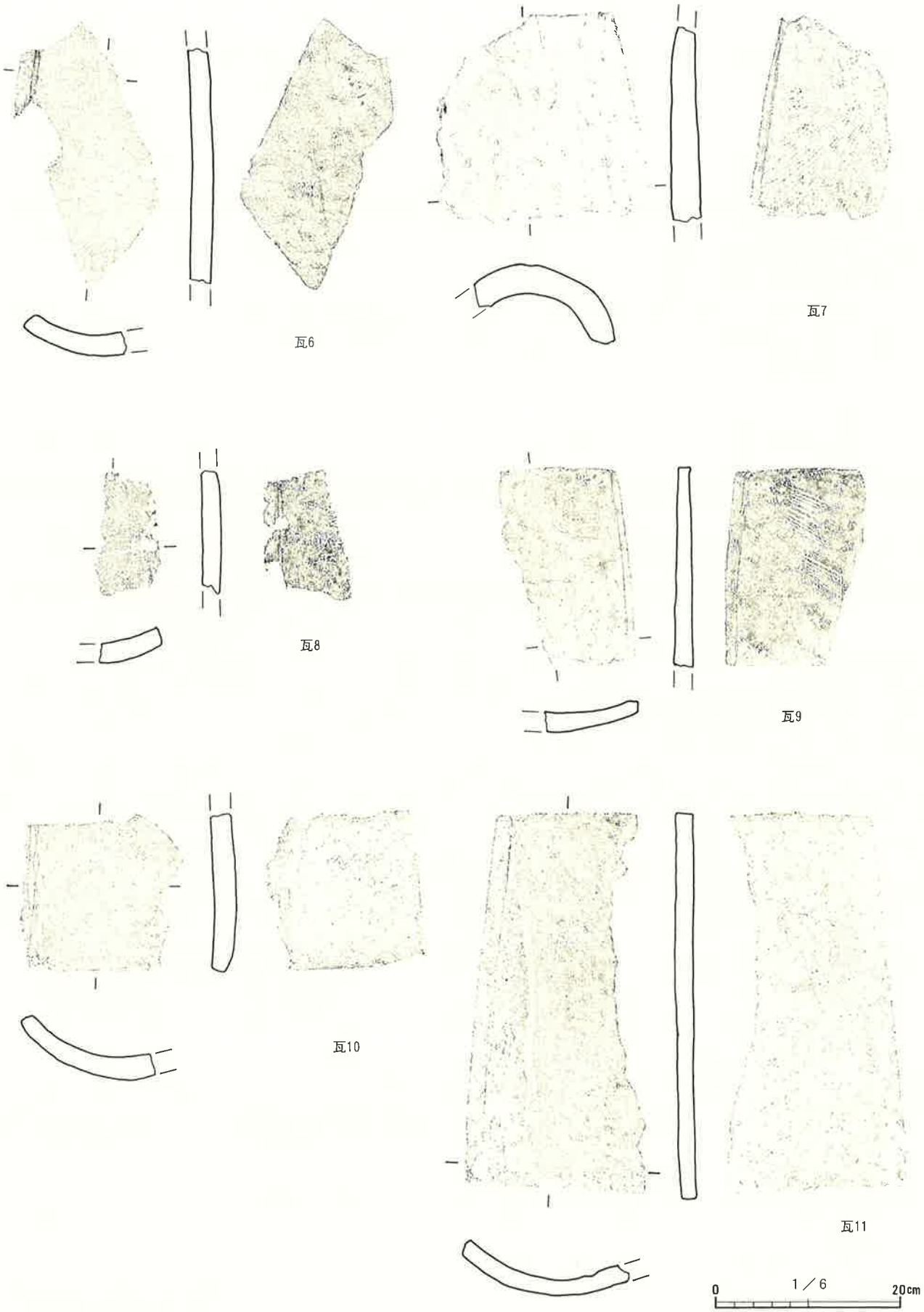


Fig.37　瓦(2)

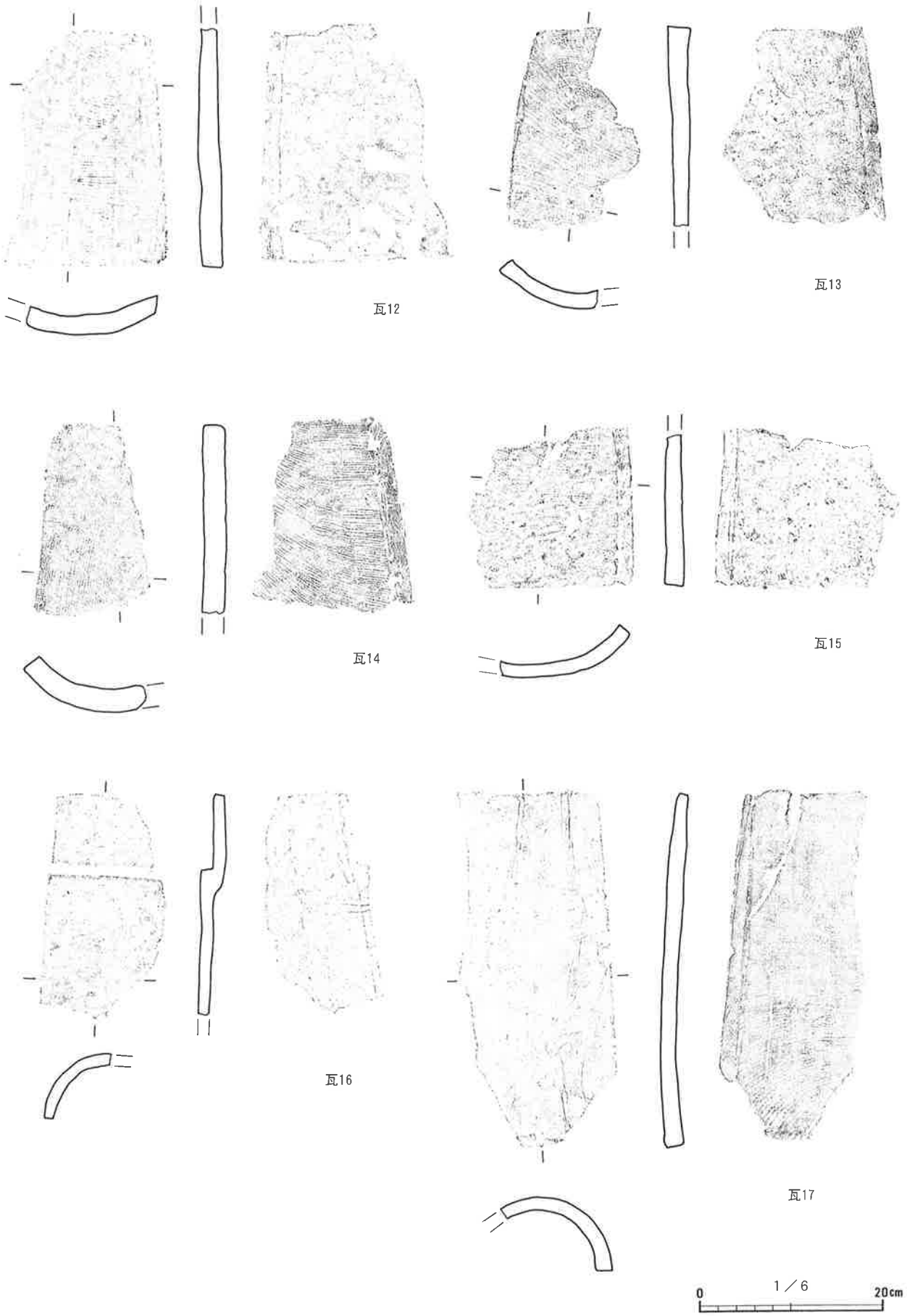
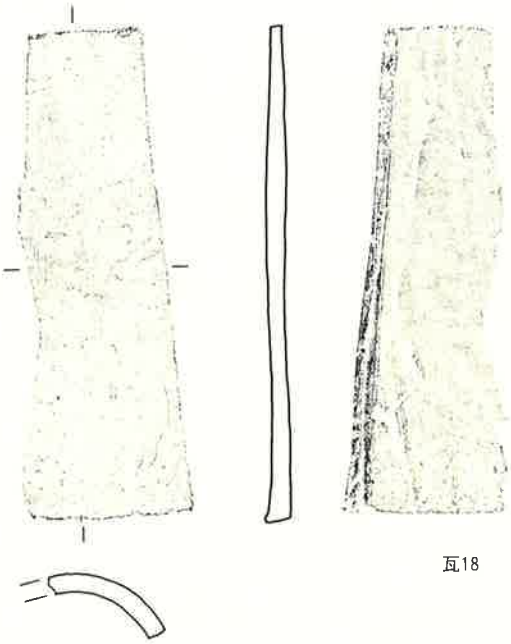
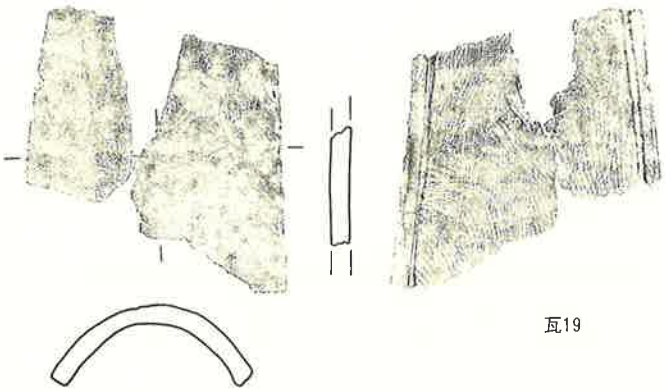


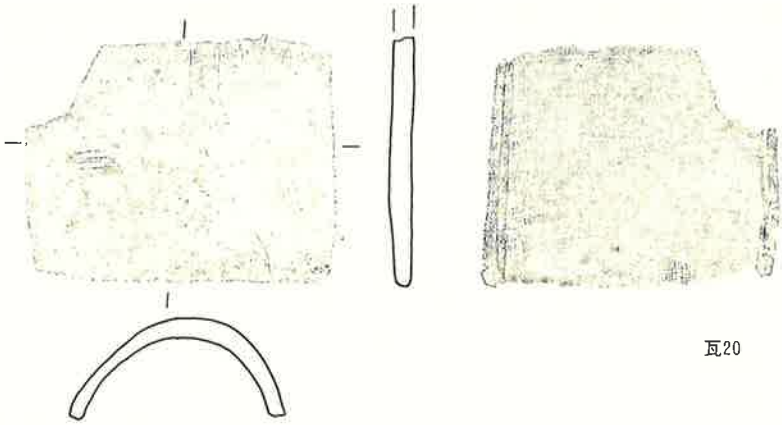
Fig.38　瓦(3)



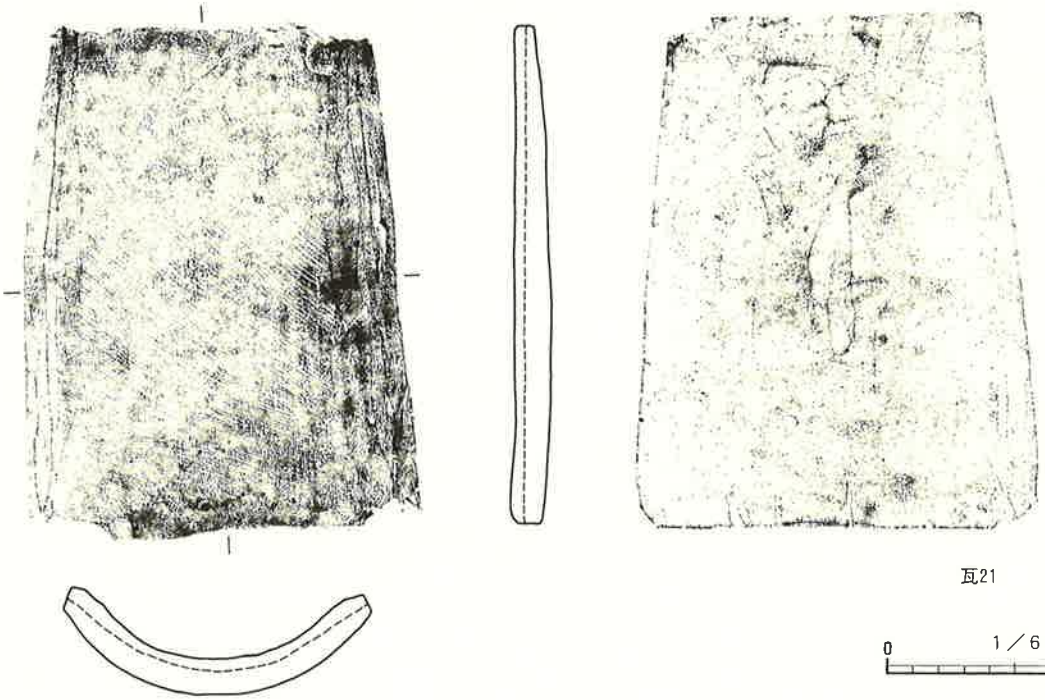
瓦18



瓦19



瓦20



瓦21

0　1／6　20cm

Fig.39　瓦(4)

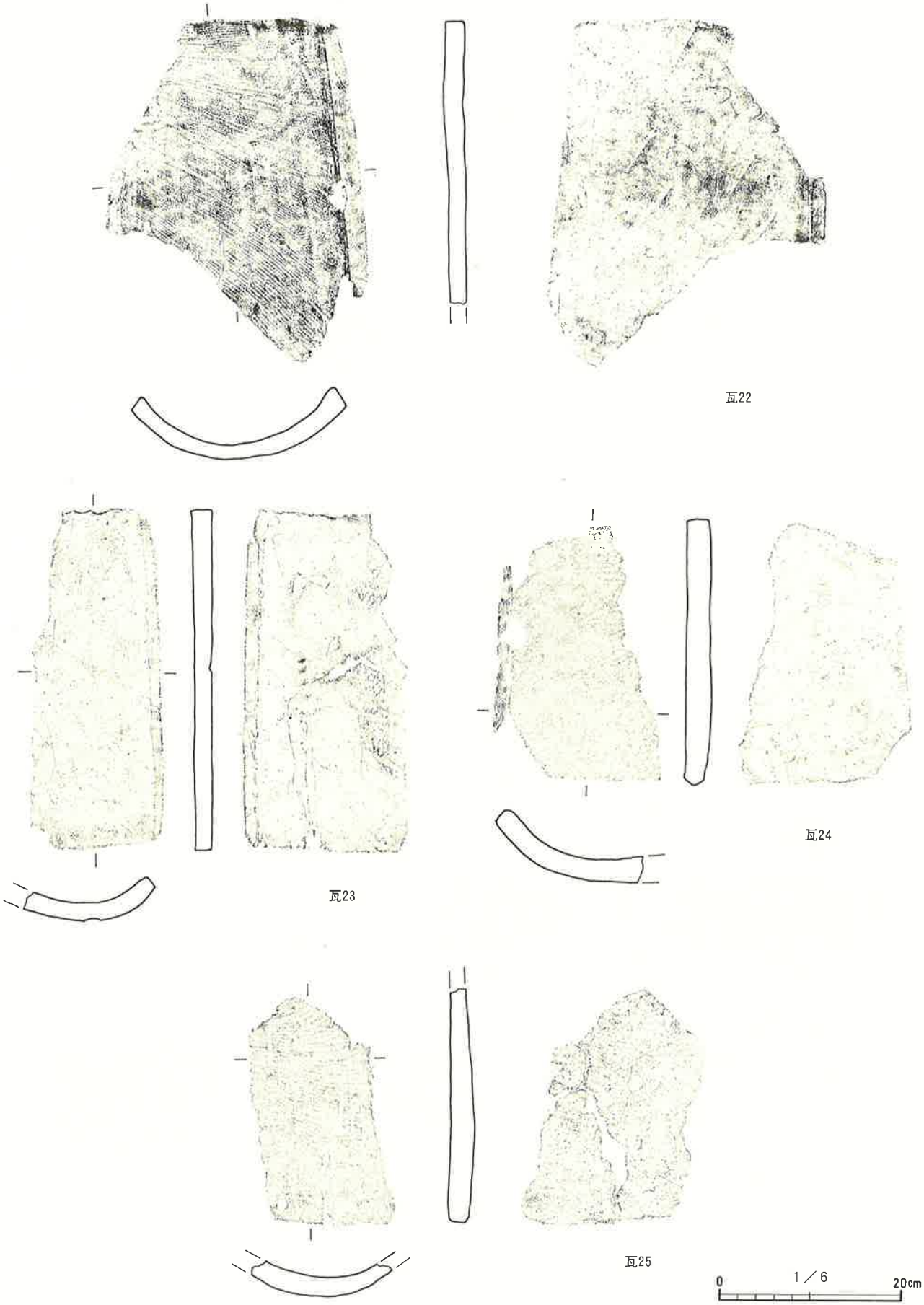


Fig.40　瓦(5)

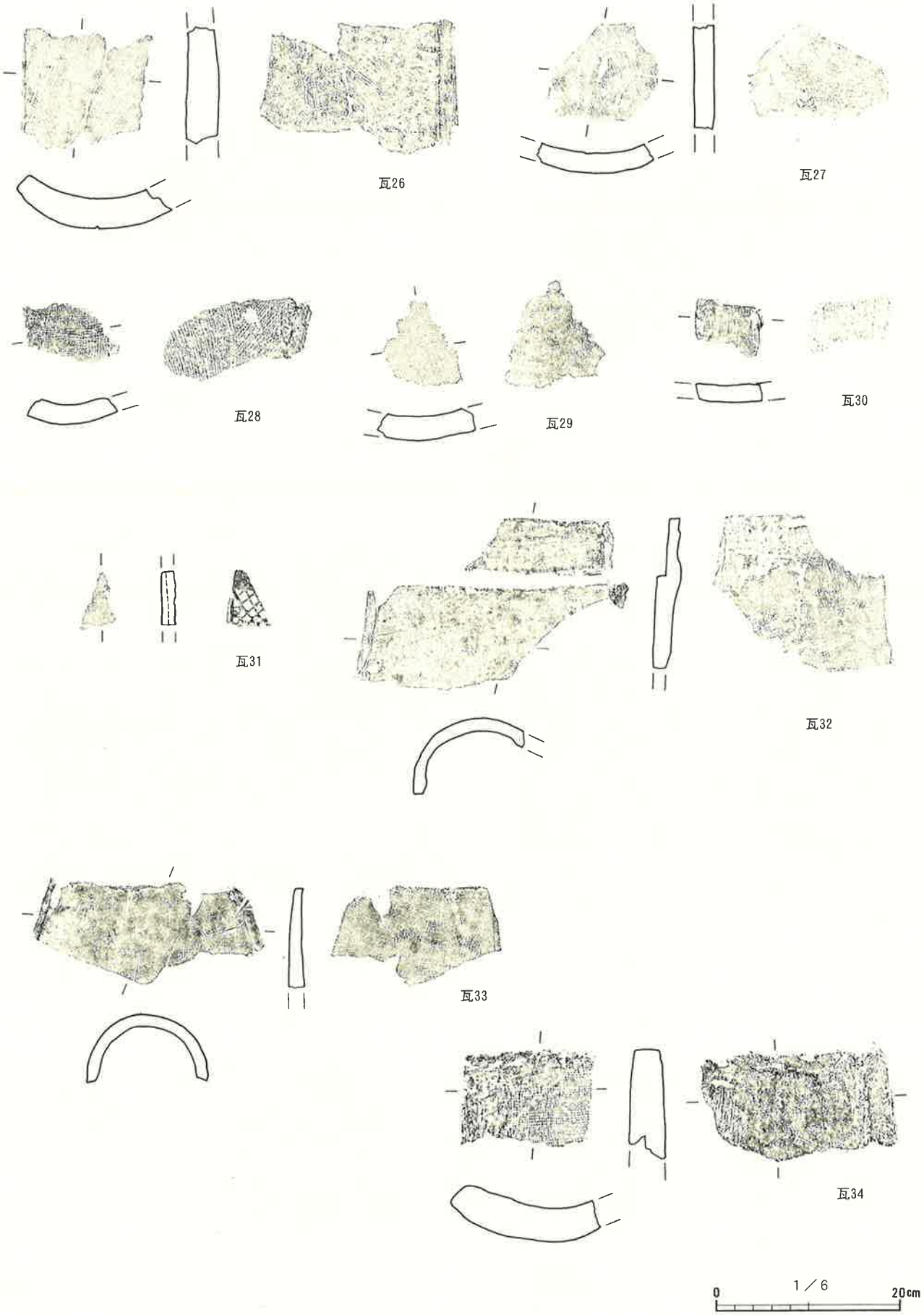


Fig.41　瓦(6)

Ｊ－１号住居跡全景（南から）

Ｊ－１号住居跡埋設土器（南から）

Ｊ－２号住居跡全景（北から）

Ｊ－２号住居跡遺物出土状況（北から）

Ｊ－２号住居跡埋設土器（北から）

Ｊ－２号住居跡埋設土器セクション（北から）

Ｕ－１号埋設土器全景（北から）

Ｕ－１号埋設土器セクション（西から）

調査区全景（南から）

H－1・7号住居跡全景（西から）

H－2号住居跡全景（西から）

H－2号住居跡竈内遺物出土状況（西から）

H－2号住居跡竈全景（西から）

H－３号住居跡全景（西から）

H－３号住居跡竈全景（西から）

H－４号住居跡全景（西から）

H－４号住居跡竈全景（西から）

H－４号住居跡竈内遺物出土状況（西から）

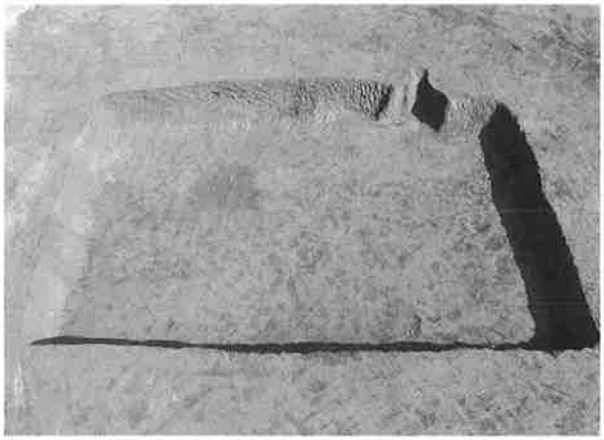
H－４号住居跡竈正面（西から）

H－５号住居跡全景（西から）

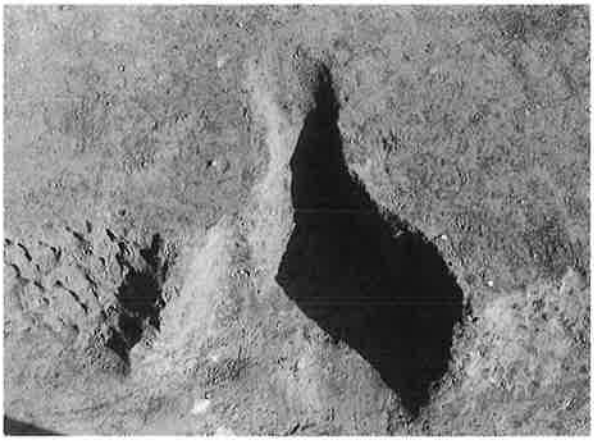
H－５号住居跡竈全景（西から）

H－6号住居跡全景（北西から）

H－8号住居跡全景（西から）



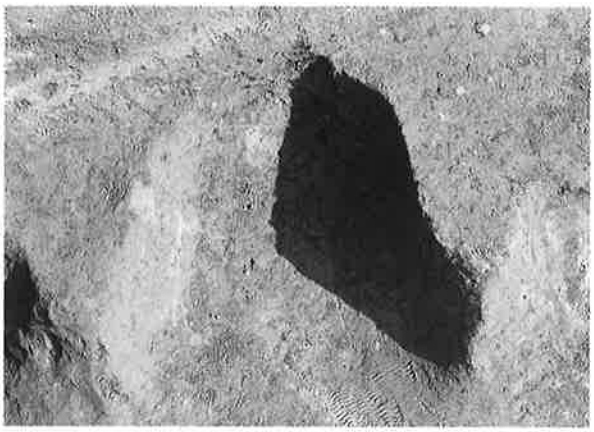
H－9号住居跡全景（西から）



H－9号住居跡竈全景（西から）

調査区北側遺構検出状況（南から）

H－10号住居跡全景（西から）



H－10号住居跡竈全景（西から）

H－11号住居跡全景（西から）

H－11号住居跡竈全景（西から）

H－11号住居跡竈左袖前遺物出土状況（西から）

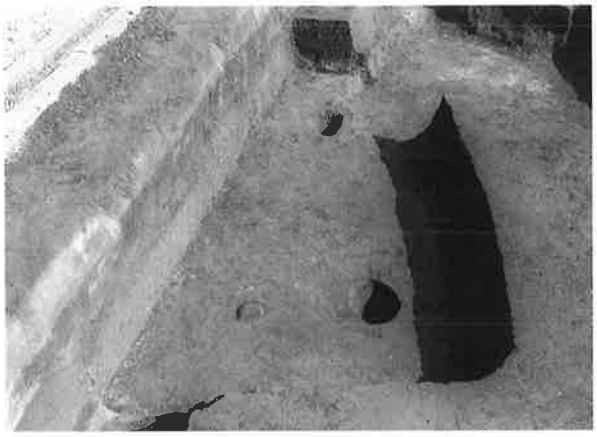
H－11号住居跡P_5全景

H－12号住居跡全景（西から）

H－12号住居跡竈全景（西から）

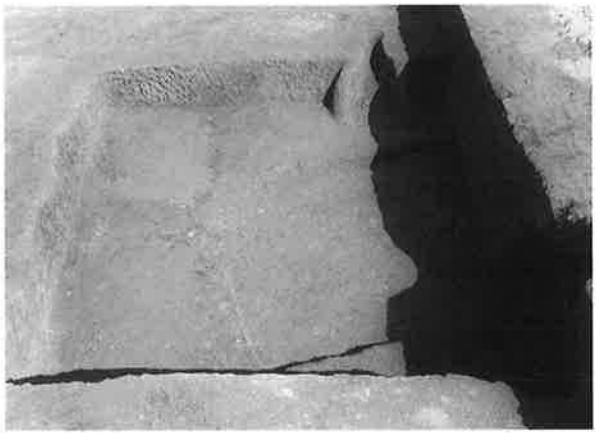
H－14号住居跡全景（西から）

H－14号住居跡竈全景（西から）



H－16号住居跡全景（西から）

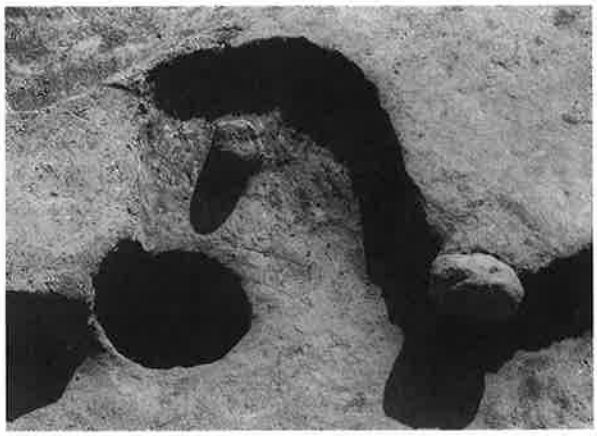
H－16号住居跡遺物出土状況（東から）



H－17号住居跡全景（西から）

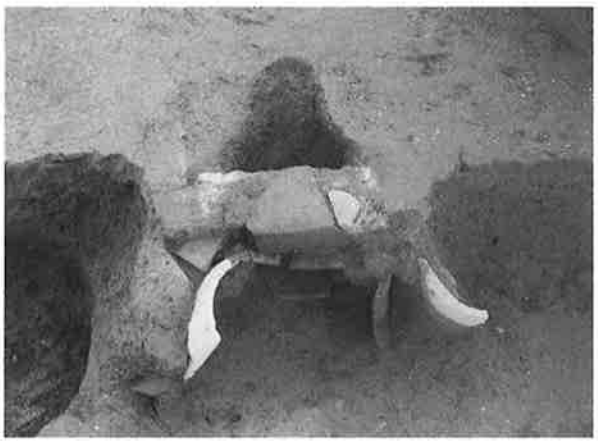
H－17号住居跡竈全景（西から）

H－18号住居跡全景（西から）



H－18号住居跡竈全景（西から）

H－19号住居跡全景（西から）

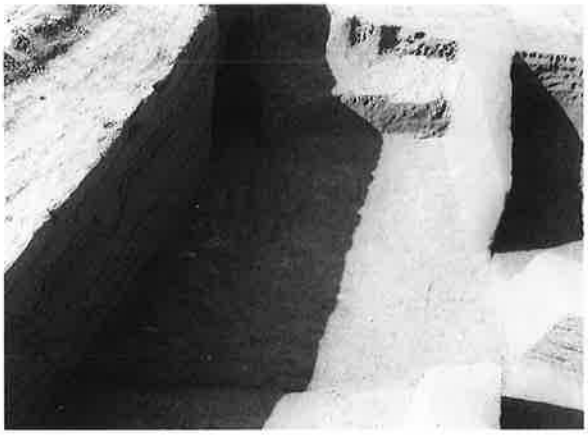


H－19号住居跡竈全景（西から）

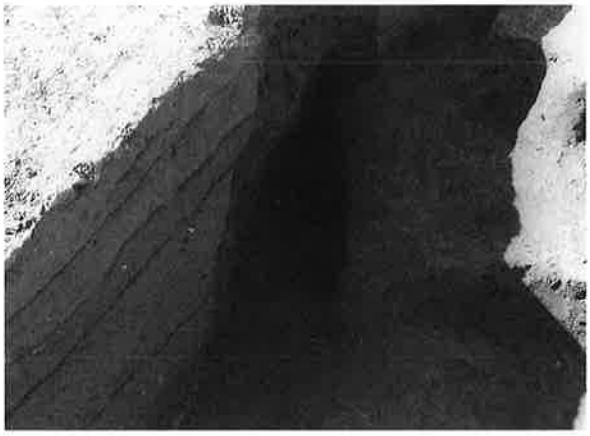
H－19号住居跡竈正面（西から）

H－19号住居跡竈遺物出土状況（西から）

H－19号住居跡P5遺物出土状況（北から）



Ｈ－20号住居跡全景（東から）



Ｈ－20号住居跡竈全景（東から）

Ｗ－１号溝跡セクション（西から）

Ｗ－２号溝跡全景（南から）

Ｗ－３号溝跡全景（北から）

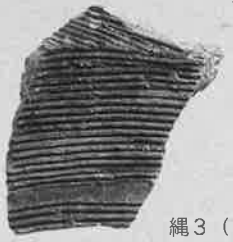
Ｄ－11号土坑遺物出土状況（北から）

Ｉ－１号井戸跡全景（北から）

発掘作業風景

縄1（J－1）

縄2（J－1）



縄3（J－1）

縄5（J－1）

縄4（J－1）

縄6（J－1）

縄8（J－1）

縄7（J－1）

縄24（U－1）

縄9（J－2）

縄10（J－2）

縄11（J－2）

縄12（J－2）

縄13（J－2）

縄14（J－2）

縄15（J－2）

縄16（J－2）

縄17（J－2）

縄18（J－2）

縄19（J－2）

縄20（J－2）

縄21（J－2）

縄22（J－2）

縄23（J－2）

1 (H－1)

2 (H－1)

3 (H－1)

4 (H－2)

5 (H－2)

7 (H－2)

11 (H－2)

8 (H－2)

9 (H－2)

10 (H－2)

19 (H－4)

14 (H－4)

15 (H－4)

17 (H－4)

18 (H－4)

21 (H－5)

22 (H－9)

23 (H－9)

24 (H－9)

25 (H－9)

26 (H－9)

27 (H－9)

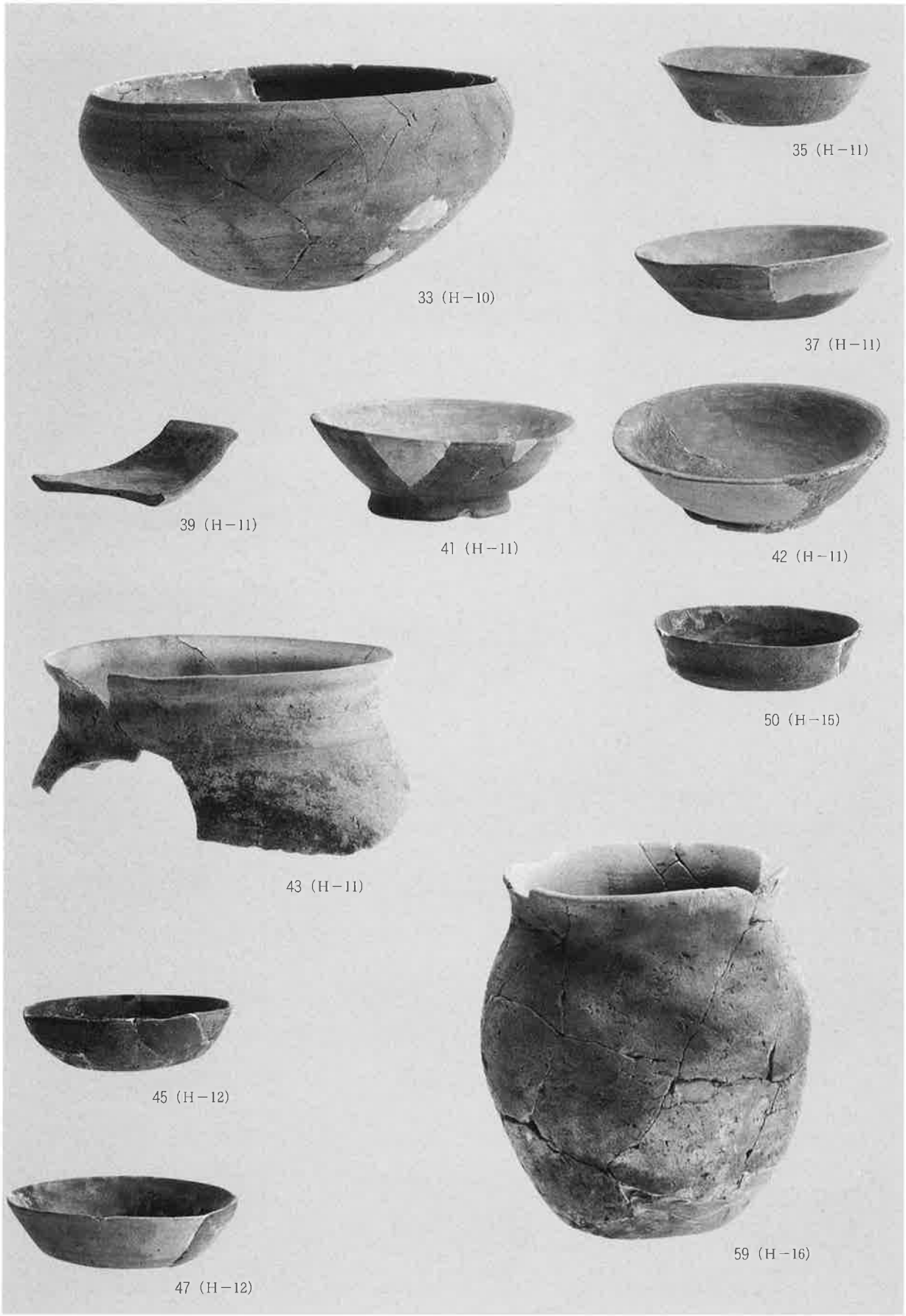
28 (H－10)

29 (H－10)

30 (H－10)

31 (H－10)

32 (H－10)


33 (H－10)
35 (H－11)
37 (H－11)
39 (H－11)
41 (H－11)
42 (H－11)
50 (H－15)
43 (H－11)
45 (H－12)
47 (H－12)
59 (H－16)

52 (H−16)

53 (H−16)

57 (H−16)

54 (H−16)

55 (H−16)

58 (H−16)

61 (H−18)

63 (H−19)

64 (H−19)

65 (H−19)

66 (H−19)

67 (H−19)

68 (H−19)

69 (H−19)

70 (H−19)

71 (H−19)

72 (H−19)

73 (H−19)

74 (H−19)

75 (H−19)

76 (H－19)

77 (H－19)

79 (H－19)

78 (H－19)

80 (H－19)

81 (H－19)

82 (H－19)

84 (H−20)

85 (H−20)

86 (H−20)

83 (H−19)

88 (H−21)

96 (W−3)

97 (W−3)

99 (D−9)

100 (D−11)

101 (D−11)

102 (D−11)

石器４（Ｊ－２）

石器１（Ｊ－１）

石器６（X45、Y125）

石器３（Ｊ－１）

石器２（Ｊ－１）

石器５（Ｊ－２）

石２（H－９）

石７（H－11）

石８（H－11）

石12（H－17）

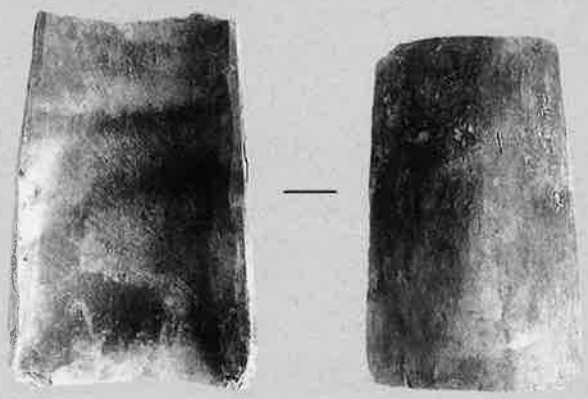
石15（H－21）

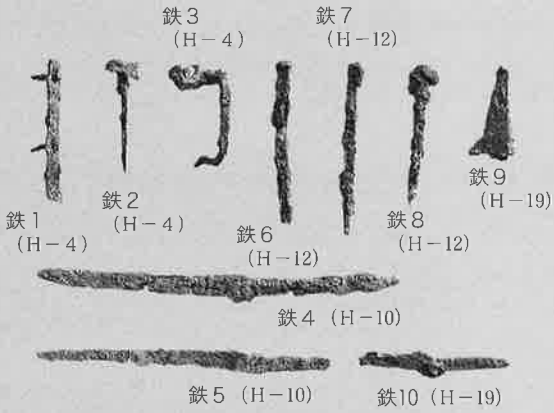
石10（H－16）

石５（H－10）

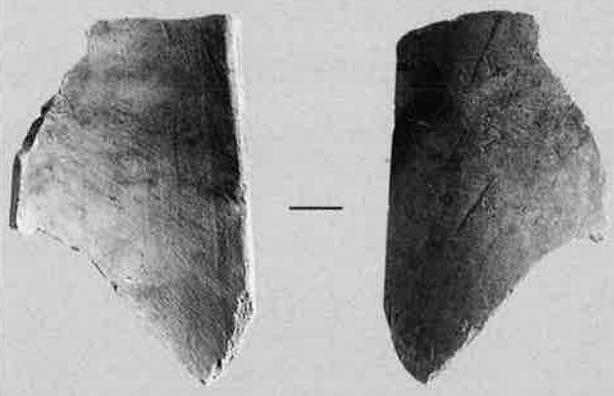
石３（H－９）

石11（H－16）

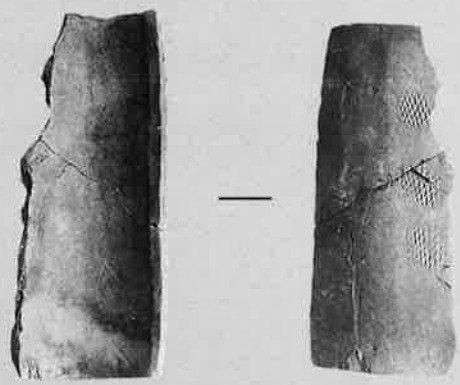




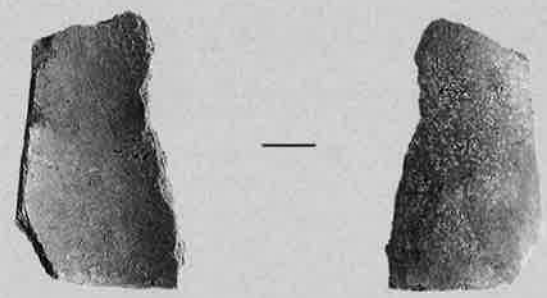
瓦21 (H－19)



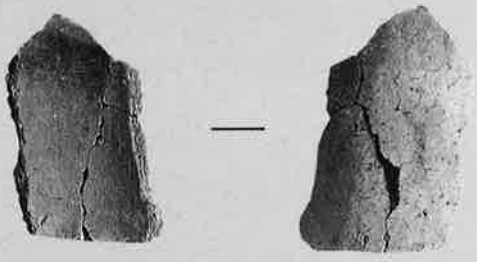
瓦22 (H－19)



瓦23 (H－19)



瓦24 (H－19)



瓦25 (H－19)

抄　　録

フリガナ	モトソウジャオウミイセキグン（4）
書名	元総社蒼海遺跡群（4）
副書名	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	近藤　雅順　・　池田　史人
編集機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
編集機関所在地	〒371―0018　群馬県前橋市三俣町二丁目10―2
発行年月日	西暦2006年3月3日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
モトソウジャオウミイセキグン 元総社蒼海遺跡群（4）	マエバシシモトソウジャマチ 前橋市元総社町1713 他	10201	17A130 -10	36°23′33″	139°01′38″	20050909 ～ 20051125	約448m²	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
元総社蒼海遺跡群（4）	集落跡	縄文時代 古墳時代 奈良・平安時代 中世	竪穴住居跡2軒、土坑2基 竪穴住居跡4軒 竪穴住居跡18軒、竪穴状遺構1、軒、溝跡4条 溝跡2条、井戸跡1基	縄文土器、石器 土師器、須恵器、石製模造品 土師器、須恵器、鉄製品 石製品・土製品、瓦	

元総社蒼海遺跡群（4）

2006年2月24日　印　刷
2006年3月3日　発　行

編集発行　前橋市埋蔵文化財発掘調査団
前橋市三俣町二丁目10―2
TEL　027―231―9531
印刷所　朝日印刷工業株式会社